



大学生の新・マナー常識

「忬度」と「損得」



大学生1,000人にきいた
「マナー」に関する意識調査 結果報告書

2017年12月

大学生意識調査プロジェクト(FUTURE2017)

公益社団法人東京広告協会

ごあいさつ

私達「大学生意識調査プロジェクト(FUTURE2017)」は首都圏6つの大学(青山学院、駒澤、上智、専修、千葉商科、日本)で構成され、広告やマーケティングを学ぶ学生が集まり、今年4月に発足した有志団体です。

今回、私達は調査テーマを『大学生のマナー』としました。2007年に同テーマである「マナー」に関する調査を実施してから10年、SNSやスマホなどテクノロジーが大きく進化し、マナーを取り巻く環境は大きく変わりました。このような環境変化の中、大学生のマナーに対する意識は変わったのか、多様な視点から明らかにしたいと考えました。

今年の7月に首都圏6つの大学の1~4年生の男女1,000人を対象にアンケート調査を実施し、4カ月にわたる集計・分析を経て、この調査報告書が完成いたしました。未熟な点が多々あるかとは思いますが、私達自身で調査・分析した『大学生のマナー』の意識が、少しでも皆様のお役に立つことを願っております。

また、この調査を通して、他のメンバーとの交流を深められたことや、実際にマーケティングリサーチを行い学べたことは、私達にとって大変貴重でかけがえのない経験となりました。

このプロジェクトを進めていくにあたってご支援くださった各大学のゼミの先生方、公益社団法人 東京広告協会の高堀大介氏、ご多忙の中、アドバイザーとしてご指導くださいました(株)博報堂の石寺修三氏、吉田英一郎氏、古賀晋氏、寺前慎太郎氏、ならびに(株)東京サーベイ・リサーチをはじめ、ご支援くださいました全ての皆様に心より御礼申し上げます。

2017年12月
大学生意識調査プロジェクト(FUTURE2017)一同

この「大学生意識調査プロジェクト」は実践的にマーケティングリサーチを学びたいという大学生有志の要請に応えて協賛・指導してきたもので、今回で第23弾となります。例年に引き続き、調査企画の立案、調査設計、調査票の作成、実査、集計、分析にいたるまでの一連の作業全ては、東京広告協会指導のもと大学生自らの手で行いました。

今回の調査では『大学生のマナー』に対する意識や実態に焦点を当てています。設問については、大学生ならではの発案がみられ、回答にも大学生の正直な意識が浮かび上がり、大変興味深い分析が得られたものと自負しております。この結果が皆様の日ごろの活動の一助となれば、誠に幸いです。

最後になりましたが、昨年に引き続いて一連の作業にご指導、ご協力頂いた、(株)博報堂の石寺修三氏、吉田英一郎氏、古賀晋氏、寺前慎太郎氏。ならびに(株)東京サーベイ・リサーチをはじめ、ご支援くださいました全ての皆様に厚く御礼申し上げます。

2017年12月
公益社団法人 東京広告協会 広報委員会

もくじ

ごあいさつ	1
発刊に寄せて ～参加大学のゼミナール指導担当教授より～	3
調査設計	4
調査結果の概略	5
寄稿 ～調査結果を読んで～（日本大学 商学部 教授 相原修）	17
定点観測	18
調査結果の詳細 ～全設問の結果一覧～	19
活動報告 ～個性豊かな私たちの236日間の物語～	77
プロジェクトを終えて ～参加メンバーよりひとこと～	79
付)調査票	94

発刊に寄せて

～参加大学のゼミナール指導担当教授より～

電車の中で「空気読めよー」と大声をあげる姿を見て、「空気は読むが、周囲を見ない」のが最近の若者の特徴だと感じていたが、今回の調査結果はそれを傍証するようで興味深い。現代の若者は、明確にウチとソトを切り分けているようである。しかも、その線引きが世代や職業といった大きなレベルではなく、友人か否かという極めて局所的な基準に基づいて行われている。そこには、ジェネレーションギャップとは明らかに異なる社会的な分断があるように思えてならない。現在私たちは、環境問題、社会保障、国際的な政治的緊張といった大きな困難に直面している。このような問題の解決に向けて私たちは協調できるのだろうか。今回の調査結果からこのような心配をしてしまうのは誇大妄想なのかもしれない。ただ、単に公共の場での個別具体的な行動の是非だけでなく、その判断基準にまで踏み込んだ学生だからこそ、「マナー」という観点から融和や分断という問題にも目を向けてほしい。その手がかりを多く含んだ調査結果だと思う。そのような意義ある調査を、テーマ設定から報告書の作成までやり遂げた参加学生に賛辞を送りたい。それとともに、長期にわたり学生たちをご指導・ご支援くださった博報堂の皆様、ならびにご協賛・ご指導いただいた東京広告協会の皆様に心からお礼を申し上げます。

青山学院大学 経営学部 教授 芳賀康浩

年記者が「最近の若者はマナーがなっていない」と愚痴をこぼすのは、いつの時代にも共通の現象で、江戸時代にも似たような記述が残っているらしい。しかし、本当に世代が下るごとにマナーが悪くなり続けているのならば、とくに底を下げているはずである。実態は、「マナー」とはその時代(世代)に共通する「他者への配慮に関する暗黙のルール」なのだと思う。世代が変わると暗黙のルールが変わるので、他の世代から見ると「マナーが悪く」見えるということだろう。しかしながら、今回の調査結果を見て改めて思うのは、最近の若者のマナーの「範囲」が、友人という狭い世界に限定されすぎているということである。確かに、スーツを着ないことは楽である、授業中にメモを取る代わりにスライドの写真を撮るのは楽である。しかし、「自分にとって合理的」であることをした時、その相手がどう感じるだろうかということに想像力を働かせることが出来れば、マナーと合理性とは全く独立に考えるべきであるという、当たり前のごとくに気づけるのではないだろうか。最後に、毎年ご指導をいただいている(社)東京広告協会、(株)博報堂の皆様に、この場を借りて御礼を申し上げます。本年度も熱心なご指導を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

上智大学 経済学部 准教授 杉谷陽子

大学生が誰に対して寸度するのか。この問いに今年の結果は集約される。特に、寸度する相手として教員がカウントされていないことには寂しさを感じる。彼らにとって、一般的に教員という存在は関わりが少ない他者であるのだろう。結果全体を通して、彼らにとっての意識すべき相手、そうでない他者という構図が明瞭に読み取れた。大学生の世界の捉え方が垣間見える。おそらく、社会に出て彼らの世界が広がれば、徐々に意識する相手も広がるのだろう。こうした彼らの意識は、過去2年の調査でも感じたことであり、別の視点から再確認できた。「マナー」というテーマは2007年にも取り上げられているが、今年の結果からは10年前と本質的に彼らの意識が変化していないようにも感じた。他者の捉え方、マナーへの意識として大学生の普遍的な意識があるのかもしれない。スマホなど技術変化への対応という新たな課題に対しての振る舞いは定まりきっていない様子であり、例えば10年後にまた同じ調査をすると面白いように思った。今年で23回を数える継続的なプロジェクトだからこそ面白いと思う。今年も多大なる時間を費やし、学生への指導にあたっていただいた東京広告協会ならびに博報堂のスタッフの皆様に心よりお礼を申し上げます。

千葉商科大学 サービス創造学部 准教授 松本大吾

今回は「大学生のマナー」を取り上げている。東京オリンピックを見据えた、良いテーマ設定だと思う。まず、学生が自分達のマナーの悪さを自覚していることは意外であった。さらに、グローバルな環境にあるなかで、時代遅れのマナーや取り組むべきだと思ふ内容も面白かった。様々な行動の実践状況も興味深い。教員として気になるのはやはり、「授業中」の行動である。授業中に無関係のことでスマホなどをいじる人が87.7%、私語をする人が67.9%もいる！ やっぱりと思いつつ、こんなに多いのだと実感した。私は授業中に、(たぶん他の教員よりも)私語とスマホについてうるさく注意している。そのため、「自身が思わずやってしまうこと」と「周囲がしても気にならないこと」を合わせて深掘りした分析も、学生の思考が理解できて非常に面白かった。ただ、私の興味が高いからこそ、学生はこういった行動について、周囲ではなく自分自身ではどのように感じているのかも知りたいと思った。

また、FUTUREが毎年継続して行っているからこそできる、比較のテーマが私は大好きである。10年前と比べ、携帯電話に関するマナーが悪化したと感じる人が増え、一方目上の人へのマナーや交通機関でのマナーが悪化したと感じる人は減っている。なぜ、目上の人や交通機関でのマナーは良い方へ変化したのであろうか。この辺りも、ぜひ解釈を知りたい。最後に、今年も、長期間にわたり丁寧な指導をして頂きました博報堂の皆さま、および東京広告協会の皆さまへ心よりお礼申し上げます。

駒澤大学 経営学部 准教授 中野香織

今年度の大学生意識調査プロジェクトのテーマは、『「マナー」に関する意識調査』『大学生の新・マナー基準「寸度」と「損得」』である。このテーマは1999年度調査と2007年度調査に続き、今回が3回目である。2007年度調査のコメントを読み返したら、大学生のマナーは自分の経験からしてさほど変化していないと書いていた。さて今回はどうだろう。大学生のスマホ普及率はおそらく90%台の後半に達していると思われる。授業中に新聞や雑誌を読んでいる学生は皆無だが、スマホはよくいじっている。中にはイヤホンをしたまま授業を受けている(いるだけ?)学生もいる。一方で挨拶はきちんとできるし、身なりもおしゃれで悪くない。さて何が変わったのか。そのあたりは報告書の中身に任せよう。

ある方が「マナー」とは相手に対しての思いやり、と言われたことがある。印象深い言葉だ。

今年も半年間にわたり学生諸君はよくがんばったし、多くのことを学んだと思う。そして、貴重な時間を削ってまでご指導をいただいた博報堂のスタッフの皆様、ならびにご協賛いただいた東京広告協会様に衷心よりお礼申し上げます。

専修大学 経営学部 教授 石崎徹

本当に長い間フューチャーに私のゼミの学生が参加していましたが、日大での定年次来年度になり、今回が最後の参加となりました。昔は成蹊大学経済学部の学生が参加していましたが、成蹊大学で定年を迎えたため新しく赴任した日大商学部の学生諸君に参加を呼びかけ継続させていただきました。両大学の学生共にフューチャーの活動を通して成長していくのが目に見えて分かるので、毎年の参加が楽しみでした。フューチャーに参加したことがきっかけで広告関係や調査会社に就職を決めた学生もいますし、議論で鍛えられたおかげで就活の面接でも憶することがなかったということを多くの学生から聞きました。特に日大は「自主創造」を基本理念としており、フューチャーの活動は、まさにテーマ決めから分析まで自分たちで行うものですから、理念にピッタリの活動で、とてもやりがいがあったと思います。その時々々のテーマも興味深く、時代を反映した結果となっており継続調査の有効性も認識いたしました。フューチャーで暖かく指導して下さったスタッフの方々に心から感謝いたします。

日本大学 商学部 教授 相原修

調査設計

● 調査目的 : ワールドカップで日本人サポーターが試合後にゴミを拾ったことが世界から賞賛された、というニュースは記憶に新しいが、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催の決定に伴って分煙化が進み、ゴミの分別も世界一細いといわれている日本はマナー先進国として定着しつつある。その一方で、ポケモンGOで話題となった「歩きスマホ」に代表されるテクノロジーの進化等によって露見した新たなマナーについて多く報道されるようになった。このようなまだ制度化されていないマナーに関して現在の大学生はどのような意識をもっているのだろうか。現在の大学生のマナーに関する意識を本調査によって紐解いていきたいと思う。

● 調査期間 : 2017年7月10日～7月31日

● 調査方法 : アンケート自記入法

● 調査対象者 : 首都圏の大学に在籍する1～4年の男女

● 調査対象大学 : 青山学院大学
駒澤大学
上智大学
専修大学
千葉商科大学
日本大学

● 調査対象数 : 1,008票

● 集計数 : 1008票(割り付けは以下の通り)

		青学	駒澤	上智	専修	千葉	日本	計
男性	1年生	21	21	21	21	21	21	126
	2年生	21	21	21	21	21	21	126
	3年生	21	21	21	21	21	21	126
	4年生	21	21	21	21	21	21	126
女性	1年生	21	21	21	21	21	21	126
	2年生	21	21	21	21	21	21	126
	3年生	21	21	21	21	21	21	126
	4年生	21	21	21	21	21	21	126
計		168	168	168	168	168	168	1008

● 調査主体 : 大学生意識調査プロジェクト (FUTURE2017:Five Universities in Tokyo, Uni-Research)

● 指導 : 公益社団法人 東京広告協会

● 集計・分析協力 : 株式会社 東京サーベイ・リサーチ

調査結果の概略

第1章

デジタルは進化、マナーは悪化

～悪いのは“大学生”、でも“自分”じゃない矛盾～

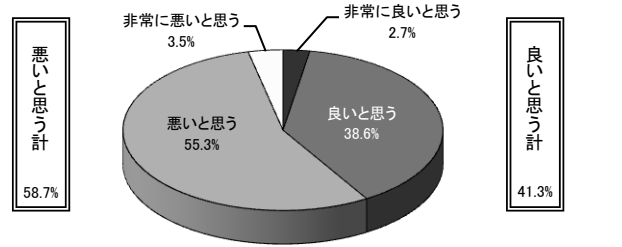
本章では、現在の大学生の“世の中のマナー”に対する意識をみていきたい。彼らは、“世の中のマナー”をどうみているのだろうか。

はじめに、最近の世の中のマナーについて、どう思うか聞いたところ、「悪いと思う(計)」と回答した人が全体の約6割と高い結果となった(図表1)。さらに、世の中のマナーが「悪いと思う(計)」と回答した人に対して、以前と比べ、最近の世の中のマナーがどのように変化したか聞いてみると、「悪くなった(計)」、「変わらない」と回答した人を合わせると全体の約9割という結果となった(図表2)。これらのことから、大学生は世の中のマナーを以前から悪いと思っており、現在もなお悪いと感じているようだ。

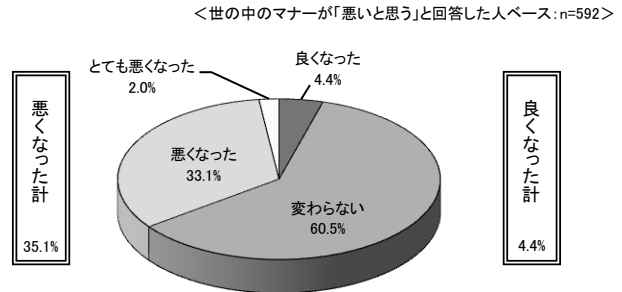
それでは大学生は、何をもって世の中のマナーが悪くなったと思っているのだろうか。カテゴリー別のマナーの良し悪しについて聞いてみると「SNSにおけるマナー」「携帯電話に関するマナー」が「悪くなったと思う」と回答した人がそれぞれ全体の約6割、次いで、「インターネットに関するマナー」が約5割という結果となった(図表3)。また、10年前に聞いた同様の質問の結果と比較すると、「電車やバスなど公共交通機関におけるマナー」を「悪くなったと思う」と回答した人は、約21ポイント減少する一方で、「携帯電話に関するマナー」については「悪くなったと思う」と回答した人が約11ポイント増加するという結果となった(図表3)。これらのことから、大学生にとって世の中のマナー悪化の理由は質的に変化しており、主にこの10年間で普及したスマホやSNS等のマナー悪化が世の中のマナーを悪化させていると現在の大学生は感じているようだ。

では、そんな“世の中のマナー”の印象を作っているのは一体誰なのだろうか。「今、マナーが悪い」と思うのは誰か聞いたところ、「大学生・短大生・専門学生」が約7割と最も多く、次いで「高校生」が約6割、「中年以上のサラリーマン」が約5割と続く結果となった(図表4)。さらに、「最もマナーが悪い」と思う人々を聞いたところ、「大学生・短大生・専門学生」が約3割と最も多いという結果となった(図表4)。これらのことから、今どきの大学生は、世の中のマナー悪化の原因が大学生自身によるものだと思っているようだ。

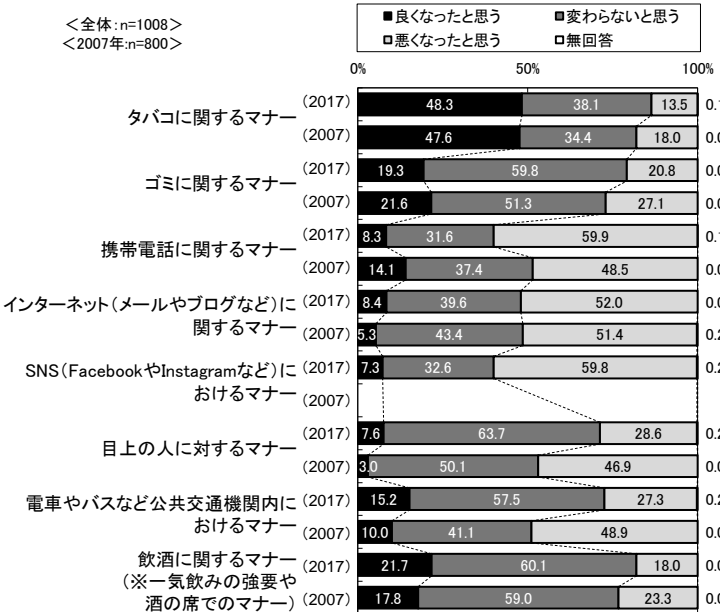
図表1 世の中のマナーに関する意識



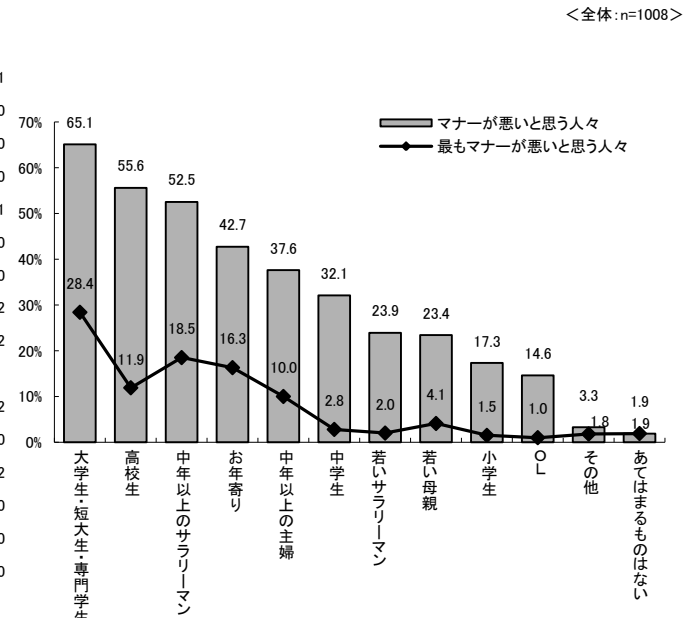
図表2 世の中のマナーの変化



図表3 世の中のマナー変化の理由



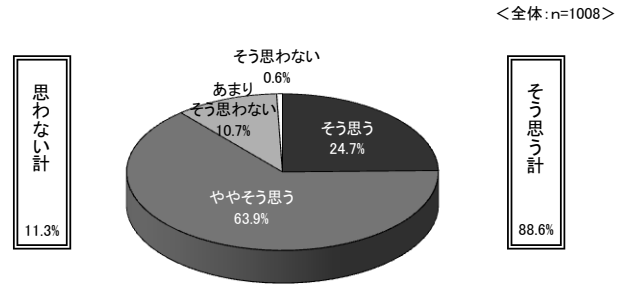
図表4 世の中のマナーの印象を作っている属性



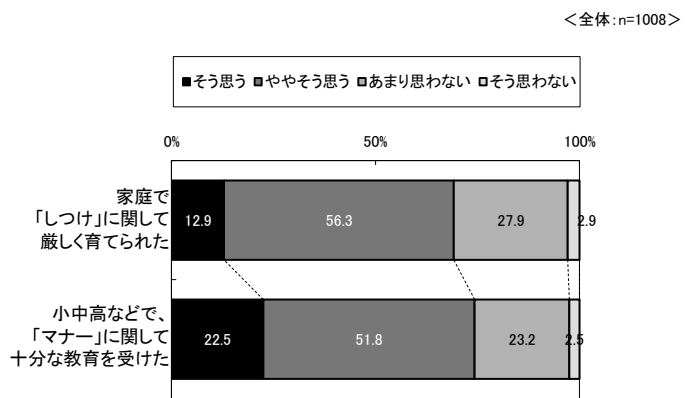
では、大学生自身のマナーはどうだろうか。あなた自身が公共の場や集団の中など社会生活を送る上で、マナーをしっかり守っていると思うか聞いてみると「そう思う(計)」と回答した人が約9割と高い結果となった(図表5)。また、家庭での「しつけ」に関して、「厳しく育てられた(計)」と回答した人は、全体の約7割(図表6)、小中高で「マナー」に関して十分な教育を「受けたと思う(計)」と回答した人も全体の約7割という結果となった(図表6)。これらのことから、世の中のマナーを悪くしているのは大学生と指摘しつつ、自分自身は家庭や学校でしつけや教育を受けてきた自負もあり、マナーをしっかり守っているという全く逆の結果となった。ちなみに「マナーが悪いのは大学生」と回答している人のうち、自分自身はマナーを守っているかという質問に「そう思う(計)」と回答した人は約9割も存在していることから、マナー遵守に関して世の中の大学生と自分を区別している可能性が高いことがわかった(図表7)。

以上のことから、大学生は世の中のマナーはデジタル化の進展により悪化していると感じている。また、それをもたらしている主体は大学生自身だと捉えつつも、自分はマナーを遵守しているという一種の矛盾を抱えており、世の中の大学生のマナー悪化を客観的に捉えている側面もあるようだ。

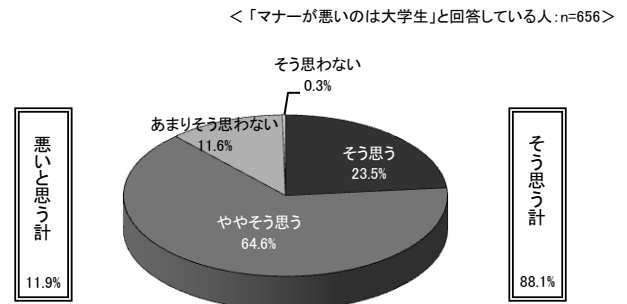
図表5 大学生自身のマナー遵守に関する意識



図表6 しつけやマナー教育に関する自己評価



図表7 「世の中のマナーの印象を作っている属性×自身のマナー遵守の有無



第2章

大学生のマナー観に“グレー・ゾーン”あり

～世の中とは基準がズれる、大学生のスマホ利用～

前章では、世の中のマナー悪化の要因が大学生にあると指摘する一方で、自身はマナーを遵守しているという自己矛盾について触れたが、本章では、そんな大学生の具体的なマナー観についてみていきたい。

まず、現在の大学生が世の中で一般的にタブーとされているマナー違反についてどの程度認知しているか聞いてみると、「エスカレーターで歩くのはダメ」以外の多くの項目において「知っている」と回答した人が全体の9割を超す結果となった（図表8）。これらのことから、マナーに関する知識はしっかりもっているようだ。さらに、マナーに関する意見について「きちんとマナーを守る人は、カッコいいと思う」について「そう思う（計）」と回答した人が全体の約9割（図表9）、「きちんとマナーを守った方が、モテると思う」が約8割

（図表9）とマナー遵守をポジティブに捉える意見までもっている。その一方で、各シチュエーションにおける様々な行動の実践状況について聞いてみるとこれまでマナー優等生的な大学生の意外な側面がみえてきた。具体的には、「する／あてはまる」と回答した人は、『電車内』において「優先席近辺でスマホをいじる」が約8割、『街頭』でも「歩きながらスマホをいじる」が約9割、『授業中』でも「携帯電話を切らない」が約9割という結果となった。また、「通信・SNS」においては、10項目中7つの行動について約半数以上の人が「する／あてはまる」という回答をする結果となった（図表10：P9に記載）。さらに、「やってはいけないと思いついながらも、ついやってしまうこと」をみても「なるべくしないように気をつけているものの、LINEや地図アプリの利用時に歩きスマホをしてしまうこと」が1位となる結果となった（図表11）。これらのことから、旧来のマナー違反にあたるような行動は取っていない人が多い結果だったが、スマホやSNS周りのマナー違反とも受け取れる行為・行動は平気で行っている実態が浮き彫りとなった。

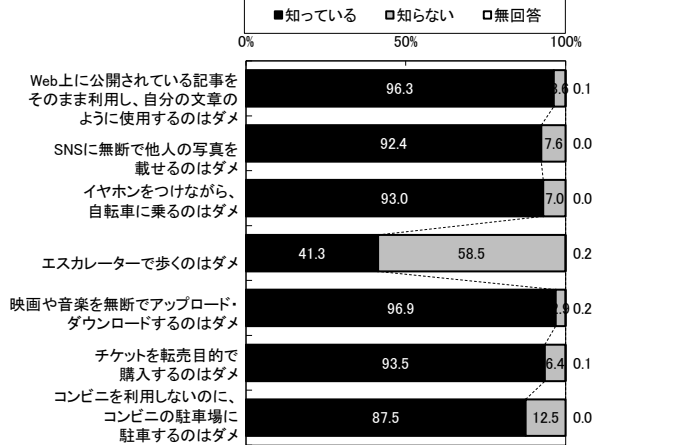
図表11 やってはいけないと思いついながらも、ついやってしまうこと

<全体:n=1008>

	やってはいけないと思いついながらも、ついやってしまうこと	人数
1位	なるべくしないように気をつけているものの、LINEや地図アプリの利用時に歩きスマホをしてしまうこと	298人
2位	法律上はしてはいけないと知りつつ、イヤホンを着用しながらの走行や二人乗りなど自転車のマナーが悪くなってしまうこと	114人
3位	急いでいるときにエスカレーターで歩いてしまうこと	88人
4位	信号を無視してしまうこと	79人
5位	ゴミを分別せずに捨ててしまうこと	44人

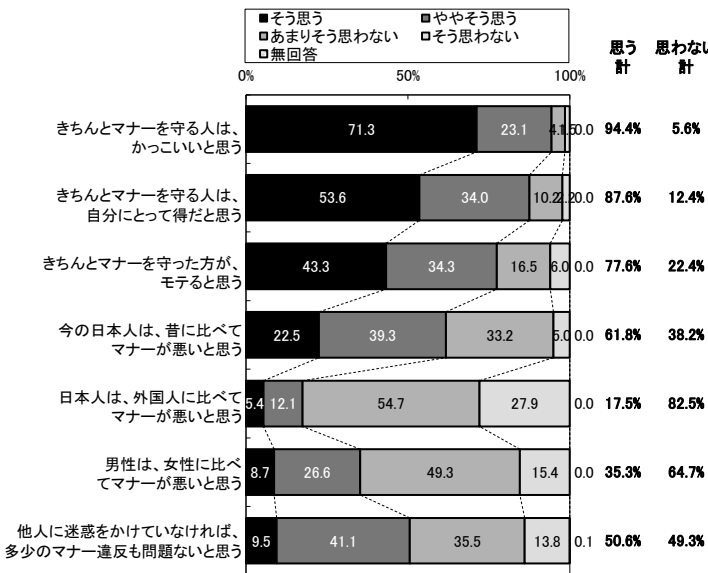
図表8 一般的にタブーと言われていることの認知

<全体:n=1008>



図表9 マナーに関する意見

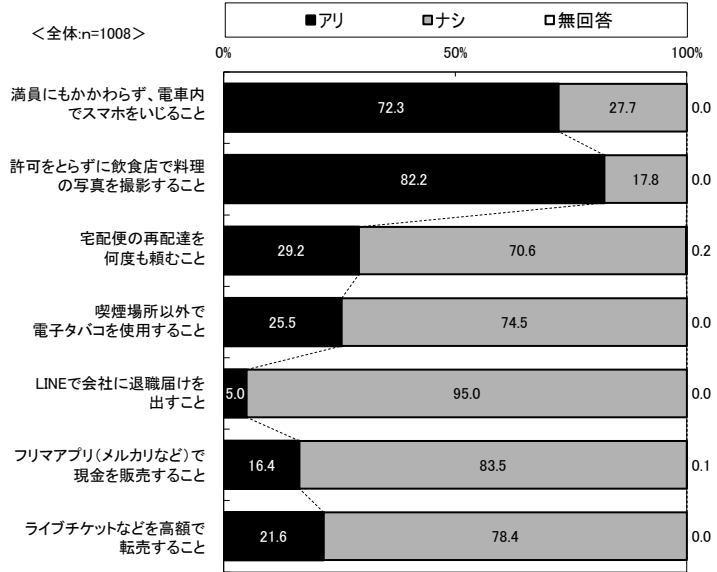
<全体:n=1008>



そこで、マナー違反か否か明確な判断がしにくい“グレー”な行動について、それぞれの許容度を聞いてみると、呈示した7項目中5つについては「ナシ」と回答する人が7割を超える結果となった。ただし、「許可をとらずに飲食店で料理の写真を撮影すること」について「アリ」と回答した人が全体の約8割、「満員にもかかわらず、電車内でスマホをいじること」について「アリ」と回答した人が全体の約7割という結果となり、やはり携帯電話やスマホに関わる行動において、世の中が「ナシ」と思うようなことも、「アリ」と評価する大学生の独特のマナー基準が垣間見られる結果となった(図表12)。

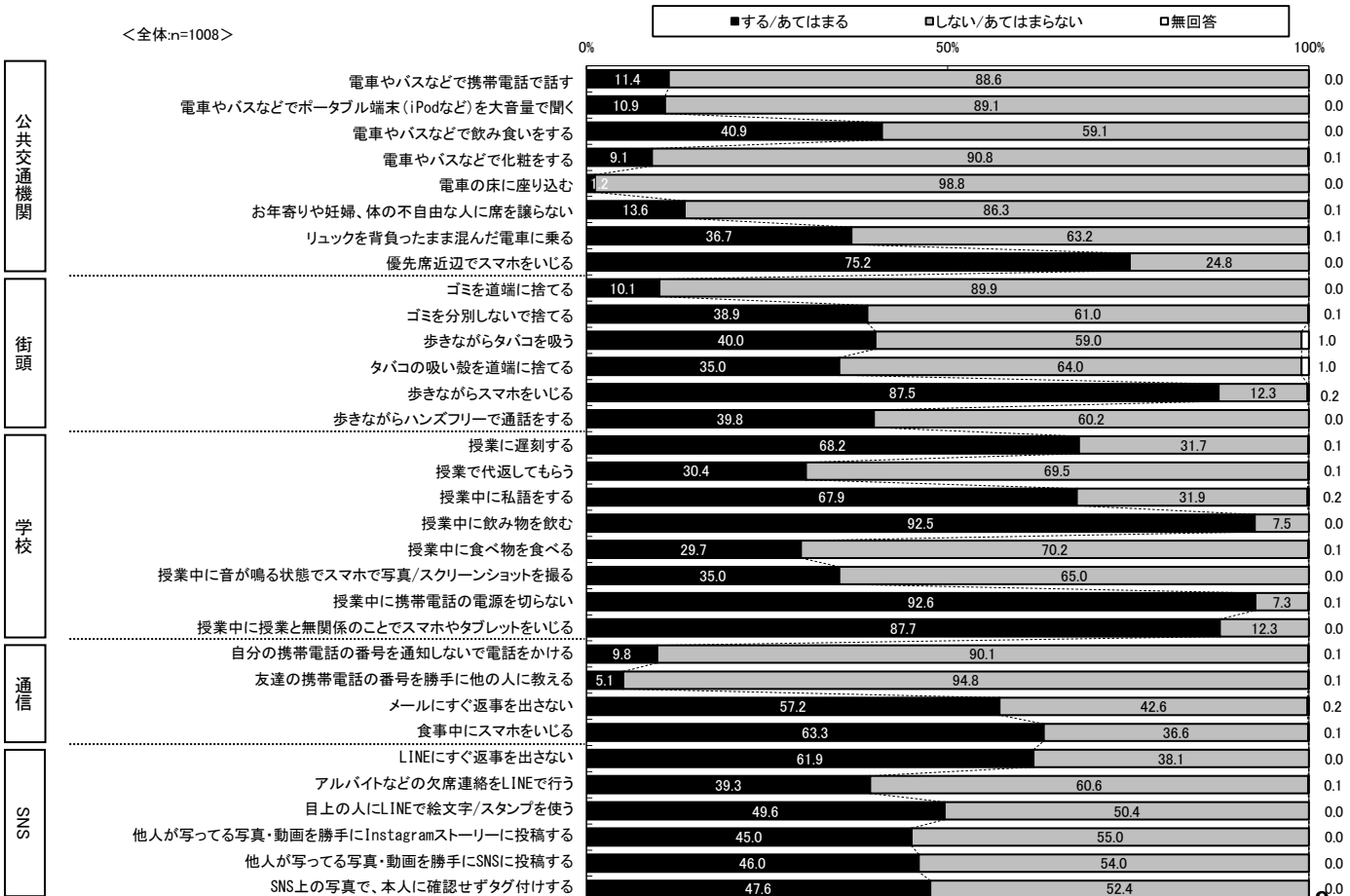
以上のことから、現在の大学生はマナーに関して一定の知識や一般常識は持っている。しかし携帯電話やスマホに関しては、世間からマナー違反ともとれる行為を“アリ”だと思っている。どうやら、一見マナー優等生にも思えた大学生だったが、実は世の中の基準とはズレた大学生独自の判断基準(=グレーゾーン)をもっているのかもしれない。

図表12 マナー違反か否か明確な判断がしにくい行動の許容度



図表10 各シチュエーションにおける様々な行動の実践状況

<全体:n=1008>



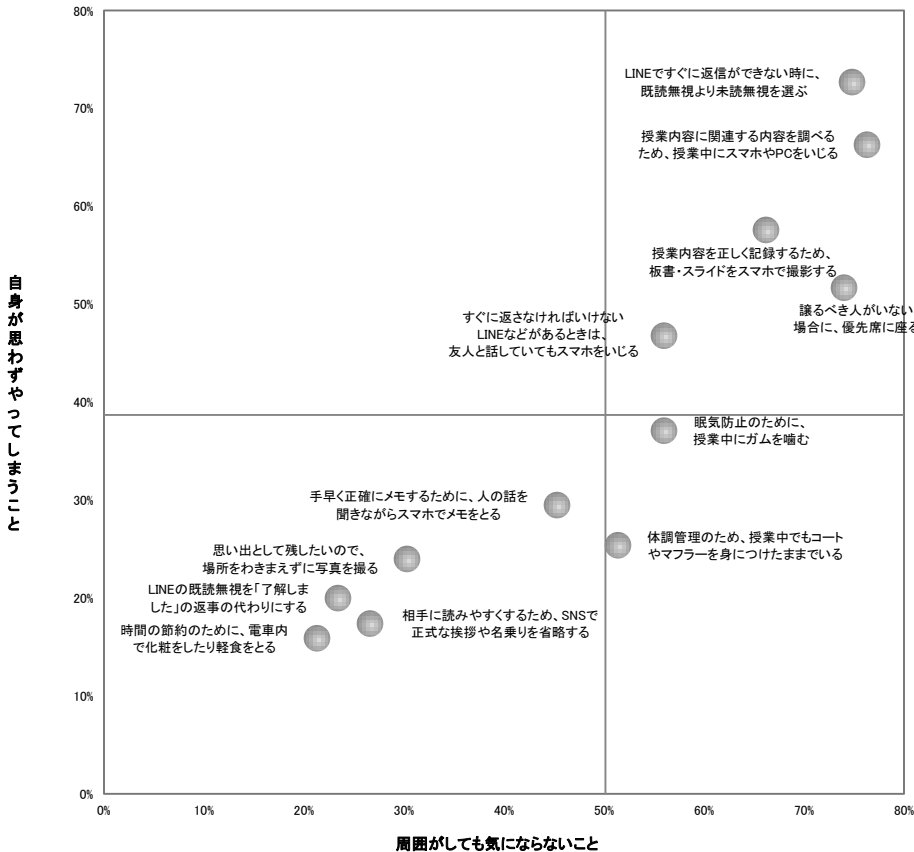
第3章

マナーの基準は、“世間の目”より“友達の目” ～人間関係に影響を与える違反はダメ、ゼツタイ。～

前章では、携帯電話やスマホの使い方に対する意識や行動において世間とはズレる大学生独自のマナー基準があることがわかった。本章では、この大学生独自のマナー基準について深掘りしていきたい。

まず、最近マナーが問われる事柄を「自身が思わずやってしまうこと」と「周囲がしても気にならないこと」の2点から評価してもらった。その結果、左下の象限（自分はやらない&他人がやると気になること）に注目すると、「時間の節約のために、電車で化粧をしたり軽食をとる」「思い出として残したいので、場所をわかまえずに写真を撮る」「手早く正確にメモするために、人の話を聞きながらスマホでメモをとる」等、周囲の人に明らかに迷惑な行為はやらないことがわかる。また、「LINEの既読無視を「了解しました」の返事の代わりにする」「相手に読みやすくするため、SNSで正式な挨拶や名前を省略する」といった普段SNSなどで繋がる友人・知人に対して無礼だと思われる行為もやらないことがわかった（図表13）。どうやら大学生がマナーを守る上で、周囲の目、特に友人・知人の目が影響を与えている可能性が高い。

図表13 「自身が思わずやってしまうこと」×「周囲がしても気にならないこと」



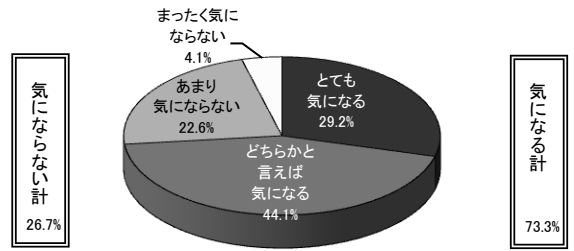
そこで日頃から、友人や知人からどう思われているか気になる方が聞いてみると、「気になる(計)」と回答した人は約7割と高い結果となった(図表14)。また、自分のことを空気が読めるタイプかどうかについても聞いてみると、「そう思う」と回答した人は全体の約7割とこちらも高い結果となった(図表15)。これらのことから、大学生は普段から友人や知人の目を非常に気にしており、マナーを守る際にもこの意識が強く働いているようだ。

また、このような意識をもった大学生同士なので、普段マナーに関して友人・知人に注意をすることが「ない(計)」と回答した人が全体の約6割(図表16)友人・知人から注意されることについても「ない(計)」と回答した人が全体の約8割という高い結果となっている(図表17)。

以上のことから、独自の基準をもった大学生がマナーを守る1つの基準は友人・知人の目であることが明らかとなった。友人・知人の前ではマナー違反をしてもいいという考えではなく、普段からLINEをはじめとしたSNSで繋がっている友人だからこそしっかりとマナーを守るといういまどきの大学生らしい守る理由が浮き彫りとなった。

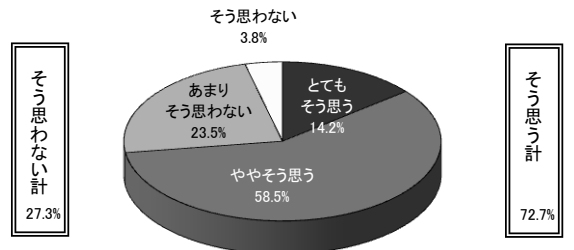
図表14 友人や知人からどう思われているか気になる方か

<全体:n=1008>



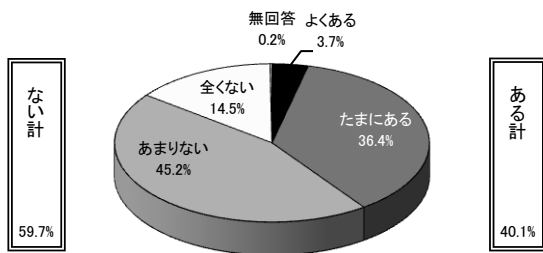
図表15 自分のことを空気が読めるタイプと思うか

<全体:n=1008>



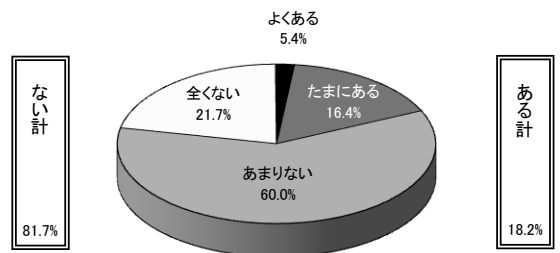
図表16 マナーに関して友人・知人に対する注意

<全体:n=1008>



図表17 マナーに関して友人・知人から注意を受ける頻度

<全体:n=1008>



第4章

「合理的」という名の自己解釈

～マナーでも無駄・非効率を嫌う大学生～

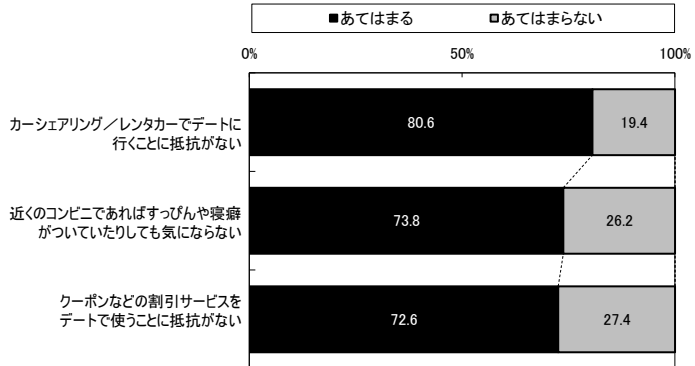
前章では、大学生が自分はやらない&他人がやると気になることについてみてきたが、本章では自分がやる&他人がしても気にならないいわゆる“世間で言うマナー違反”行為についてみていきたい。

右上の象限（自身が思わずやってしまう&他人がしても気にならないこと）に注目すると、「LINEですぐに返信ができない時に、既読無視より未読無視を選ぶ」「すぐに返さなければいけないLINEなどがあるときは、友人と話していてもスマホをいじる」については、前章の「守る理由」であげた「友人・知人の目」を配慮した結果の行動実践であることが伺える。また、それ以外の「授業内容に関連する内容を調べるため、授業中にスマホやPCをいじる」「授業内容を正しく記録するため、板書・スライドをスマホで撮影する」「譲るべき人がいない場合に、優先席に座る」については、時間や場所の無駄に対して効率化することを優先し、多少のマナー違反を合理的に解釈し、許容する大学生のもう一つのマナー基準が明らかとなった（図表18）。

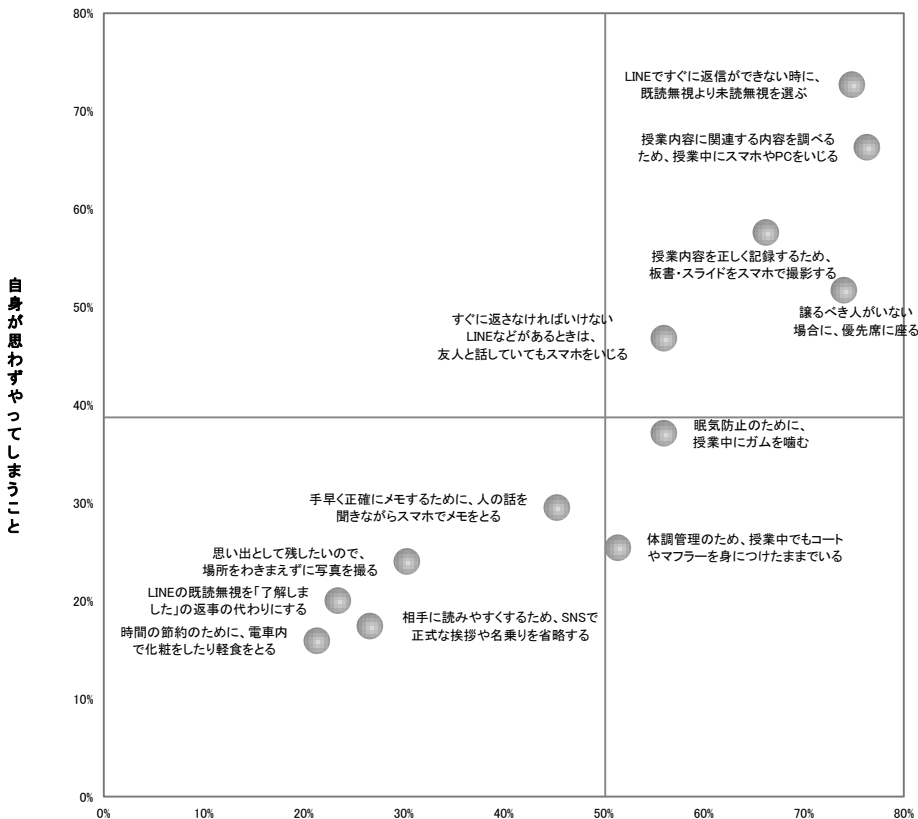
このような、無駄を嫌い、効率化することを良しとする大学生の価値観は、日常生活での行動にもみられる。様々な“いまどき”の日常行動について「あてはまる」ものを聞いたところ、「カーシェアリング/レンタカーでデートに行くことに抵抗がない」が約8割と最も多く、次いで「近くのコンビニであればすっぴんや寝癖がついていたりしても気にならない」、「クーポンなどの割引サービスをデートで使うことに抵抗がない」がそれぞれ約7割を超え、上位を占める結果となった（図表19）。これらのことから、現在の大学生の日常生活からも目的達成のためには、自分にとって合理的な手段を迷わず選ぶという意識がみてとれる。

図表19 日常生活での行動

<全体:N=1008>



図表18 「自身が思わずやってしまうこと」 × 「周囲がしても気にならないこと」

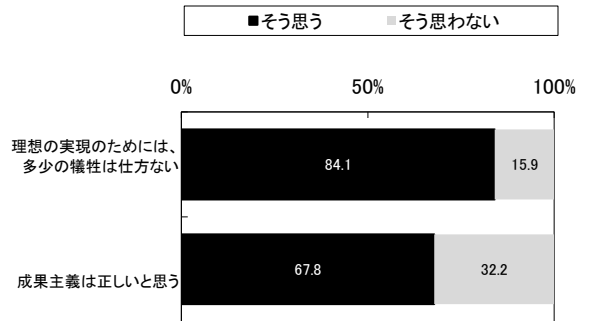


また、「理想の実現のためには、多少の犠牲は仕方ない」という意見にも「そう思う(計)」と回答した人は約8割、「成果主義は正しいと思う」という意見では、約6割を超えている(図表20)。さらに、単刀直入に合理的なタイプかどうかについても聞いてみると、「そう思う(計)」と回答した人が半数を超える結果となった(図表21)。これらのことから、現在の大学生には、目的を達成するためには合理的な判断が必要だという価値観が備わっているようだ。

以上のことから、スマホやSNSといった利便性の高いテクノロジーを使いこなす大学生にとって、板書のメモを取るよりも、写真をとった方が正確に記録できるといったように、無駄を徹底的に省くことで目的を達成させるという合理的な解釈がマナーの基準をグレーにしていることがわかった。この合理的な解釈が世の中の認識とズレを生み出す要因かもしれない。

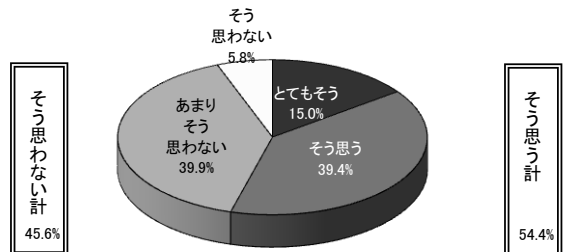
図表20 生活意識に関する価値観

<全体:n=1008>



図表21 合理的なタイプかどうか

<全体:n=1008>



第5章

引き継ぎたい伝統、引き直したい基準

～マナー先進国に生きる大学生の誇りと本音～

ここまでは、友人・知人に配慮するマナー意識と無駄を嫌う意識を重視した行動が加わることで、「大学生ならではの独自の判断基準」が形成されていることが分かった。本章では、彼らが日本のマナーについてどう考えているのかを明らかにしていきたい。

まず、日本はマナー先進国だと思うかと聞いたところ、「そう思う(計)」と回答した人は約8割という結果となった。また、マナーに関する様々な意見について聞いたところ、「日本人は、外国人に比べてマナーが悪いと思う」という項目に対して「そう思う(計)」と回答した人は約2割という少ない結果となった(図表22)。

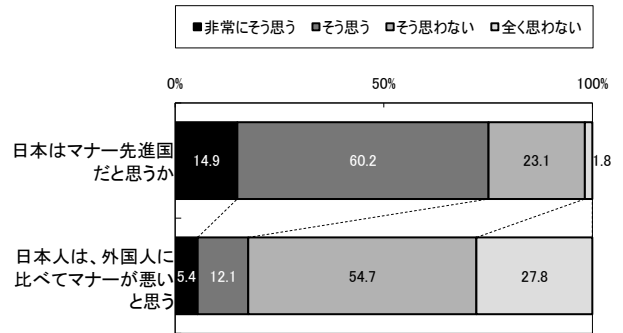
さらに、日本に古くからある礼儀・しきたりについての考えを聞いたところ、約6割の人が「重要だと思うし、今後も引き継いでいくべき」と回答した(図表23)。具体的な理由を聞いたところ、「海外にはない日本古来の伝統・文化だから」が196人と最も多く、次いで「人間関係において重要だから」89人、「敬語は日本の国民性を表しているから」50人という結果となった(図表24)。また、日本で広く浸透しており、海外に伝えたい／浸透してほしいと思う項目を聞いたところ、「財布などが落ちていたら交番に届ける」が最も多く、次いで「公共の施設をきれいに使う」、「時間を守って行動する」、「食事の前後に『いただきます』、『ごちそうさま』を言う」、「駅や買い物などで整理する」という結果となった(図表25)。

一方で、日本に古くからある礼儀やしきたりについて「重要だと思うが、今後なくなっても仕方がない」と回答した人約3割の人に対して、その理由を聞いたところ、「時代の変化やグローバル化に伴い、価値観の変化や多様性を受け入れるべきだから」という回答が最も多いという結果となった。(図表26)

これらのことから、現在の大学生は日本のマナー水準の高さに誇りを持ち、伝統・文化的な側面を残したいと思う一方で、時代の変化や技術の進歩に加えて、多様性の観点から、今の世の中にそぐわないルール・マナーをアップデートしたいという考えも持っているようだ。

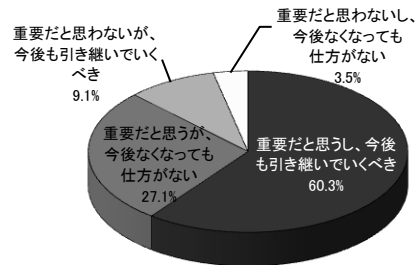
図表22 日本/日本人のマナーに関する意見

<全体:n=1008>



図表23 日本に古くからある礼儀・しきたりに対する意識

<全体:n=1008>



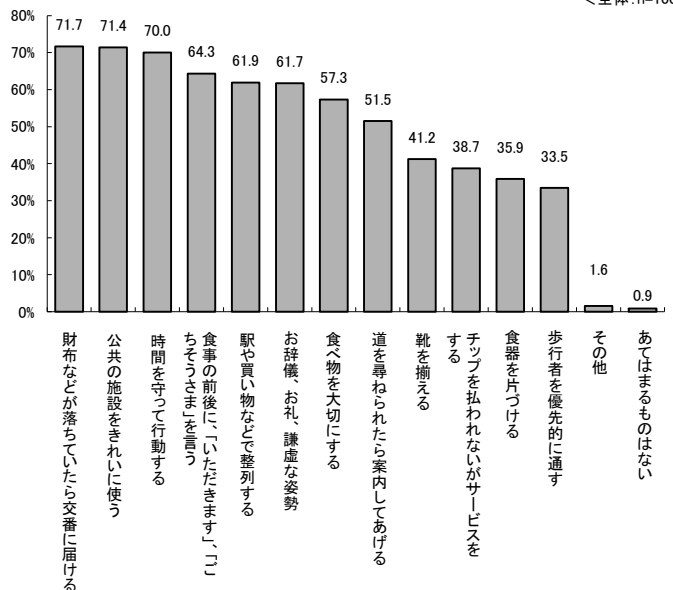
図表24 礼儀やしきたりを重要だと思うし、今後も引き継いでいくべきと思う理由

<礼儀やしきたりを重要だと思うし、今後も引き継いでいくべきと思う人ベース:n=608>

礼儀やしきたりを重要だと思うし、今後も引き継いでいくべきと思う理由	人数
1位 礼儀やしきたり、敬語は、海外にはない日本古来の伝統・文化だから	196人
2位 挨拶や言葉遣いは人間関係において重要だから	89人
3位 礼儀やしきたり、敬語は日本の国民性を表しているから	50人
4位 礼儀やしきたりを引き継ぐことでマナーが改善されたり、新しいマナーが生まれるから	42人
5位 相手を思いやる気持ちは大事だから	39人

図表25 日本で広く浸透しており、海外に伝えたい／浸透してほしいと思う項目

<全体:n=1008>



では、彼らは今後、どのような部分をアップデートすることで、よりよいマナーを作ることができると考えているのだろうか。

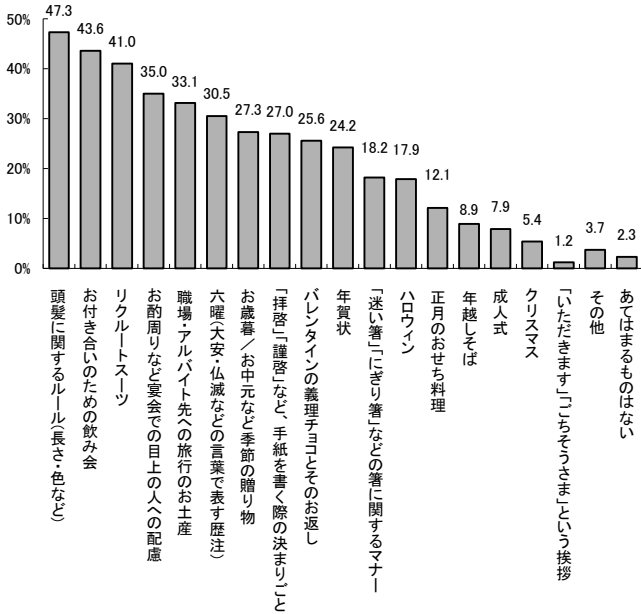
世の中のマナーの中で不要なマナーがあるかと聞いてみると、約4割が「時代遅れ・無意味なマナーが多いと感じている」と回答している(図表27)。具体的なマナーとして、「(長さや色など) 頭髪に関するルール」「お付き合いのための飲み会」「リクルートスーツ」「お酌回りなど、宴会での目上の人への配慮」などが上位に挙げられた(図表28)。ここには、前章でみた、今の大学生のもつ、無駄を嫌い、効率化を求めるという合理的な性質もみてとれる。

さらに、日本をマナー先進国としてより良くしていくために、思い切って取り組むべきだと思うことを聞いたところ、「ポイ捨ての厳罰化」と回答した人が約6割であったが、「電車内でのスマホ/携帯電話の利用を一切禁止する」と回答した人は1割を切る結果となった(図表29)。これらを見ると、グレーゾーンであるスマホや携帯電話に関しては、彼らにとってはこれからのマナーの領域の外側にあるもの、と捉えられているようだ。

以上のことから、現在の大学生は、日本のマナー水準に誇りを持っており、「おもてなし」に代表されるような日本独自の礼儀やしきたりについては、引き継いでいきたいと思っている。同時に、マナーを時代の変化に合わせて合理的に取捨選択をし、日本のマナーをアップデートしていきたいと考えているようだ。

図表28 具体的な時代遅れ・無意味だと思うマナー

<全体:n=1008>



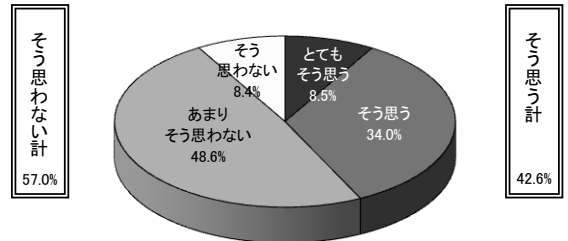
図表26 礼儀やしきたりを重要だと思うが、今後なくなっても仕方がないと思う理由

<礼儀やしきたりを重要だと思うが、なくなっても仕方がないと思う人ベース:n=273>

順位	礼儀やしきたりを重要だと思うが、なくなっても仕方がないと思う理由	人数
1位	時代の変化やグローバル化に伴い、価値観の変化や多様性を受け入れるべきだから	93人
2位	使う機会自体が少なくなっているということは、無くても人間関係に支障がなくて必要ないということの意味するから	34人
3位	学校や親など教育機関自体があまり機能しておらず、礼儀やしきたりについての正しい知識が若い世代に伝承されていないから	32人
4位	そもそも面倒であり、人間関係がスムーズになっているか実感できないから	16人
5位	現代の若者は、日本の礼儀やしきたりに対する重要度が低い傾向があり、今後さらに意識が低下すると思うから	14人

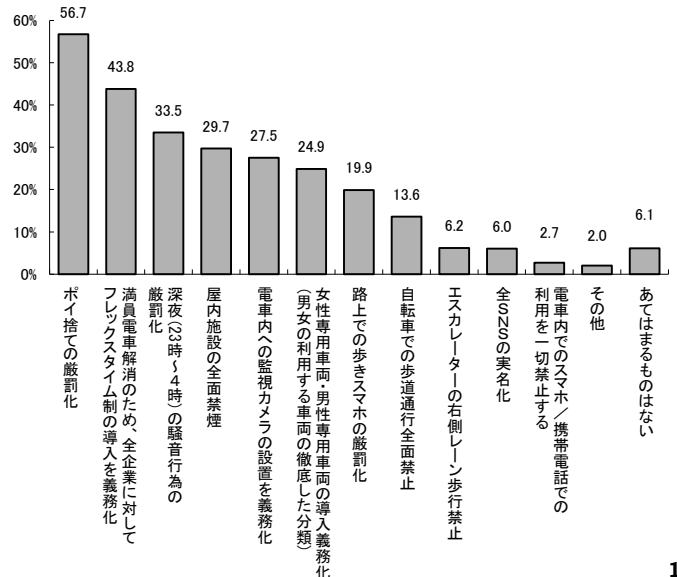
図表27 時代遅れ・無意味なマナーが多いと思うか

<全体:n=1008>



図表29 マナー先進国として思い切って取り組むべきこと

<全体:n=1008>



大学生の新・マナー基準

ソントク “忬度” と “損得” ソンタク

～大学生のマナー意識は、時代・場所・相手に合わせた、環境適応型!?～

ここまでみてきた現在の大学生のマナー意識をまとめてみたい。

マナーとは社会の中で気持ちよく過ごす為の知恵や気遣いであり、明文化されていない。そのため、曖昧なマナーがその時代時代に物議を醸すことが多い。この10年の間で特徴的なことは、やはり携帯電話やスマホ、SNSが急速に普及したことによる「世の中のマナーが悪い」という意味の質的な変化だ。この領域はまだまだマナーの基準が曖昧なのかもしれない。また、彼らはそんな世の中のマナー悪化の原因を大学生と考える一方、自分自身はマナーを守っている、という自己矛盾を抱えており、世の中の大学生のマナー悪化を客観的に捉えている。

そんな大学生のマナー観をみていくと、マナーに関する一定の知識や一般常識は持っているものの、やはり携帯電話やスマホ、そしてSNSに関しては、世間一般の基準と異なる大学生独自の判断基準を持っており、世の中のマナー観との間にズレが生じているようだ。

その大学生独自のマナー基準を掘り下げていくと、世の中とズレる理由となる2つの独特なマナー意識がみえてきた。

一つ目は、友人・知人からの目線を強く気にしているということだ。InstagramをはじめとしたSNS上では、タグ付け・ストーリーなどによって、普段の生活や行動が容易に友人・知人コミュニティ内に拡散してしまう。そんな状況の中で過ごす彼らにとってマナーを守るということは、ルールとして守っているのではなく、仲間と上手に付き合うための気遣いとして守っているのかもしれない。

そして二つ目は、マナーにも合理性を求めているということだ。デジタルネイティブといわれ、テクノロジーの進化により様々なことが合理化しつつある社会の中で過ごしてきた。それにより、混んでいない電車の中で優先席に座ることや友人との会話中にスマホをいじることに自分なりの合理的な解釈をつけることで、そもそもそれらの行為をマナー違反だと感じていないということも判明した。

この今どきの大学生ならではのマナー観を、我々は“忬度と損得”という言葉で表現したい。友人・知人との関係性を崩したくないという周囲を慮る感情＝“忬度（ソントク）感情”と、時間やお金の無駄を嫌い、自分が損をしないように、そしてより効率的に暮らそうとする合理的な意識＝“損得（ソントク）勘定”。大学生のマナーは、この二つの特徴的な意識が常に複雑に絡み合うことで、独自のマナー基準を形成しているようだ。

2020年以降、訪日／在留外国人が増加し、日本社会では価値観の違う人々が生活することが当たり前になっていく。こうした中では、今の大学生のマナーは、友人・知人という狭い世界のなかで最適化を図るだけのものかもしれない。また、彼らが引き継ぎたいという伝統的な日本のマナーが必ずしも正しいわけでもないだろう。マナーは相対的なものであり、時代・場所・相手によって、望ましいとされる行為は大きく変わるものだ。社会構造が大きく変化する今こそ、新しいマナー観を持った彼らが中心になって、今の時代のマナーとは何かを考え、議論し、実践することで、日本のマナーの境界線を引き直すべきなのではないだろうか。

寄稿 ～調査結果を読んで～

日本大学 商学部教授 相原 修

今回の調査はマナーがテーマになっています。マナーは時代や場所、文化によって異なってきました。急ぐ人に向け関東と関西ではエスカレーターの前側を空けておくのか左側を空けておくのか違いがありますが、基底にあるものは自らが他者を気遣い行動することです。周囲との調和を重視している日本人にとっては重要なテーマの一つと言えるでしょう。

マナーについては、10年前にも調査が行われており、「タバコに関するマナー」や「ゴミに関するマナー」については今回の調査でも以前と同じような割合で答えがでており、大きな変化は見られません。しかし「電車やバスなど公共交通機関におけるマナー」は前回に比べ悪くなったと思う人が21ポイントも減っており、大きな違いがあります。10年ひと昔という言葉がありますが、デジタル分野の進化が著しく電車やバスなど公共交通機関の中での過ごし方が10年で一変しています。10数年前は、まだ電車内やホームで新聞や雑誌を拡げ読んでいた人が周囲の迷惑を及ぼすことがありました。しかし今はスマホの時代です。電車やバスの中では、スマホのニュースやLINEでコミュニケーションをとったり、場合によってはゲームをしていたりで車内では静かに過ごしている人が大半です。このため上記のような結果になったと思われます。この例にみられるように今回の調査項目はスマホ時代を反映して、主にスマホの使い方のマナーが中心課題となっているようです。スマホ自体が新しいデバイスであり、使い方に関するマナーが確立されていません。LINEの使い方に関する質問項目もありますが、LINEは2011年6月にリリースされ、10年経っていないので、マナーもはっきりしません。

そのためスマホに関するマナーとして、グレーゾーンも多くあるため友達の間で目をつぶって行動しており、マナー先進国に住んでいる人間としては伝統を保持しつつ新時代に適応したマナーがどのようなものになるか模索したいというのが結論になっているようです。

今回の質問項目にもでてきていますが、講義中に学生がスマホを見ているのは、現在は当たり前になってきています。先生によっては講義中にはスマホを閉まっておくよう命ずる人もいます。私個人の経験からも講義中に提示しているスライドをスマホで写真にとる学生には違和感を覚えます。しかし少人数で行うゼミなどでは、逆にスマホを活用し、積極的にデータベースや資料の検索さらにyou tubeで外国の実例を見るというふうを活用することが増えています。その方が学生も自ら興味を持つ分野の理解が深まるようです。

今回のマナーに関する調査結果を読んでいる中でマナーだけでなく、大学での教育の在り方も10年前と変わってきたし変わらなければいけないのではと感じました。今回の寄稿が最後になりますので、このプロジェクトの意義とも関連させ感想を書かせていただきます。

私自身は、大学院を修了後40年間二つの大学で専任を務めた他にも幾つかの大学や機関で非常勤の形で教育に携わってきました。その経験から現在多くの大学の大学で教育は大量生産、大量消費時代のマーケティング的な教育で、最近では時代にそぐわないものになっている気がします。講義に出席しているかどうかを講義前にICチップが入った学生証でチェックするようになったため、多くの大学で出席率は高まっています。しかし出席しているのは単位を取るため、ひいては卒業証書を得るためで、学生が向学心や好奇心、知識欲から講義を取っているかという点、そのような講義は少ないように思われます。しかし同じ学生がゼミなど少人数の講義では、受け身でなく積極的に自分が関わり、ある時は自分の実力不足を自ら悟り、自修することで、成長していきます。

以前マイクロソフトのProductivity Future Vision 2015を学生に見せましたが、そこで行われているような学びの手法で、学生も自主的に参加し理解も深まるでしょう。スマホやタブレットのようなデバイスが増え5Gの活用で通信速度や通信容量が大きく変化していくことで、あと数年すれば大学の講義の形態のみならず学びの形態も大改革を見せるでしょう。マーケティングでなくワンツーワンマーケティングや顧客識別マーケティングの時代を意識して、カリキュラムを変えていくことが大学や文部科学省に求められているように思えます。

この大学生の意識調査プロジェクトは、まさに学びたい学生のためのゼミにあたるもので、自主的に参加し、いやなら止めても構いませんし、続けても単位は貰えません。学生自らが時代に即したテーマを決め仮説を設定、議論を進めまとめるという形をとってきており、それを補助する専門家が適宜アドバイスをを行う、これこそが教育にふさわしい形ではないかと思えます。是非今後も継続していただきたいと思えます。

定点観測

～大学生の好きな広告・今年の日本の顔～

KDDI/auの「三太郎」シリーズが3年連続好感度ナンバーワンに!

大学生の好きな広告は、昨年と同様「KDDI/auの『三太郎』シリーズ」がナンバーワンとなった。そして、2位も昨年同様、赤ちゃんとライオン(犬)で反響を生んだ「Amazon/アマゾンプライム」がランクイン。また、昨年5位だった「大塚製薬/ポカリスエット」が2つ順位を上げてベストスリーに入った。

<全体:n=1008>

1位: KDDI/au/「三太郎」シリーズ	116人	(男性 71人 : 女性 45人)
2位: Amazon/アマゾンプライム	19人	(男性 9人 : 女性 10人)
3位: 大塚製薬/ポカリスエット「鬼ガチダンス」シリーズ	16人	(男性 10人 : 女性 6人)
4位: 住友生命保険相互会社/1UP	7人	(男性 4人 : 女性 3人)
4位: NTTドコモ/25周年CM「いつか、あたりまえになることを。」	7人	(男性 4人 : 女性 3人)
4位: ルミネ/キャッチコピー(毎月)	7人	(男性 6人 : 女性 1人)
7位: カルピス株式会社/カルピス	6人	(男性 3人 : 女性 3人)
7位: マウスコンピューター/「マウスダンス」篇	6人	(男性 3人 : 女性 3人)
9位: NTTドコモ/dTV/「ふたりをつなぐ物語」篇	5人	(男性 4人 : 女性 1人)
9位: リクルート/じゃらん	5人	(男性 2人 : 女性 3人)
9位: リクルート/ゼクシィ	5人	(男性 4人 : 女性 1人)
9位: 東京メトロ/「Find my Tokyo」シリーズ	5人	(男性 4人 : 女性 1人)
9位: ソフトバンクモバイル/白戸家シリーズ	5人	(男性 1人 : 女性 4人)

▼参考: '16年度結果 (全体:n=816)

1 KDDI/au/「三太郎」シリーズ	129人
2 AMAZON/アマゾンプライム	38人
3 資生堂/SEA BREEZE/「トライアングル」シリーズ	13人
4 オリエンタルランド/東京デイズニースーツ	8人
5 ポカリスエット「エル」篇	7人
5 ルミネ/キャッチコピー(毎月)	7人
7 JR東海/「京都の紅葉」篇	5人
8 JR東日本/「JR ski ski」シリーズ	5人
9 NTTドコモ/ドコモカード/中条あやみ	5人
9 キリン/一番搾り/しあわせ一番町 47都道府県の一搾り」篇	5人
9 サントリー/ザ・プレミアム・モルツ	5人

▼参考: '15年度結果 <全体:n=816>

1 KDDI/au/「英雄」シリーズ	63人
2 サントリー/ペプシネックスゼロ/「桃太郎」シリーズ	17人
3 SEA BREEZE/広瀬すず・中川大志	10人
4 ソフトバンクモバイル/「白戸家」シリーズ	9人
5 JR東日本/「JR SKI SKI」シリーズ	8人
5 ルミネ/小松菜菜	8人
7 RIZAP/「つぎつぎとイケイキ」と」篇	7人
8 サントリー/GREEN DA・KA・RA/しずくちゃん	6人
9 大塚食品/MATCH/広瀬アリス・広瀬すず	5人
9 カルピス/カルピスウォーター/広瀬すず・長澤まさみ	5人
9 ジョージア/「マニフェスト」篇/山田孝之	5人

▼参考: '14年度結果 <全体:n=800>

1 ソフトバンクモバイル/「白戸家」シリーズ	23人
2 サントリー/ペプシネックスゼロ/「桃太郎」シリーズ	20人
3 サントリー/GREEN DA・KA・RA/「グリーンダカラちゃん」シリーズ	18人
4 カルピス/カルピスウォーター/能年玲奈	13人
5 TOYOTA/「TOYOTOWN」シリーズ	10人
6 サントリー/ふんわり鏡月/石原さとみ	8人
7 日本コカ・コーラ/コカ・コーラ	7人
7 日清食品/カップヌードル/「壁ドン」篇	7人
9 ルミネ/橋本愛	6人
9 家庭教師のトライ/「ハイジとクララ」シリーズ	6人

最近1年間の日本の顔は、5年連続、安倍晋三首相に

今年の「日本の顔」は「安倍晋三」首相が190票を獲得し1位。次いで、東京都知事の「小池百合子」が157票を獲得し2位、「小林麻央」が44票で3位という結果に。

<全体:n=1008>

1位: 安倍晋三	190人(男性109人:女性81人)
2位: 小池百合子	157人(男性55人:女性102人)
3位: 小林麻央	44人(男性9人:女性35人)
4位: 藤井聡太	38人(男性24人:女性14人)
5位: 菅田将暉	35人(男性12人:女性23人)
6位: ブルゾンちえみ	25人(男性6人:女性19人)
7位: ピコ太郎	23人(男性15人:女性8人)
8位: 広瀬すず	19人(男性9人:女性10人)
9位: マツコ・デラックス	15人(男性6人:女性9人)
9位: 松居一代	15人(男性9人:女性6人)
9位: 星野源	15人(男性6人:女性9人)

▼参考: 2016年の今年の顔 <全体:n=816>

1位: 安倍晋三	156人
2位: 舛添要一	85人
3位: ベッキー	56人
4位: イチロー	41人
5位: リゅうちえる	36人
6位: 錦織圭	31人
6位: 五郎丸歩	31人
8位: マツコ・デラックス	21人
9位: 山崎賢人	20人
9位: 長友佑都	20人

調査結果の詳細

I 世の中のマナー意識について	
世の中のマナー全般の現状評価	22
世の中のマナー全般の変化	23
世の中のマナーが変化したと思う理由	24
マナーの変化	25
マナー問題の許容意識	27
タブー内容認知	29
マナーが悪いと思う人々	31
II 普段の生活について	
マナー遵守度	33
マナー意識	34
やってはいけないと思いながらも、ついやってしまうこと	36
マナー違反の実践状況	37
周囲がしても気にならない・仕方がないと思うこと	40
自身が思わずやってしまうこと	41
周囲がしても気にならない×自身が思わずやってしまうこと	42
時代遅れ・無意味なマナーが多いと感じるか	43
時代遅れ・無意味と感じるマナー	44
友人・知人からマナーに関して注意を受ける頻度	45
友人・知人からマナーに関して注意をされたときの気持ち	46
他人からマナーに関して注意を受ける頻度	47
他人からマナーに関して注意をされたときの気持ち	48
友人・知人にマナーを注意する頻度	49
他人にマナーを注意する頻度	50
自己評価:家庭のしつけ	51
自己評価:マナー教育	52
積極的にしつけ・注意を行うべき人々	53
日本はマナー先進国か	54
古くからの礼儀やしきたり:評価	55
古くからの礼儀やしきたり:評価理由	56
より良いマナー先進国を目指して取り組むべきこと	58
海外に伝えたい・浸透してほしい日本のマナー	59
III 大学生の実態と意識について	
スポーツ系・体育会部活動の所属状況	61
自己評価:友人・知人からどう思われているか気になる	62
自己評価:空気が読めるタイプだと思う	63
自己評価:自分はワガママだと思う	64
自己評価:合理的なタイプだと思う	65
生活価値観①	66
生活価値観②	67
IV 定点観測	
大学生が選ぶ最近1年間の日本の顔	71
好きな広告	72
広告への普段の関心	73
広告に対する意見	75

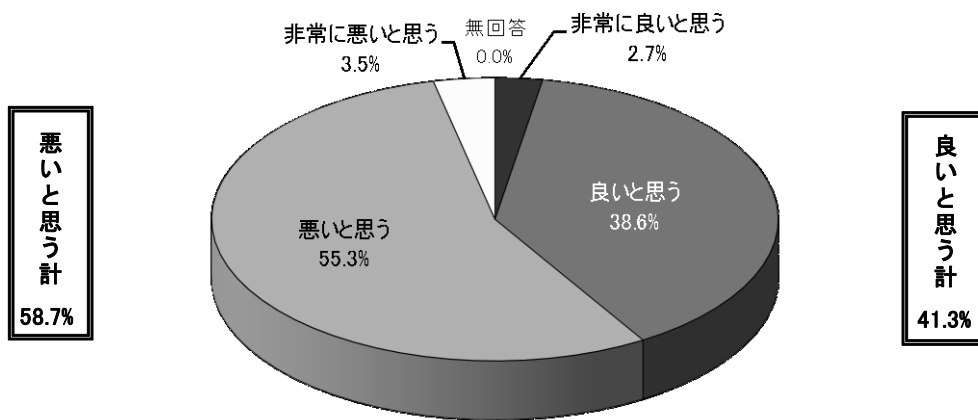
I 世の中のマナー意識について

※数表中の数値につけられた記号
○印=全体より5ポイント以上高い数値
▼印=全体より5ポイント以上低い数値

- ◆ 「あなたは、最近の世の中のマナーについて、どう思いますか」という質問に対して、「良いと思う(計)」と回答した人は全体の約41%、「悪いと思う(計)」と回答した人は全体の約59%となった。

問 1 あなたは、最近の世の中のマナーについて、どう思いますか。あなたのお考えに最も近いものをひとつだけ選び、○印をつけてください。
 <全ベース>

<全体:N=1008>



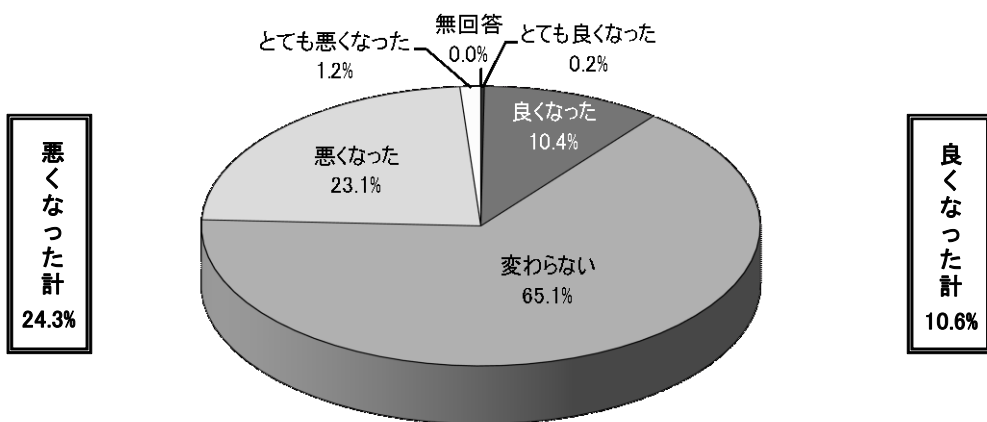
		サンプル数	非常に良いと思う	良いと思う	悪いと思う	非常に悪いと思う	無回答	良いと思う計	悪いと思う計
全体		1008	2.7	38.6	55.3	3.5	-	41.3	58.7
性別	男性	504	5.0	36.9	52.6	5.6	-	41.9	58.1
	女性	504	0.4	40.3	57.9	1.4	-	40.7	59.3
学年	1年生	252	4.4	39.3	52.8	3.6	-	43.7	56.3
	2年生	252	1.6	40.5	54.8	3.2	-	42.1	57.9
	3年生	252	1.6	35.3	60.7	2.4	-	36.9	63.1
	4年生	252	3.2	39.3	52.8	4.8	-	42.5	57.5

(%)

◆ 「あなたは、以前と比べ、最近の世の中のマナーはどのように変化したと思いますか」という質問に対して、「良くなった(計)」と回答した人は全体の約11%、「変わらない」と回答した人は全体の約65%、「悪くなった(計)」と回答した人は全体の約24%となった。

問2 あなたは、以前と比べ、最近の世の中のマナーはどのように変化したと思いますか。あなたのお考えに最も近いものをひとつだけ選び、○印をつけてください。〈全ベース〉

〈全体：N=1008〉



		サンプル数	とても良くなった	良くなった	変わらない	悪くなった	とても悪くなった	無回答	良くなった計	悪くなった計
全体		1008	0.2	10.4	65.1	23.1	1.2	-	10.6	24.3
性別	男性	504	0.4	11.3	66.7	20.6	1.0	-	11.7	21.6
	女性	504	-	9.5	63.5	25.6	1.4	-	9.5	27.0
学年	1年生	252	0.4	7.1	68.7	22.2	1.6	-	7.5	23.8
	2年生	252	-	11.1	68.3	19.4	1.2	-	11.1	20.6
	3年生	252	0.4	9.9	58.3	30.2	1.2	-	10.3	31.3
	4年生	252	-	13.5	65.1	20.6	0.8	-	13.5	21.4

(%)

世の中のマナーが変化したと思う理由

- ◆ 以前と比べ、最近の世の中のマナーが「とても良くなった」「良くなった」と回答した人に対して、理由を聞いたところ、「タバコやゴミなどのポイ捨てが減ったから」と回答した人が19人と最も多く、次いで「分煙が進んだから」が16人、「公共交通機関において、お年寄りなどに席を譲る人が増えたから」が9人となった。
- ◆ 同様に、以前と比べ、最近の世の中のマナーが「悪くなった」「とても悪くなった」と回答した人に対して、理由を聞いたところ、「歩きスマホやながらスマホが多くなり、周りを見れてない人が増えたから」と回答した人が57人と最も多く、次いで「自己中心的な人が増えたから」が32人、「SNSにおけるマナー(誹謗中傷、個人情報の流出、拡散行為など)が悪くなったから」が30人となった。

問2 付問

あなたがそのようにお答えになったのは、どのような理由からですか。具体的にお答えください。
 <世の中のマナーが変化したと思う人ベース>

【世の中のマナーが良くなったと思う理由】

<世の中のマナーが良くなったと思う人ベース：N=107>

1位：タバコやゴミなどのポイ捨てが減ったから	19人（男性 11人：女性 8人）
2位：分煙が進んだから	16人（男性 8人：女性 8人）
3位：公共交通機関において、お年寄りなどに席を譲る人が増えたから	9人（男性 6人：女性 3人）
3位：SNSで簡単に写真や動画などを拡散できるようになり、より周囲の目を気にする人が増えているから	9人（男性 1人：女性 8人）
5位：歩きタバコが減ったから	7人（男性 5人：女性 2人）
5位：法律、各都道府県の条例等で規制が強化されたから	7人（男性 4人：女性 3人）
5位：落とし物を届けるなど他人のことを考えて行動している人が増えているから	7人（男性 4人：女性 3人）
9位：オリンピックや企業のCSR活動への注目などによって人々の意識が変わり、マナーを守る人が増えたと感じるから	6人（男性 5人：女性 1人）
9位：喫煙所や優先席など設備が整ってきているから	6人（男性 5人：女性 1人）
11位：電車でのマナー(通話、飲食、化粧など)が良くなったから	5人（男性 1人：女性 4人）

【世の中のマナーが悪くなったと思う理由】

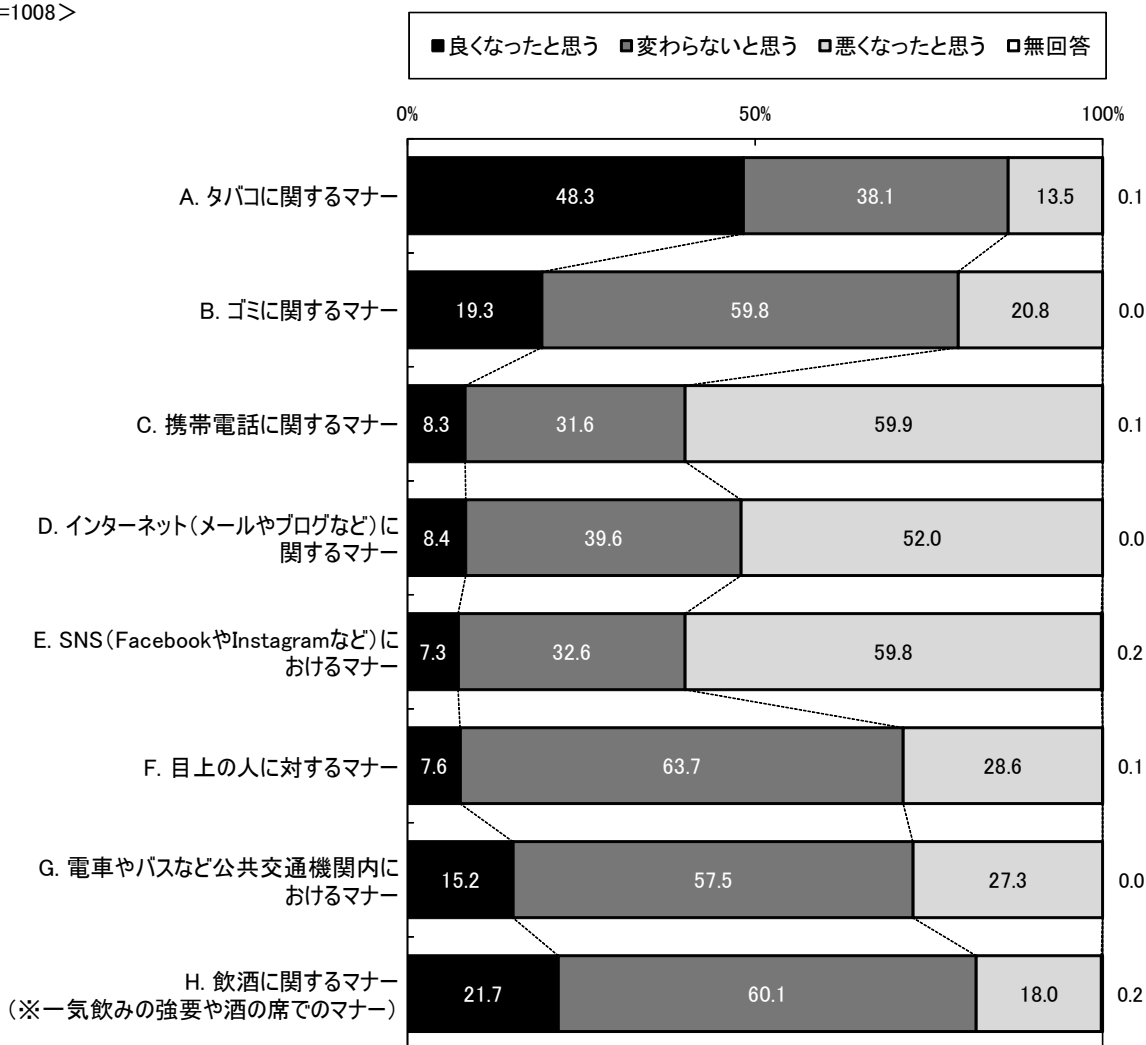
<世の中のマナーが悪くなったと思う人ベース：N=245>

1位：歩きスマホやながらスマホが多くなり、周りを見れてない人が増えたから	57人（男性 23人：女性 34人）
2位：自己中心的な人が増えたから	32人（男性 17人：女性 15人）
3位：SNSにおけるマナー(誹謗中傷、個人情報の流出、拡散行為など)が悪くなったから	30人（男性 14人：女性 16人）
4位：ポイ捨てする人が増えたから	27人（男性 12人：女性 15人）
5位：同世代のマナーが悪いと思うから	19人（男性 8人：女性 11人）
5位：スマホによる、通話や音漏れなど音に関するマナーが悪くなったから	19人（男性 11人：女性 8人）
7位：電車でのマナーが悪い人が多いから	18人（男性 6人：女性 12人）
8位：歩きたばこや路上喫煙など、たばこに関するマナーが悪くなったから	17人（男性 12人：女性 5人）
9位：スマホの普及により、他人への配慮が薄れ、マナーが悪くなったから	15人（男性 6人：女性 9人）
10位：マナーの悪い人が増えたから	13人（男性 6人：女性 7人）

- ◆ マナーに関する各項目について、「あなたは人々のマナーが以前と比べ、どのように変化したと思いますか」という質問に対して、「良くなったと思う」と回答した人が多かった項目は「タバコに関するマナー」が約48%と最も多く、次いで「飲酒に関するマナー(※一気飲みの強要や酒の席でのマナー)」が約22%、「ゴミに関するマナー」が約19%となった。
- ◆ 「悪くなったと思う」と回答した人が多かった項目は「携帯電話に関するマナー」「SNS(FacebookやInstagramなど)におけるマナー」がいずれも約60%で多く、次いで「インターネット(メールやブログなど)に関するマナー」が52%と続く結果となった。
- ◆ 「変わらない」と回答した人が多かった項目は「目上の人に対するマナー」が約64%と最も多く、次いで「タバコに関するマナー」「飲酒に関するマナー(※一気飲みの強要や酒の席でのマナー)」がいずれも約60%となった。

問3 以下に、世の中でマナーが問われる内容／領域を挙げています。あなたは人々のマナーが以前と比べ良くなったと思いますか。それとも悪くなったと思いますか。＜全ベース＞

＜全体：N=1008＞



問3

以下に、世の中でマナーが問われる内容／領域を挙げています。あなたは人々のマナーが以前と比べ良くなったと思いますか。それとも悪くなったと思いますか。＜全ベース＞

サンプル数	A. タバコに関するマナー				B. ゴミに関するマナー				C. 携帯電話に関するマナー				D. インターネットに関するマナー					
	良くなったと思う	変わらないと思う	悪くなったと思う	無回答	良くなったと思う	変わらないと思う	悪くなったと思う	無回答	良くなったと思う	変わらないと思う	悪くなったと思う	無回答	良くなったと思う	変わらないと思う	悪くなったと思う	無回答		
全体	1008	48.3	38.1	13.5	0.1	19.3	59.8	20.8	-	8.3	31.6	59.9	0.1	8.4	39.6	52.0	-	
性別	男性	504	44.6	39.3	15.9	0.2	20.2	57.7	22.0	-	9.7	32.5	57.7	-	10.7	39.5	49.8	-
	女性	504	52.0	36.9	11.1	-	18.5	61.9	19.6	-	6.9	30.8	62.1	0.2	6.2	39.7	54.2	-
学年	1年生	252	43.7	40.5	15.5	0.4	20.6	56.7	22.6	-	7.1	33.3	59.5	-	7.9	36.5	55.6	-
	2年生	252	48.8	40.1	11.1	-	15.9	65.5	18.7	-	7.9	31.3	60.3	0.4	6.7	38.1	55.2	-
	3年生	252	46.0	38.5	15.5	-	21.8	56.0	22.2	-	9.5	30.6	59.9	-	11.5	44.4	44.0	-
	4年生	252	54.8	33.3	11.9	-	19.0	61.1	19.8	-	8.7	31.3	59.9	-	7.5	39.3	53.2	-

(%)

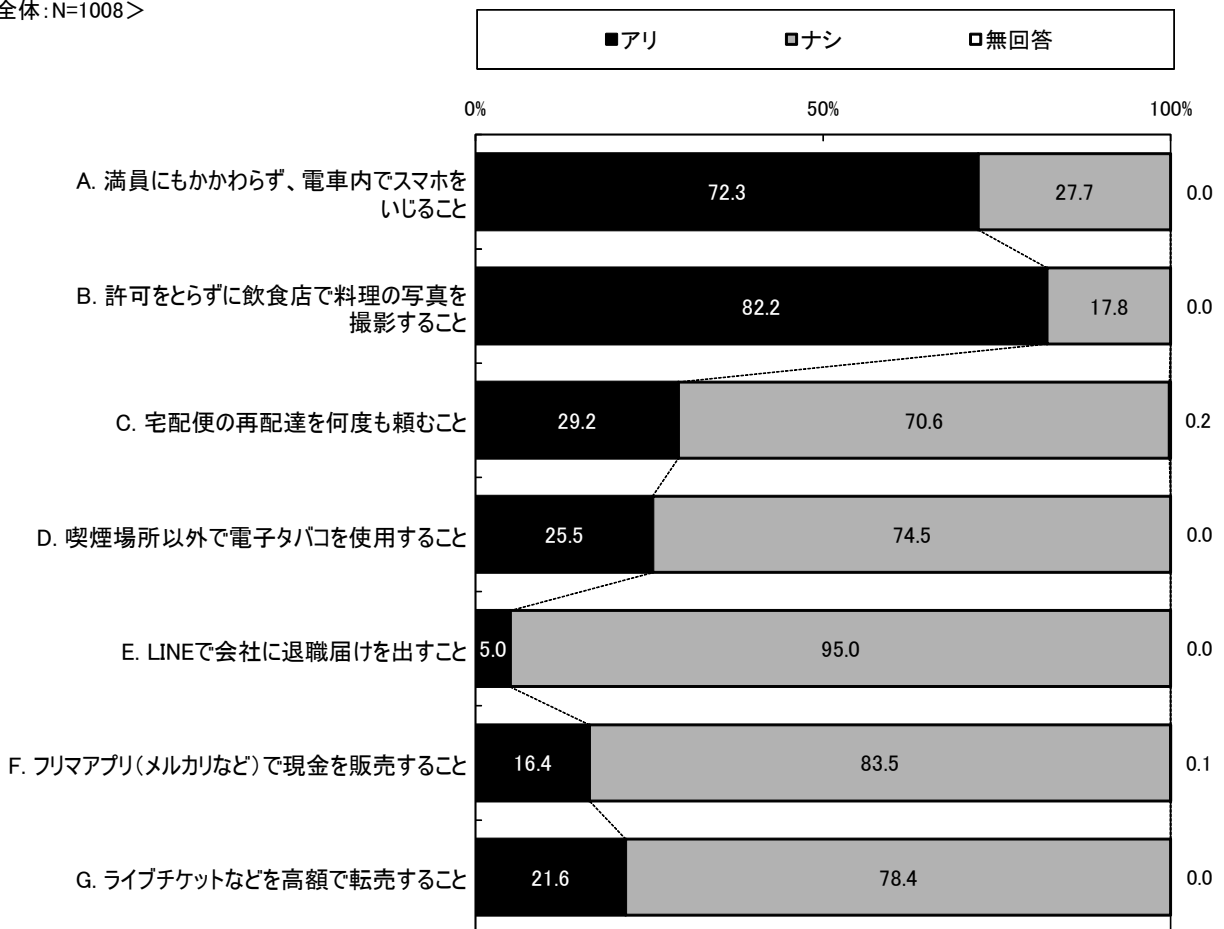
サンプル数	E. SNSにおけるマナー				F. 目上の人に対するマナー				G. 電車やバスなど公共交通機関内におけるマナー				H. 飲酒に関するマナー					
	良くなったと思う	変わらないと思う	悪くなったと思う	無回答	良くなったと思う	変わらないと思う	悪くなったと思う	無回答	良くなったと思う	変わらないと思う	悪くなったと思う	無回答	良くなったと思う	変わらないと思う	悪くなったと思う	無回答		
全体	1008	7.3	32.6	59.8	0.2	7.6	63.7	28.6	0.1	15.2	57.5	27.3	-	21.7	60.1	18.0	0.2	
性別	男性	504	7.9	35.3	56.5	0.2	9.7	67.5	22.8	-	16.5	58.3	25.2	-	26.4	57.3	16.1	0.2
	女性	504	6.7	30.0	63.1	0.2	5.6	59.9	34.3	0.2	13.9	56.7	29.4	-	17.1	62.9	19.8	0.2
学年	1年生	252	6.0	32.9	61.1	-	7.5	66.7	25.8	-	14.3	59.9	25.8	-	15.1	65.5	18.7	0.8
	2年生	252	6.7	34.9	58.3	-	8.7	64.3	26.6	0.4	16.3	56.0	27.8	-	19.8	60.7	19.4	-
	3年生	252	10.3	33.3	56.0	0.4	6.7	63.5	29.8	-	15.9	55.2	29.0	-	24.2	54.0	21.8	-
	4年生	252	6.3	29.4	63.9	0.4	7.5	60.3	32.1	-	14.3	59.1	26.6	-	27.8	60.3	11.9	-

(%)

- ◆ 今、世の中で騒がれているマナー問題に関する各項目について、「あなたにとってこれらの行為は『アリ』『ナシ』どちらですか」という質問に対して、「アリ」と回答した人が多かった項目は「許可をとらずに飲食店で料理の写真を撮影すること」が約82%と最も多く、次いで「満員にもかかわらず、電車内でスマホをいじること」が約72%となった。
- ◆ また、「ナシ」と回答した人が多かった項目は「LINEで会社に退職届けを出すこと」が95%と最も多く、次いで「フリマアプリ(メルカリなど)で現金を販売すること」が約84%、次いで「ライブチケットなどを高額で転売すること」が約78%となった。

問4 以下に、今、世の中で騒がれている「マナー問題」を挙げています。それぞれについて、あなたにとってこれらの行為は「1. アリ」「2. ナシ」どちらですか。〈全ベース〉

〈全体:N=1008〉



問4

以下に、今、世の中で騒がれている「マナー問題」を挙げています。それぞれについて、あなたにとってこれらの行為は「1. アリ」「2. ナシ」どちらですか。〈全ベース〉

	サンプル数	A. 満員にもかかわらず、電車内でスマホをいじること			B. 許可をとらずに飲食店で料理の写真を撮影すること			C. 宅配便の再配達を何度も頼むこと			D. 喫煙場所以外で電子タバコを使用すること			
		アリ	ナシ	無回答	アリ	ナシ	無回答	アリ	ナシ	無回答	アリ	ナシ	無回答	
全体	1008	72.3	27.7	-	82.2	17.8	-	29.2	70.6	0.2	25.5	74.5	-	
性別	男性	504	74.2	25.8	-	79.8	20.2	-	30.2	69.6	0.2	28.0	72.0	-
	女性	504	70.4	29.6	-	84.7	15.3	-	28.2	71.6	0.2	23.0	77.0	-
学年	1年生	252	71.0	29.0	-	77.4	22.6	-	27.0	73.0	-	28.6	71.4	-
	2年生	252	68.3	31.7	-	80.6	19.4	-	29.8	69.4	0.8	21.8	78.2	-
	3年生	252	72.2	27.8	-	88.1	11.9	-	30.2	69.8	-	23.8	76.2	-
	4年生	252	77.8	22.2	-	82.9	17.1	-	29.8	70.2	-	27.8	72.2	-

(%)

	サンプル数	E. LINEで会社に退職届けを出すこと			F. フリマアプリで現金を販売すること			G. ライブチケットなどを高額で転売すること			
		アリ	ナシ	無回答	アリ	ナシ	無回答	アリ	ナシ	無回答	
全体	1008	5.0	95.0	-	16.4	83.5	0.1	21.6	78.4	-	
性別	男性	504	6.5	93.5	-	22.8	77.2	-	27.8	72.2	-
	女性	504	3.4	96.6	-	9.9	89.9	0.2	15.5	84.5	-
学年	1年生	252	7.5	92.5	-	16.7	83.3	-	19.0	81.0	-
	2年生	252	4.4	95.6	-	14.3	85.7	-	18.7	81.3	-
	3年生	252	4.0	96.0	-	19.4	80.2	0.4	20.2	79.8	-
	4年生	252	4.0	96.0	-	15.1	84.9	-	28.6	71.4	-

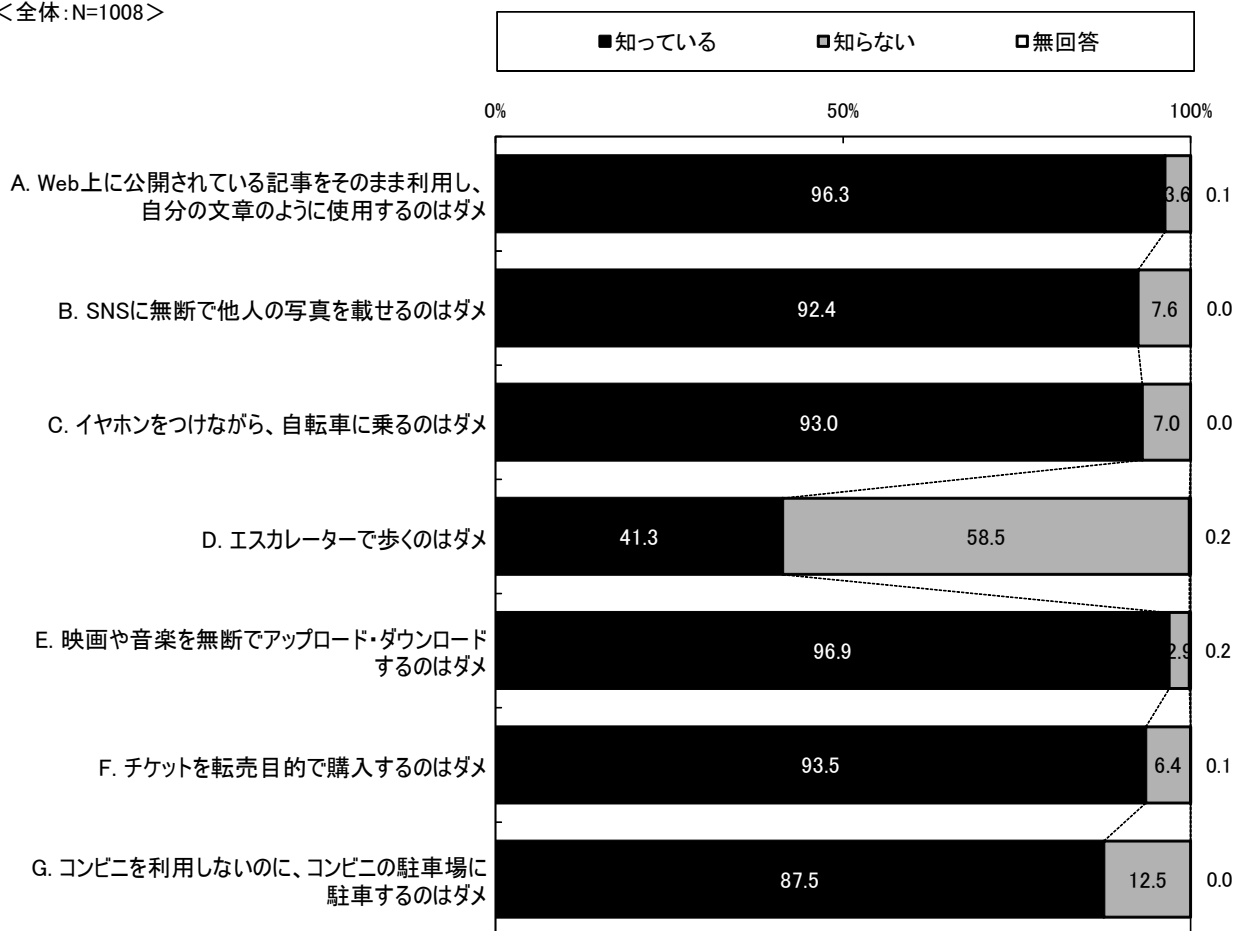
(%)

◆ 世の中で一般的にタブーと言われていることの各項目について、「あなたは、これらの内容をご存知ですか」という質問に対して、「知っている」と回答した人が多かった項目は「映画や音楽を無断でアップロード・ダウンロードするのはダメ」が約97%と最も多く、次いで「Web上に公開されている記事をそのまま利用し、自分の文章のように使用するのはダメ」が約96%、「チケットを転売目的で購入するのはダメ」が約94%となった。

問5

以下に、世の中で一般的にタブーと言われていることを挙げています。それぞれについて、あなたはこれらの内容をご存知ですか。「1. 知っている」「2. 知らない」のいずれかに○印をつけてください。＜全ベース＞

＜全体：N=1008＞



問5

以下に、世の中で一般的にタブーと言われていることを挙げています。それぞれについて、あなたはこれらの内容をご存知ですか。「1. 知っている」「2. 知らない」のいずれかに○印をつけてください。〈全ベース〉

	サンプル数	A. Web上に公開されている記事をそのまま利用し、自分の文章のように使用するのはダメ			B. SNSに無断で他人の写真を載せるのはダメ			C. イヤホンをつけながら、自転車に乗るのはダメ			D. エスカレーターで歩くのはダメ			
		知っている	知らない	無回答	知っている	知らない	無回答	知っている	知らない	無回答	知っている	知らない	無回答	
全体	1008	96.3	3.6	0.1	92.4	7.6	-	93.0	7.0	-	41.3	58.5	0.2	
性別	男性	504	96.4	3.4	0.2	93.5	6.5	-	94.8	5.2	-	40.1	59.5	0.4
	女性	504	96.2	3.8	-	91.3	8.7	-	91.1	8.9	-	42.5	57.5	-
学年	1年生	252	96.0	4.0	-	93.7	6.3	-	91.3	8.7	-	▼ 35.3	○ 64.7	-
	2年生	252	95.6	4.4	-	93.3	6.7	-	93.7	6.3	-	41.3	57.9	0.8
	3年生	252	95.6	4.4	-	91.7	8.3	-	92.9	7.1	-	40.1	59.9	-
	4年生	252	98.0	1.6	0.4	90.9	9.1	-	94.0	6.0	-	○ 48.4	▼ 51.6	-

(%)

	サンプル数	E. 映画や音楽を無断でアップロード・ダウンロードするのはダメ			F. チケットを転売目的で購入するのはダメ			G. コンビニを利用しないのに、コンビニの駐車場に駐車するのはダメ			
		知っている	知らない	無回答	知っている	知らない	無回答	知っている	知らない	無回答	
全体	1008	96.9	2.9	0.2	93.5	6.4	0.1	87.5	12.5	-	
性別	男性	504	96.2	3.4	0.4	92.1	7.9	-	87.3	12.7	-
	女性	504	97.6	2.4	-	94.8	5.0	0.2	87.7	12.3	-
学年	1年生	252	97.2	2.4	0.4	92.5	7.1	0.4	82.9	17.1	-
	2年生	252	97.2	2.8	-	95.6	4.4	-	86.1	13.9	-
	3年生	252	95.6	4.0	0.4	92.9	7.1	-	89.3	10.7	-
	4年生	252	97.6	2.4	-	92.9	7.1	-	91.7	8.3	-

(%)

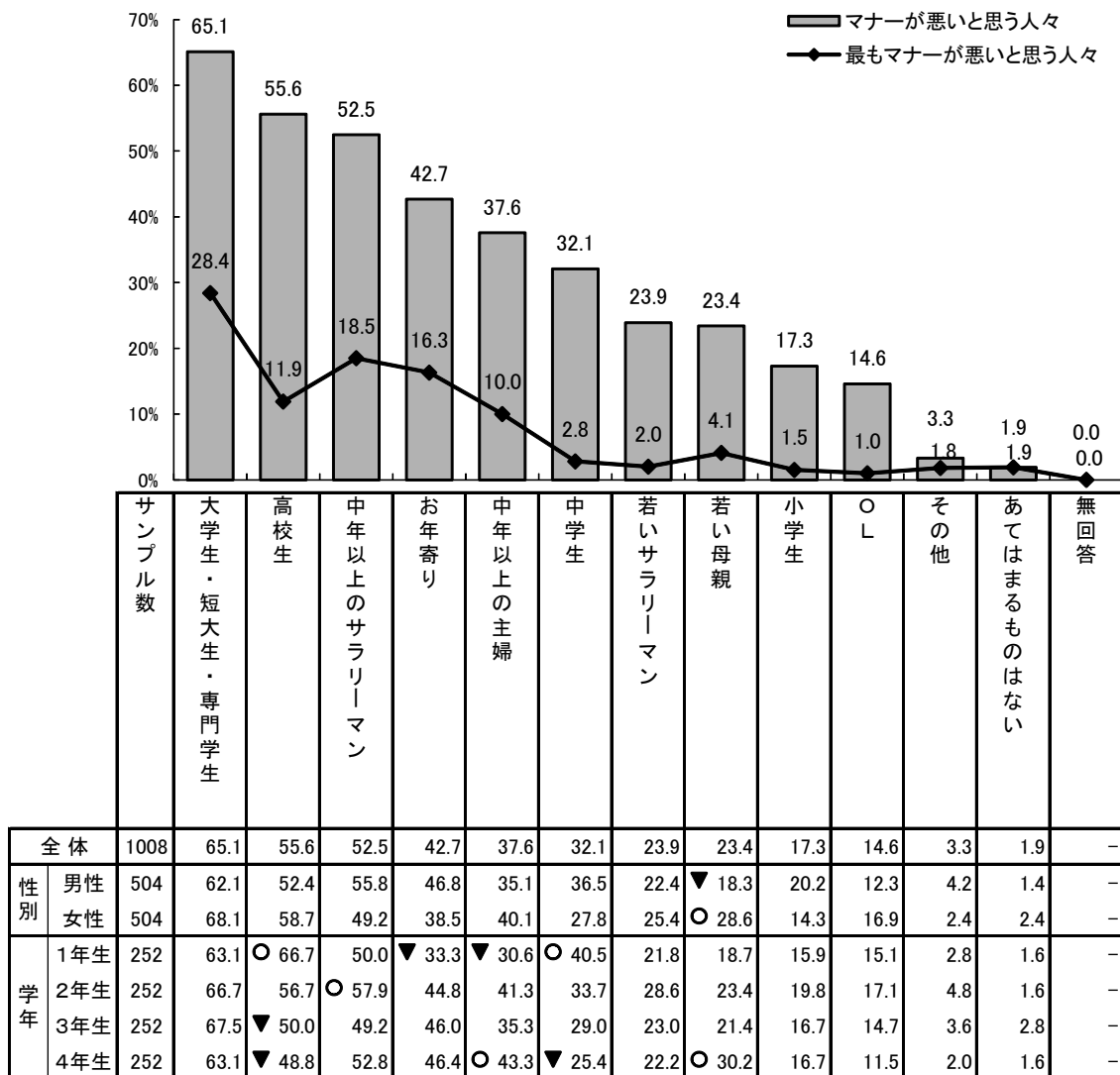
- ◆ 「あなたが『今、マナーが悪い』と思うのは、どのような人々ですか」という質問に対して、「大学生/短大生/専門学生」と回答した人が約65%と最も多く、次いで「高校生」が約56%、「中年以上のサラリーマン」が約53%となった。
- ◆ また、「選んだ項目の中で、最も『今、マナーが悪い』と思うのはどのような人々ですか」という質問に対して、「大学生/短大生/専門学生」と回答した人が全体の約28%と最も多く、次いで「中年以上のサラリーマン」が約19%、「お年寄り」が約16%となった。

問6

あなたが「今、マナーが悪い」と思うのは、どのような人々ですか。〈全ベース〉

<全体：N=1008>

※全体のスコアで降順ソート



(%)

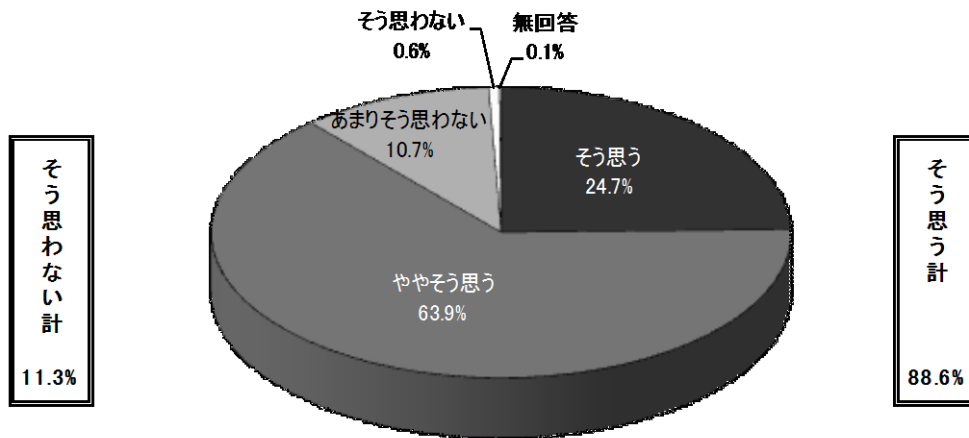
II 自身のマナー意識について

- ※数表中の数値につけられた記号
○印=全体より5ポイント以上高い数値
▼印=全体より5ポイント以上低い数値

◆ 「あなたご自身は、公共の場や集団の中など社会生活を送る上で、マナーをしっかり守っていると思いますか」という質問に対して、「そう思う(計)」と回答した人は全体の約89%、「そう思わない(計)」と回答した人は全体の約11%となった。

問7 あなたご自身は、公共の場や集団の中など社会生活を送る上で、マナーをしっかり守っていると思いますか。あてはまるものをひとつだけ選び、○印をつけてください。〈全ベース〉

〈全体：N=1008〉



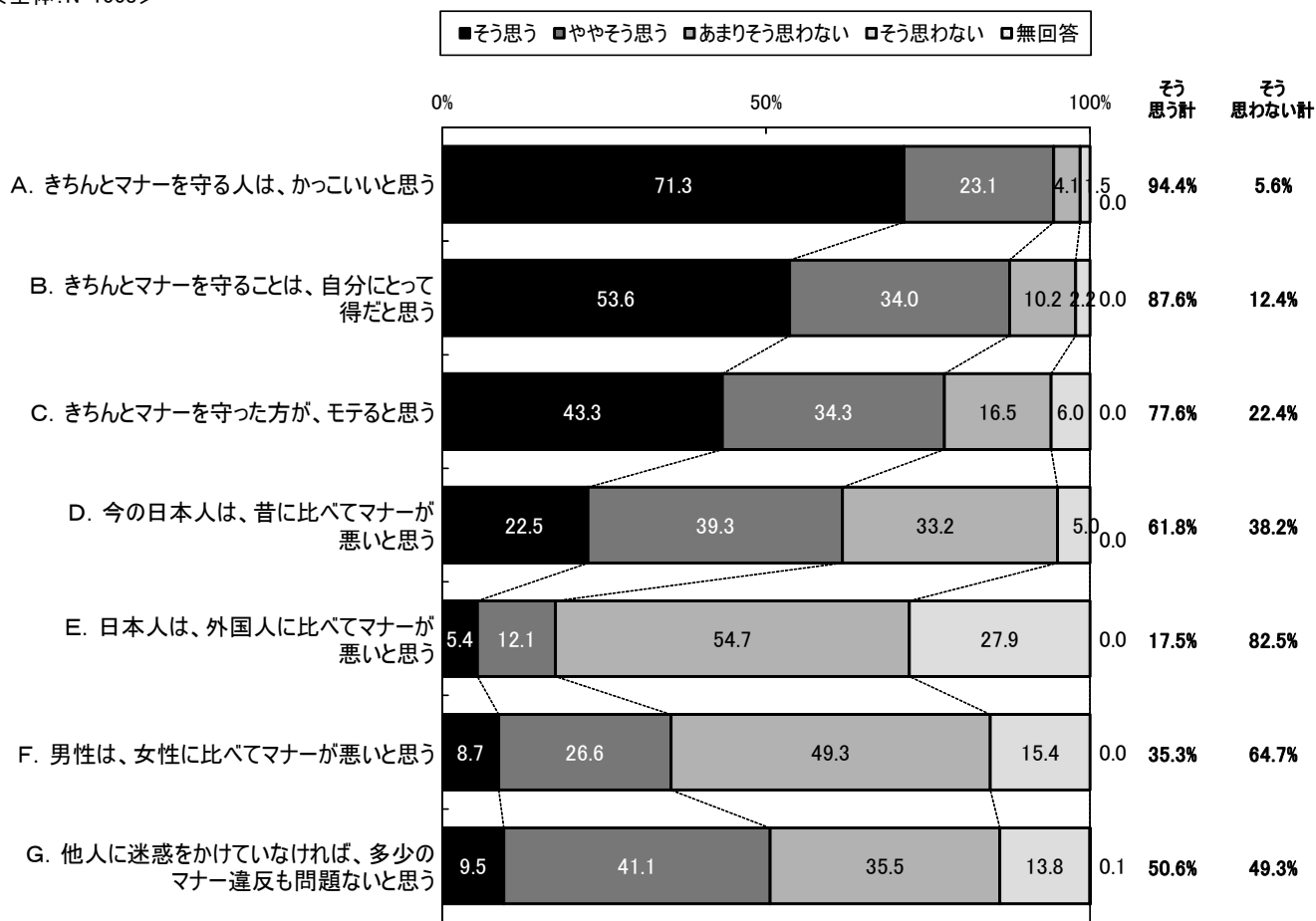
	サンプル数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	そう思う計	そう思わない計	
全体	1008	24.7	63.9	10.7	0.6	0.1	88.6	11.3	
性別	男性	504	28.2	59.3	11.3	1.2	-	87.5	12.5
	女性	504	21.2	68.5	10.1	-	0.2	89.7	10.1
学年	1年生	252	27.0	61.9	11.1	-	-	88.9	11.1
	2年生	252	19.8	66.3	12.7	1.2	-	86.1	13.9
	3年生	252	23.8	63.9	11.9	0.4	-	87.7	12.3
	4年生	252	28.2	63.5	7.1	0.8	0.4	91.7	7.9

(%)

- ◆ マナーに関する各項目について、「あなたのお考えに最も近いものはどれですか」という質問に対して、「そう思う(計)」と回答した人が多かった項目は「きちんとマナーを守る人は、カッコいいと思う」が約94%と最も多く、次いで「きちんとマナーを守ることは、自分にとって得だと思う」が約88%、「きちんとマナーを守った方が、モテると思う」が約78%となった。
- ◆ また、「そう思わない(計)」と回答した人が多かった項目は「日本人は、外国人に比べてマナーが悪いと思う」が約83%と最も多く、次いで「男性は、女性に比べてマナーが悪いと思う」が約65%、「他人に迷惑をかけていなければ、多少のマナー違反も問題ないと思う」が約49%となった。

問 8 以下に、マナーに関する様々な意見を挙げています。それぞれについて、「1. そう思う」～「4. そう思わない」の中から、あなたのお考えに最も近いものをひとつ選び、○印をつけてください。＜全ベース＞

<全体: N=1008>



問8

以下に、マナーに関する様々な意見を挙げています。それぞれについて、「1. そう思う」～「4. そう思わない」の中から、あなたのお考えに最も近いものをひとつ選び、○印をつけてください。 <全ベース>

	サンプル数	A. きちんとマナーを守る人は、かっこいいと思う						B. きちんとマナーを守ることは、自分にとって得だと思う						C. きちんとマナーを守った方が、モテると思う									
		そう思う	ややそう思う	あまり思わない	そう思わない	無回答	そう思う計	そう思わない計	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	そう思わない	無回答	そう思う計	そう思わない計	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	そう思わない	無回答	そう思う計	そう思わない計	
全体	1008	71.3	23.1	4.1	1.5	-	94.4	5.6	53.6	34.0	10.2	2.2	-	87.6	12.4	43.3	34.3	16.5	6.0	-	77.6	22.4	
性別	男性	504	67.3	24.6	5.6	2.6	-	91.9	8.1	52.4	32.5	11.7	3.4	-	84.9	15.1	41.5	31.9	17.7	8.9	-	73.4	26.6
	女性	504	75.4	21.6	2.6	0.4	-	97.0	3.0	54.8	35.5	8.7	1.0	-	90.3	9.7	45.0	36.7	15.3	3.0	-	81.7	18.3
学年	1年生	252	71.4	24.6	2.8	1.2	-	96.0	4.0	59.1	32.5	7.1	1.2	-	91.7	8.3	41.3	37.7	15.1	6.0	-	79.0	21.0
	2年生	252	73.0	23.0	3.2	0.8	-	96.0	4.0	52.0	33.7	11.1	3.2	-	85.7	14.3	43.7	32.1	19.4	4.8	-	75.8	24.2
	3年生	252	73.0	19.8	5.6	1.6	-	92.9	7.1	55.2	34.5	8.3	2.0	-	89.7	10.3	46.4	33.3	14.3	6.0	-	79.8	20.2
	4年生	252	67.9	25.0	4.8	2.4	-	92.9	7.1	48.0	35.3	14.3	2.4	-	83.3	16.7	41.7	34.1	17.1	7.1	-	75.8	24.2

(%)

	サンプル数	D. 今の日本人は、昔に比べてマナーが悪いと思う						E. 日本人は、外国人に比べてマナーが悪いと思う						F. 男性は、女性に比べてマナーが悪いと思う									
		そう思う	ややそう思う	あまり思わない	そう思わない	無回答	そう思う計	そう思わない計	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	そう思わない	無回答	そう思う計	そう思わない計	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	そう思わない	無回答	そう思う計	そう思わない計	
全体	1008	22.5	39.3	33.2	5.0	-	61.8	38.2	5.4	12.1	54.7	27.9	-	17.5	82.5	8.7	26.6	49.3	15.4	-	35.3	64.7	
性別	男性	504	20.4	37.3	34.7	7.5	-	57.7	42.3	7.1	13.1	47.6	32.1	-	20.2	79.8	11.1	28.8	41.3	18.8	-	39.9	60.1
	女性	504	24.6	41.3	31.7	2.4	-	65.9	34.1	3.6	11.1	61.7	23.6	-	14.7	85.3	6.3	24.4	57.3	11.9	-	30.8	69.2
学年	1年生	252	26.6	38.1	30.6	4.8	-	64.7	35.3	8.3	13.5	51.6	26.6	-	21.8	78.2	10.3	25.8	48.4	15.5	-	36.1	63.9
	2年生	252	21.4	41.7	33.3	3.6	-	63.1	36.9	5.2	12.7	61.5	20.6	-	17.9	82.1	8.3	27.4	54.4	9.9	-	35.7	64.3
	3年生	252	23.0	38.9	32.5	5.6	-	61.9	38.1	2.8	9.9	59.1	28.2	-	12.7	87.3	9.1	26.6	46.0	18.3	-	35.7	64.3
	4年生	252	19.0	38.5	36.5	6.0	-	57.5	42.5	5.2	12.3	46.4	36.1	-	17.5	82.5	7.1	26.6	48.4	17.9	-	33.7	66.3

(%)

	サンプル数	G. 他人に迷惑をかけていなければ、多少のマナー違反も問題ないと思う							
		そう思う	ややそう思う	あまり思わない	そう思わない	無回答	そう思う計	そう思わない計	
全体	1008	9.5	41.1	35.5	13.8	0.1	50.6	49.3	
性別	男性	504	13.3	39.1	33.9	13.7	-	52.4	47.6
	女性	504	5.8	43.1	37.1	13.9	0.2	48.8	51.0
学年	1年生	252	11.1	36.1	36.9	15.9	-	47.2	52.8
	2年生	252	10.3	41.7	36.1	11.9	-	52.0	48.0
	3年生	252	8.7	39.3	37.7	13.9	0.4	48.0	51.6
	4年生	252	7.9	47.2	31.3	13.5	-	55.2	44.8

(%)

- ◆ 「あなたが普段、公共の場や集団の中など社会生活を送る上で、『やっではないけなと思いなながらも、ついやっしてしまうこと』は何ですか」という質問に対して、「なるべくしないように気をつけているものの、LINEや地図アプリの利用時に歩きスマホをしてしまうこと」と回答した人が298人と最も多く、次いで「法律上はしてはいいけなと知りつつ、イヤホンを着用しながらの走行や二人乗りなど自転車のマナーが悪くなってしまうこと」が115人、「急いでいるときにエスカレーターで歩いてしまうこと」が88人となった。

問9

あなたが普段、公共の場や集団の中など社会生活を送る上で、「やっではないけなと思いなながらも、ついやっしてしまうこと」は何ですか。
 <全ベース>

【やっではないけなと思いなながらもついやっしてしまうこと】

<全体 : N=1008 >

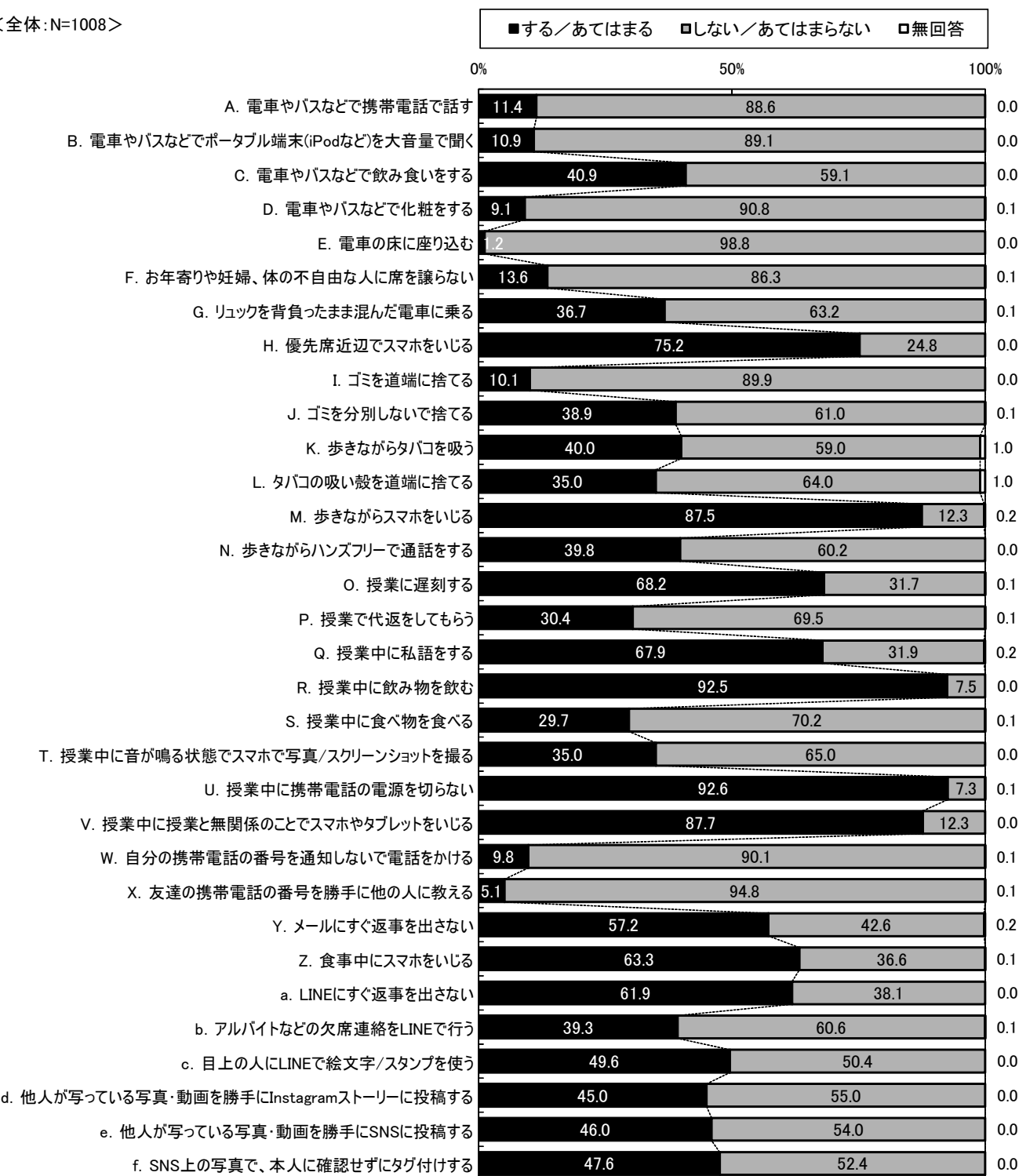
1位:	なるべくしないように気をつけているものの、LINEや地図アプリの利用時に歩きスマホをしてしまうこと	298人 (男性 144人 : 女性 154人)
2位:	法律上はしてはいいけなと知りつつ、イヤホンを着用しながらの走行や二人乗りなど自転車のマナーが悪くなってしまうこと	115人 (男性 71人 : 女性 44人)
3位:	急いでいるときにエスカレーターで歩いてしまうこと	88人 (男性 40人 : 女性 48人)
4位:	信号を無視してしまうこと	81人 (男性 47人 : 女性 34人)
5位:	ゴミを分別せずに捨ててしまうこと	44人 (男性 18人 : 女性 26人)
6位:	公共交通機関で優先席をお年寄りなどに譲らずに座ってしまうこと	43人 (男性 20人 : 女性 23人)
7位:	公共交通機関で時間がないときに飲食や化粧をしてしまうこと	40人 (男性 9人 : 女性 31人)
8位:	ゴミやタバコのポイ捨てをしてしまうこと	39人 (男性 33人 : 女性 6人)
9位:	公共交通機関の満員時にスマホを操作してしまうこと	32人 (男性 8人 : 女性 24人)
10位:	公共交通機関の優先席付近でスマホを操作してしまうこと	28人 (男性 9人 : 女性 19人)

11位:	人と話しているときにスマホを使用するなど、ながらスマホをしまうこと	24人 (男性 10人 : 女性 14人)
12位:	飲み会の後などに公共の場で騒いでしまうこと	21人 (男性 9人 : 女性 12人)
13位:	公共交通機関で駆け込み乗車をしまうこと	17人 (男性 9人 : 女性 8人)
14位:	公共交通機関で用件に応じて電話に出してしまうこと	16人 (男性 6人 : 女性 10人)
15位:	歩きタバコをしまうこと	13人 (男性 11人 : 女性 2人)
15位:	許可なしに写真撮影をしまうこと	13人 (男性 3人 : 女性 10人)
15位:	公共交通機関で大きな声で会話をしまうこと	13人 (男性 5人 : 女性 8人)
18位:	法律上してはいいけなと知りつつ、違法にアップロードされた動画/音楽を利用してしまうこと	12人 (男性 4人 : 女性 8人)
19位:	飲食店での長居や食べながらのスマホ操作など食事のマナーが悪くなってしまうこと	11人 (男性 5人 : 女性 6人)
20位:	授業中にスマホを操作するなどの授業態度が悪くなってしまうこと	10人 (男性 3人 : 女性 7人)

- ◆ 行為/行動を示す各項目について、「あなたは、普段することがありますか」という質問に対して、「する/あてはまる」と回答した人が多かった項目は「授業中に携帯電話の電源を切らない」「授業中に飲み物を飲む」がいずれも約93%で多く、次いで「歩きながらスマホをいじる」「授業中に授業と無関係のことでスマホやタブレットをいじる」がいずれも約88%、「優先席付近でスマホをいじる」が約76%となった。
- ◆ また、「しない/あてはまらない」と回答した人が多かった項目は「電車の床に座り込む」が約99%と最も多く、次いで「友達の携帯電話の番号を勝手に他の人に教える」が約95%、「電車やバスなどで化粧をする」が約91%となった。

問10 あなたは、次に挙げられた項目の行為/行動を、普段することがありますか。それぞれについて、あてはまるものいずれかに○印をつけてください。〈全ベース〉

〈全体:N=1008〉



問10

あなたは、次に挙げられた項目の行為／行動を、普段することがありますか。それぞれについて、あてはまるものいずれかに○印をつけてください。〈全ベース〉

	サンプル数	A. 電車やバスなどで携帯電話で話す			B. 電車やバスなどでポータブル端末(iPodなど)を大音量で聞く			C. 電車やバスなどで飲み食いをする			D. 電車やバスなどで化粧をする			E. 電車の床に座り込む			F. お年寄りや妊婦、体の不自由な人に席を譲らない			G. リュックを背負ったまま混んだ電車に乗る			
		する／あてはまる	あてはまらない	無回答	する／あてはまる	あてはまらない	無回答	する／あてはまる	あてはまらない	無回答	する／あてはまる	あてはまらない	無回答	する／あてはまる	あてはまらない	無回答	する／あてはまる	あてはまらない	無回答				
全体	1008	11.4	88.6	-	10.9	89.1	-	40.9	59.1	-	9.1	90.8	0.1	1.2	98.8	-	13.6	86.3	0.1	36.7	63.2	0.1	
性別	男性	504	13.1	86.9	-	13.9	86.1	-	▼35.9	○64.1	-	▼1.0	○98.8	0.2	1.2	98.8	-	13.5	86.5	-	36.1	63.7	0.2
	女性	504	9.7	90.3	-	7.9	92.1	-	45.8	54.2	-	○17.3	▼82.7	-	1.2	98.8	-	13.7	86.1	0.2	37.3	62.7	-
学年	1年生	252	9.9	90.1	-	9.1	90.9	-	▼35.7	○64.3	-	9.9	90.1	-	1.2	98.8	-	13.5	86.5	-	35.3	64.3	0.4
	2年生	252	10.3	89.7	-	11.9	88.1	-	43.3	56.7	-	9.5	90.5	-	1.6	98.4	-	15.9	84.1	-	○43.7	▼56.3	-
	3年生	252	9.9	90.1	-	8.3	91.7	-	40.1	59.9	-	6.7	92.9	0.4	0.8	99.2	-	10.3	89.3	0.4	▼29.8	○70.2	-
	4年生	252	15.5	84.5	-	14.3	85.7	-	44.4	55.6	-	10.3	89.7	-	1.2	98.8	-	14.7	85.3	-	38.1	61.9	-

(%)

	サンプル数	H. 優先席近辺でスマホをいじる			I. ゴミを道端に捨てる			J. ゴミを分別しないで捨てる			K. 歩きながらタバコを吸う			L. タバコの吸い殻を道端に捨てる			M. 歩きながらスマホをいじる			N. 歩きながらハンズフリーで通話をする			
		する／あてはまる	あてはまらない	無回答	する／あてはまる	あてはまらない	無回答	する／あてはまる	あてはまらない	無回答	する／あてはまる	あてはまらない	無回答	する／あてはまる	あてはまらない	無回答	する／あてはまる	あてはまらない	無回答				
全体	1008	75.2	24.8	-	10.1	89.9	-	38.9	61.0	0.1	40.0	59.0	1.0	35.0	64.0	1.0	87.5	12.3	0.2	39.8	60.2	-	
性別	男性	504	75.2	24.8	-	○16.3	▼83.7	-	41.5	58.5	-	43.2	55.7	1.1	38.6	60.2	1.1	86.7	13.3	-	43.3	56.7	-
	女性	504	75.2	24.8	-	▼4.0	○96.0	-	36.3	63.5	0.2	▼16.7	○83.3	-	▼8.3	○91.7	-	88.3	11.3	0.4	36.3	63.7	-
学年	1年生	252	73.0	27.0	-	10.7	89.3	-	▼27.8	○71.8	0.4	▼	▼	○00.0	▼	▼	○00.0	84.5	15.1	0.4	40.1	59.9	-
	2年生	252	73.4	26.6	-	9.1	90.9	-	38.9	61.1	-	38.5	61.5	-	38.5	61.5	-	86.5	13.5	-	35.3	64.7	-
	3年生	252	77.0	23.0	-	10.7	89.3	-	40.5	59.5	-	41.0	59.0	-	○41.0	▼59.0	-	86.9	13.1	-	39.3	60.7	-
	4年生	252	77.4	22.6	-	9.9	90.1	-	○48.4	▼51.6	-	40.4	59.6	-	▼29.8	○70.2	-	92.1	7.5	0.4	44.4	55.6	-

(%)

	サンプル数	O. 授業に遅刻する			P. 授業で代返をしてもらう			Q. 授業中に私語をする			R. 授業中に飲み物を飲む			S. 授業中に食べ物を食べる			T. 授業中に音が鳴る状態でスマホで写真/スクリーンショットを撮る			U. 授業中に携帯電話の電源を切らない			
		する／あてはまる	あてはまらない	無回答	する／あてはまる	あてはまらない	無回答	する／あてはまる	あてはまらない	無回答	する／あてはまる	あてはまらない	無回答	する／あてはまる	あてはまらない	無回答	する／あてはまる	あてはまらない	無回答				
全体	1008	68.2	31.7	0.1	30.4	69.5	0.1	67.9	31.9	0.2	92.5	7.5	-	29.7	70.2	0.1	35.0	65.0	-	92.6	7.3	0.1	
性別	男性	504	70.0	29.8	0.2	35.1	64.7	0.2	64.5	35.5	-	92.3	7.7	-	31.0	69.0	-	36.9	63.1	-	91.5	8.5	-
	女性	504	66.3	33.7	-	25.6	74.4	-	71.2	28.4	0.4	92.7	7.3	-	28.4	71.4	0.2	33.1	66.9	-	93.7	6.2	0.2
学年	1年生	252	▼54.4	○45.6	-	▼19.8	○80.2	-	67.5	31.7	0.8	90.1	9.9	-	27.8	72.2	-	32.5	67.5	-	89.7	9.9	0.4
	2年生	252	71.0	29.0	-	34.5	65.5	-	67.9	32.1	-	94.0	6.0	-	27.4	72.2	0.4	33.7	66.3	-	94.4	5.6	-
	3年生	252	○73.4	▼26.2	0.4	27.4	72.6	-	65.5	34.5	-	94.0	6.0	-	32.9	67.1	-	35.3	64.7	-	92.1	7.9	-
	4年生	252	○73.8	▼26.2	-	○39.7	▼59.9	0.4	70.6	29.4	-	91.7	8.3	-	30.6	69.4	-	38.5	61.5	-	94.0	6.0	-

(%)

問10

あなたは、次に挙げられた項目の行為／行動を、普段することがありますか。それぞれについて、あてはまるものいずれかに○印をつけてください。〈全ベース〉

	サンプル数	V. 授業中に授業と無関係のことでスマホやタブレットをいじる			W. 自分の携帯電話の番号を通知しないで電話をかける			X. 友達の携帯電話の番号を勝手に他の人に教える			Y. メールにすぐ返事を出さない			Z. 食事中にスマホをいじる			a. LINEにすぐ返事を出さない			b. アルバイトなどの欠席連絡をLINEで行う			
		する／あてはまる	あしなまらない	無回答	する／あてはまる	あしなまらない	無回答	する／あてはまる	あしなまらない	無回答	する／あてはまる	あしなまらない	無回答	する／あてはまる	あしなまらない	無回答	する／あてはまる	あしなまらない	無回答	する／あてはまる	あしなまらない	無回答	
全体	1008	87.7	12.3	-	9.8	90.1	0.1	5.1	94.8	0.1	57.2	42.6	0.2	63.3	36.6	0.1	61.9	38.1	-	39.3	60.6	0.1	
性別	男性	504	85.1	14.9	-	10.7	89.1	0.2	7.3	92.5	0.2	52.4	47.4	0.2	68.3	31.5	0.2	59.3	40.7	-	38.9	61.1	-
	女性	504	90.3	9.7	-	8.9	91.1	-	2.8	97.2	-	62.1	37.7	0.2	58.3	41.7	-	64.5	35.5	-	39.7	60.1	0.2
学年	1年生	252	78.2	21.8	-	7.9	92.1	-	5.6	94.4	-	58.7	41.3	-	56.7	43.3	-	61.1	38.9	-	30.6	69.0	0.4
	2年生	252	88.5	11.5	-	7.9	92.1	-	4.0	96.0	-	56.7	43.3	-	61.5	38.5	-	61.5	38.5	-	46.8	53.2	-
	3年生	252	92.5	7.5	-	11.1	88.5	0.4	2.4	97.2	0.4	54.8	44.4	0.8	62.7	36.9	0.4	63.1	36.9	-	41.7	58.3	-
	4年生	252	91.7	8.3	-	12.3	87.7	-	8.3	91.7	-	58.7	41.3	-	72.2	27.8	-	61.9	38.1	-	38.1	61.9	-

(%)

	サンプル数	c. 目上の人にLINEで絵文字／スタンプを使う			d. 他人が写っている写真・動画を勝手にInstagramストーリーに投稿する			e. 他人が写っている写真・動画を勝手にSNSに投稿する			f. SNS上の写真で、本人に確認せずにタグ付けする			
		する／あてはまる	あしなまらない	無回答	する／あてはまる	あしなまらない	無回答	する／あてはまる	あしなまらない	無回答	する／あてはまる	あしなまらない	無回答	
全体	1008	49.6	50.4	-	45.0	55.0	-	46.0	54.0	-	47.6	52.4	-	
性別	男性	504	40.5	59.5	-	39.5	60.5	-	43.8	56.2	-	39.5	60.5	-
	女性	504	58.7	41.3	-	50.6	49.4	-	48.2	51.8	-	55.8	44.2	-
学年	1年生	252	50.4	49.6	-	44.8	55.2	-	42.9	57.1	-	43.3	56.7	-
	2年生	252	54.8	45.2	-	39.7	60.3	-	43.7	56.3	-	45.6	54.4	-
	3年生	252	42.5	57.5	-	45.6	54.4	-	47.6	52.4	-	50.4	49.6	-
	4年生	252	50.8	49.2	-	50.0	50.0	-	50.0	50.0	-	51.2	48.8	-

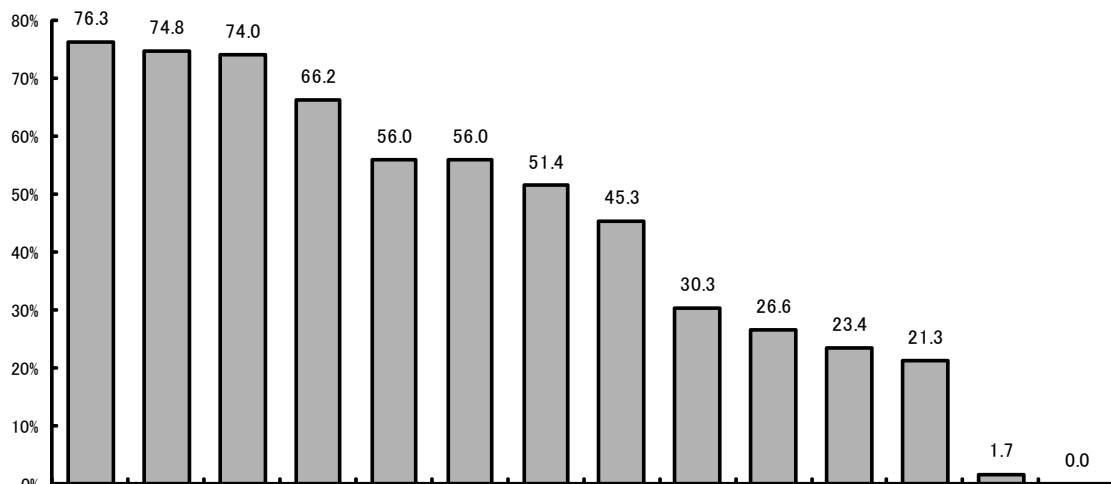
(%)

- ◆ 各項目について、「周りの人がしても気にならない/してしまっても仕方がないと思うことはありますか」という質問に対して、「授業内容に関連する内容を調べるため、授業中にスマホやPCをいじる」と回答した人が約76%と最も多く、次いで「LINEですぐに返信ができない時に、既読無視より未読無視を選ぶ」が約75%、「譲るべき人がいない場合に、優先席に座る」が74%となった。
- ◆ 一方で、「時間の節約のために、電車内で化粧をしたり軽食をとる」と回答した人が約21%と最も少なく、次いで「LINEの既読無視を『了解しました』の返事の代わりにする」が約23%、「相手が読みやすくするため、SNSで正式な挨拶や名乗りを省略する」が約27%となった。

問11 以下の項目のうち、周りの人がしても気にならない/してしまっても仕方がないと思うことはありますか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。〈全ベース〉

<全体：N=1008>

※全体のスコアで降順ソート



サンプル数	授業内容に関連する内容を調べるため、授業中にスマホやPCをいじる	LINEですぐに返信ができない時に、既読無視より未読無視を選ぶ	譲るべき人がいない場合に、優先席に座る	授業内容を正しく記録するために、板書・スライドをスマホで撮影する	眠気防止のために、授業中にガムを噛む	LINEなどがあるときは、友人と話していてもスマホをいじる	コットやマフラーを身につけたままでも	体調管理のため、授業中でもメモをとる	手早く正確にメモするために、人の話を聞きながらスマホで	思いついたことを残したいので、場所をわきまえずに写真を撮る	SNSで正式な挨拶や名乗りを省略する	「了解しました」の返事の代わりにする	LINEの既読無視を	時間の節約のために、電車内で化粧をしたり軽食をとる	あてはまるものはない	無回答
全体	1008	76.3	74.8	74.0	66.2	56.0	56.0	51.4	45.3	30.3	26.6	23.4	21.3	1.7	-	
性別	男性	504	74.4	70.4	73.8	63.3	55.8	52.6	48.8	45.8	32.3	26.8	22.4	21.6	2.0	-
	女性	504	78.2	79.2	74.2	69.0	56.2	59.3	54.0	44.8	28.2	26.4	24.4	21.0	1.4	-
学年	1年生	252	▼64.7	73.0	73.4	63.5	52.0	51.2	▼44.8	40.9	31.7	▼20.6	23.8	20.2	3.2	-
	2年生	252	○83.3	76.2	73.0	70.6	57.5	55.6	○51.2	▼25.0	29.4	23.0	22.6	0.4	-	
	3年生	252	78.6	76.2	77.4	65.9	56.0	56.3	53.6	47.2	32.5	26.2	26.6	19.4	2.0	-
	4年生	252	78.6	73.8	72.2	64.7	58.3	60.7	56.0	42.1	31.7	30.2	20.2	23.0	1.2	-

(%)

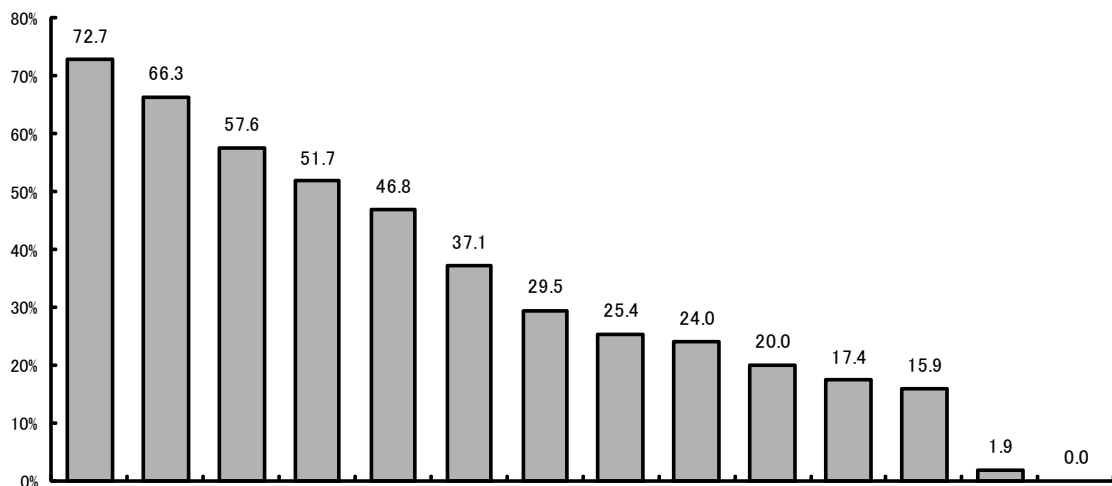
- ◆ 問11と同様の各項目について、「あなたご自身が、思わずやってしまうと思うことはありますか」という質問に対して、「LINEですぐに返信ができない時に、既読無視より未読無視を選ぶ」と回答した人が約73%と最も多く、次いで「授業内容に関連する内容を調べるため、授業中にスマホやPCをいじる」が約66%、「授業内容を正しく記録するため、板書・スライドをスマホで撮影する」が約58%と続く結果となった。
- ◆ 一方で、「時間の節約のために、電車内で化粧をしたり軽食をとる」と回答した人が約16%と最も少なく、次いで「相手を読みやすくするため、SNSで正式な挨拶や名乗りを省略する」が約18%、「思い出として残したいので、場所をわきまえずに写真を撮る」が24%と続く結果となった。

問12

以下の項目のうち、あなたご自身が、思わずやってしまうと思うことはありますか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。
 <全ベース>

<全体: N=1008>

※全体のスコアで降順ソート



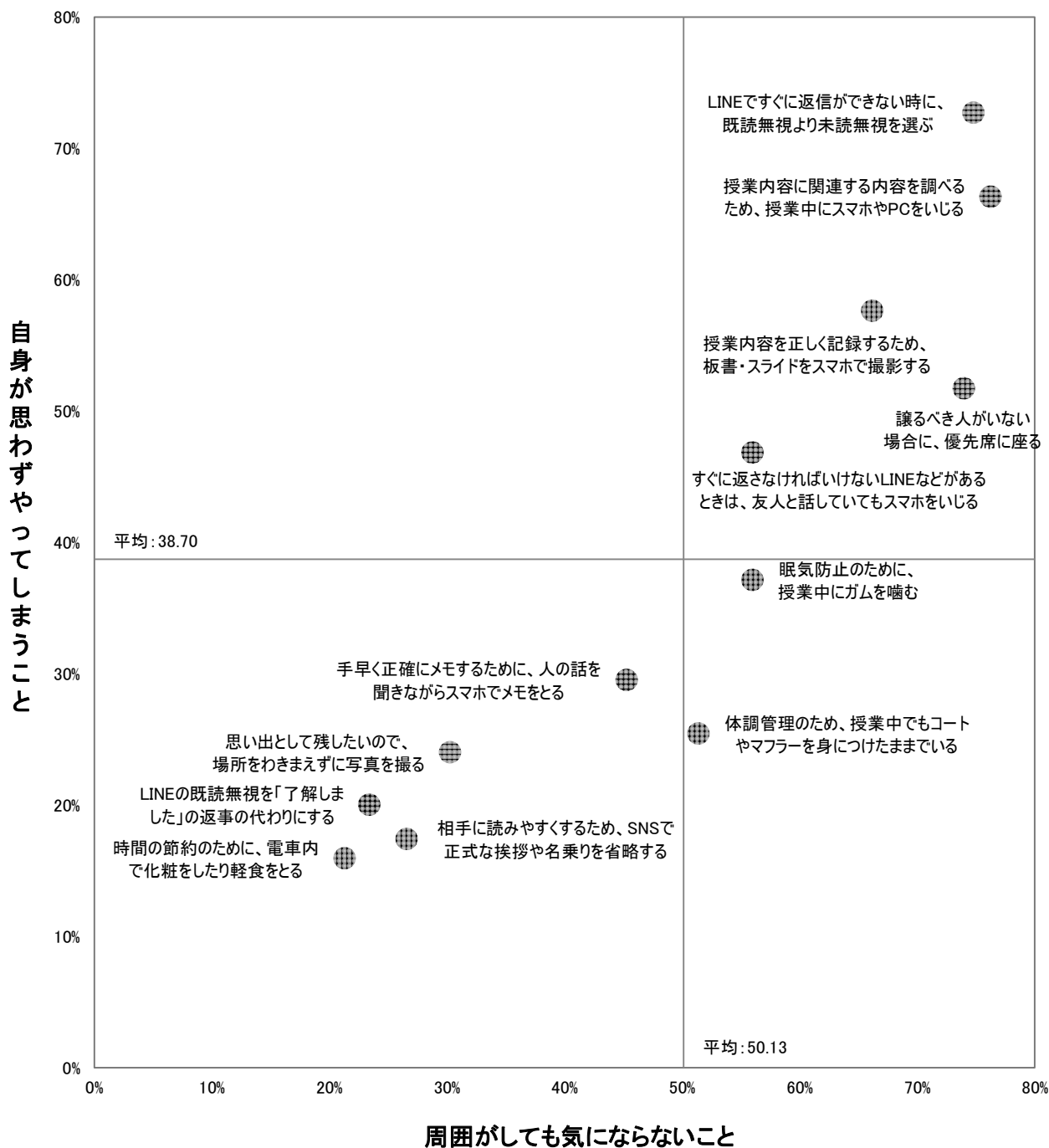
サンプル数	未読無視を選ぶ	LINEですぐに返信ができない	授業内容に関連する内容を調べるため、授業中にスマホやPCをいじる	授業内容を正しく記録するため、板書・スライドをスマホで撮影する	譲るべき人がいない場合に、優先席に座る	LINEなどであればいけない話しているときも、スマホをいじる	睡眠防止のために、授業中にガムを噛む	手早く正確にメモする	体調管理のため、授業中でもコートやマフラーを身につけたままにいる	思い出として残したいので、場所をわきまえずに写真を撮る	LINEの既読無視を「了解しました」の返事代わりにする	SNSで正式な挨拶や名乗りを省略する	相手の読みやすくするため、時間の節約のために、電車内で化粧をしたり軽食をとる	あてはまるものはない	無回答
全体	1008	72.7	66.3	57.6	51.7	46.8	37.1	29.5	25.4	24.0	20.0	17.4	15.9	1.9	-
性別	男性	504	▼ 66.9	63.3	53.8	52.8	42.7	40.5	21.8	23.8	16.7	17.1	11.3	3.2	-
	女性	504	○ 78.6	69.2	61.5	50.6	51.0	33.7	29.4	24.2	23.4	17.7	20.4	0.6	-
学年	1年生	252	▼ 68.7	▼ 56.3	55.6	54.4	42.9	38.1	25.4	23.0	19.0	12.7	14.3	3.6	-
	2年生	252	○ 73.0	○ 72.2	61.1	50.0	48.4	▼ 31.3	○ 36.1	23.8	17.1	19.0	18.7	1.2	-
	3年生	252	75.4	68.7	59.5	48.8	49.2	36.5	29.4	29.4	21.0	17.5	14.7	2.0	-
	4年生	252	73.8	67.9	54.4	53.6	46.8	○ 42.5	27.0	25.4	23.8	23.0	20.2	15.9	0.8

(%)

◆ 「周りの人がしても気にならない/してしまっても仕方がないと思うことはありますか」という質問と「あなたご自身が、思わずやってしまうと思うことはありますか」という質問に対して、それぞれのスコアを縦軸横軸でプロットしてみると、「LINEですぐに返事ができない時に、既読無視より未読無視を選ぶ」「授業内容に関連する内容を調べるため、授業中にスマホやPCをいじる」「授業内容を正しく記録するため、板書・スライドをスマホで撮影する」「譲るべき人がいない場合に、優先席に座る」「すぐに返さなければいけないLINEなどがあるときは、友人と話していてもスマホをいじる」が各設問スコアの平均値とともに上回る結果となった。

問11 以下の項目のうち、周りの人がしても気にならない/してしまっても仕方がないと思うことはありますか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。＜全ベース＞

問12 以下の項目のうち、あなたご自身が、思わずやってしまうと思うことはありますか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。＜全ベース＞

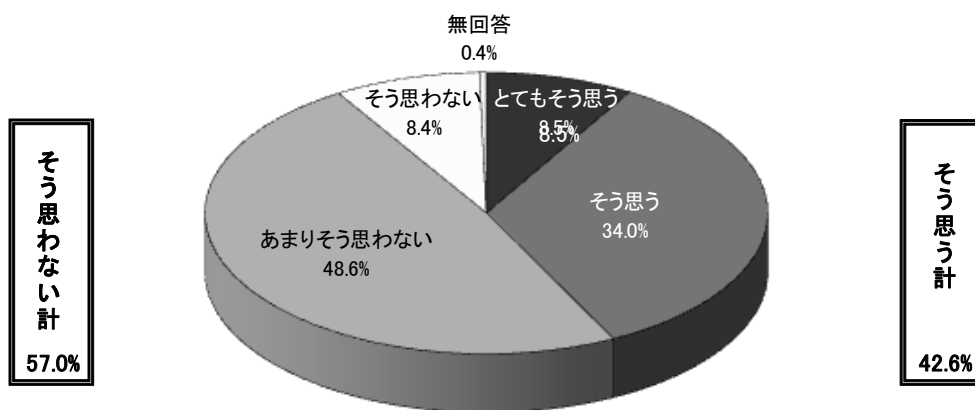


- ◆ 「あなたは、世の中には、今の時代にふさわしくない/意味がない/無駄だと感じるマナー、礼儀やしきたりが多いと思いますか」という質問に対して、「そう思う(計)」と回答した人は全体の約43%、「そう思わない(計)」と回答した人は全体の57%となった。
- ◆ 「そう思う(計)」と回答した人に対して、「あなたは、今の時代にふさわしくない/意味がない/無駄だと感じるマナー、礼儀やしきたりはありますか」という質問をしたところ、「頭髮に関するルール(長さ・色など)」と回答した人が約47%と最も多く、次いで「お付き合いのための飲み会」が約44%、「リクルートスーツ」が41%となった。

問13

あなたは世の中には、今の時代にふさわしくない／意味がない／無駄だと感じるマナー、礼儀やしきたりが多いと思いますか。
あなたのお考えに最も近いものをひとつだけ選び、○印をつけてください。＜全ベース＞

＜全体：N=1008＞



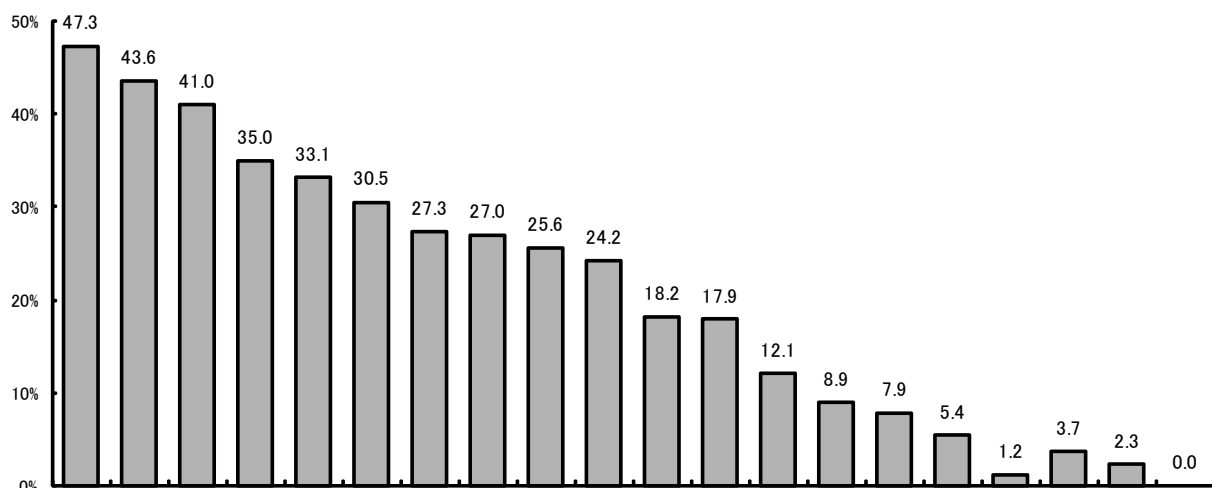
		サンプル数	とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	そう思う計	そう思わない計
全体		1008	8.5	34.0	48.6	8.4	0.4	42.6	57.0
性別	男性	504	12.5	36.3	▼ 43.3	7.7	0.2	○ 48.8	▼ 51.0
	女性	504	4.6	31.7	○ 54.0	9.1	0.6	▼ 36.3	○ 63.1
学年	1年生	252	8.3	30.2	51.2	9.1	1.2	38.5	60.3
	2年生	252	7.1	37.7	49.2	5.6	0.4	44.8	54.8
	3年生	252	9.1	36.1	46.4	8.3	-	45.2	54.8
	4年生	252	9.5	32.1	47.6	10.7	-	41.7	58.3

(%)

問13付問 以下に、様々なマナー、礼儀やしきたりを挙げています。このうち、あなたが今の時代にふさわしくない／意味がない／無駄だと感じるものはありますか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。〈時代遅れ・無意味なマナーが多いと感じる人ベース〉

〈時代遅れ・無意味なマナーが多いと感じる人ベース：N=429〉

※全体のスコアで降順ソート



	サンプル数	頭髪に関するルール (長さ・色など)	お付き合いのための飲み会	リクルートスーツ	お酌周りなど宴会での目上の人への配慮	職場・アルバイト先への言葉で表す(歴注)	六曜(大安・仏滅などの言葉)	お歳暮／お中元など季節の贈り物	手紙を書く際の決まりごと	「拝啓」「謹啓」など、そのお返し	年賀状	パレンタインの義理チョコ	「迷い箸」「にぎり箸」などの箸に関するマナー	ハロウィン	正月のおせち料理	年越しそば	成人式	クリスマス	「いただきます」という挨拶	その他	あてはまるものはない	無回答
全体	429	47.3	43.6	41.0	35.0	33.1	30.5	27.3	27.0	25.6	24.2	18.2	17.9	12.1	8.9	7.9	5.4	1.2	3.7	2.3	-	
性別	男性	246	45.1	40.2	39.8	36.6	35.0	33.7	28.5	28.0	21.5	30.9	22.0	19.9	14.6	11.0	11.8	6.5	2.0	4.5	2.8	-
	女性	183	50.3	48.1	42.6	32.8	30.6	26.2	25.7	25.7	31.1	15.3	13.1	15.3	8.7	6.0	2.7	3.8	-	2.7	1.6	-
学年	1年生	97	51.5	40.2	27.8	28.9	30.9	29.9	23.7	32.0	30.9	25.8	13.4	19.6	11.3	16.5	11.3	7.2	1.0	2.1	-	-
	2年生	113	45.1	46.0	35.4	37.2	37.2	30.1	27.4	17.7	23.9	23.9	16.8	21.2	8.8	5.3	8.0	3.5	-	5.3	5.3	-
	3年生	114	48.2	41.2	40.4	36.0	29.8	29.8	28.9	30.7	25.4	26.3	20.2	21.1	13.2	6.1	6.1	7.9	1.8	4.4	3.5	-
	4年生	105	44.8	46.7	60.0	37.1	34.3	32.4	28.6	28.6	22.9	21.0	21.9	9.5	15.2	8.6	6.7	2.9	1.9	2.9	-	-

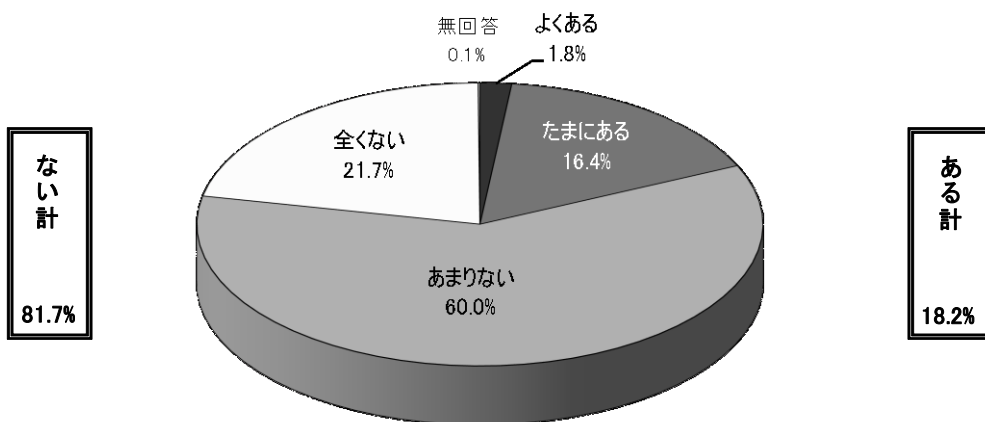
(%)

- ◆ 「あなたは、普段、マナーに関して友人・知人から注意されることがありますか」という質問に対して、「ある(計)」と回答した人は全体の約18%、「ない(計)」と回答した人は全体の約82%となった。
- ◆ マナーに関して友人・知人から注意されることが「よくある」「たまにある」と回答した人に対して、「マナーに関して友人・知人から注意された際、あなたのお気持ちに最も近いのはどれですか」という質問をしたところ、「ありがたい」と回答した人が約60%と最も多く、次いで「恥ずかしい」が約34%、「腹立たしい」が約6%となった。

問14

あなたは普段、マナーに関して友人・知人から注意をされることがありますか。あてはまるものをひとつだけ選び、○印をつけてください。
 <全ベース>

<全体: N=1008>



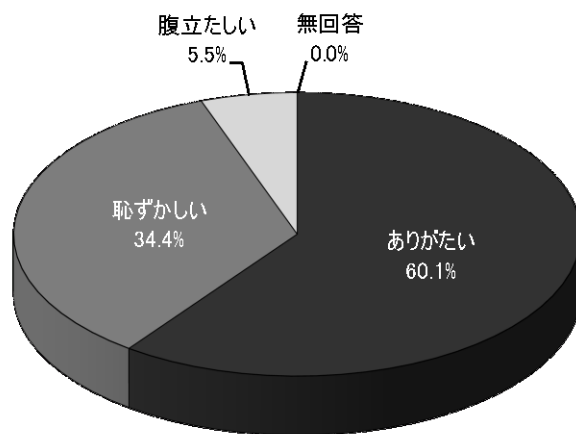
		サンプル数	よくある	たまにある	あまりない	全くない	無回答	ある計	ない計
全体		1008	1.8	16.4	60.0	21.7	0.1	18.2	81.7
性別	男性	504	2.0	16.1	56.5	25.4	-	18.1	81.9
	女性	504	1.6	16.7	63.5	18.1	0.2	18.3	81.5
学年	1年生	252	0.8	17.9	58.7	22.2	0.4	18.7	81.0
	2年生	252	3.6	17.9	59.1	19.4	-	21.4	78.6
	3年生	252	2.0	15.1	64.7	18.3	-	17.1	82.9
	4年生	252	0.8	14.7	57.5	27.0	-	15.5	84.5

(%)

問14付問

マナーに関して友人・知人から注意をされた際、あなたのお気持ちに最も近いのはどれですか。あてはまるものをひとつだけ選び、○印をつけてください。〈友人・知人からマナーに関して注意を受ける人ベース〉

〈友人・知人からマナーに関して注意を受ける人ベース：N=183〉



		サンプル数	ありがたい	恥ずかしい	腹立たい	無回答
全体		183	60.1	34.4	5.5	-
性別	男性	91	59.3	34.1	6.6	-
	女性	92	60.9	34.8	4.3	-
学年	1年生	47	57.4	38.3	4.3	-
	2年生	54	55.6	35.2	9.3	-
	3年生	43	○ 65.1	30.2	4.7	-
	4年生	39	64.1	33.3	2.6	-

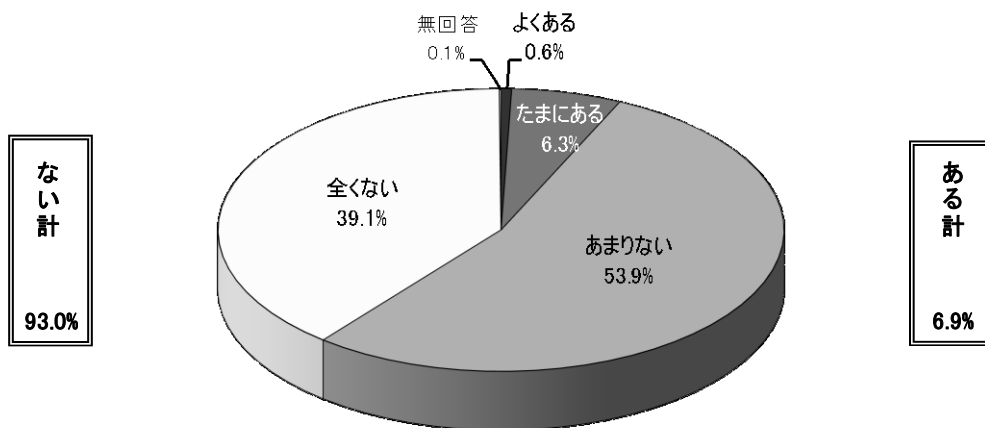
(%)

- ◆ 「あなたは、普段、マナーに関して他人(友人・知人を除く)から注意をされることがありますか」という質問に対して、「ある(計)」と回答した人は全体の約7%、「ない(計)」と回答した人は全体の93%となった。
- ◆ マナーに関して他人(友人・知人を除く)から注意をされることが「よくある」「たまにある」と回答した人に対して、「マナーに関して他人(友人・知人を除く)から注意をされた際、あなたのお気持ちに最も近いのはどれですか」という質問をしたところ、「ありがたい」と回答した人が約49%と最も多く、次いで「恥ずかしい」が約34%、「腹立たしい」が約17%となった。

問15

あなたは普段、マナーに関して他人(友人・知人を除く)から注意をされることがありますか。あてはまるものをひとつだけ選び、○印をつけてください。 <全ベース>

<全体: N=1008>



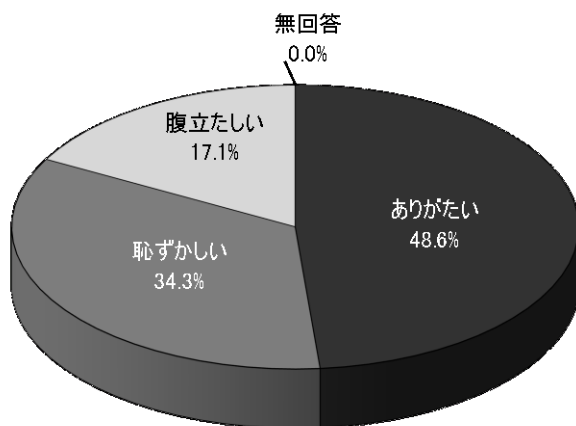
		サンプル数	よくある	たまにある	あまりない	全くない	無回答	ある計	ない計
全体		1008	0.6	6.3	53.9	39.1	0.1	6.9	93.0
性別	男性	504	0.4	6.2	53.6	39.9	-	6.5	93.5
	女性	504	0.8	6.5	54.2	38.3	0.2	7.3	92.5
学年	1年生	252	-	6.3	56.3	36.9	0.4	6.3	93.3
	2年生	252	0.8	8.7	54.4	36.1	-	9.5	90.5
	3年生	252	1.2	7.1	54.8	36.9	-	8.3	91.7
	4年生	252	0.4	3.2	50.0	46.4	-	3.6	96.4

(%)

問15付問

マナーに関して他人(友人・知人を除く)から注意をされた際、あなたのお気持ちに最も近いのはどれですか。あてはまるものをひとつだけ選び、○印をつけてください。〈他人からマナーに関して注意を受ける人ベース〉

〈他人からマナーに関して注意を受ける人ベース: N=70〉



		サンプル数	ありがたい	恥ずかしい	腹立たしい	無回答
全体		70	48.6	34.3	17.1	-
性別	男性	33	48.5	33.3	18.2	-
	女性	37	48.6	35.1	16.2	-
学年	1年生	16	50.0	37.5	12.5	-
	2年生	24	▼ 33.3	○ 45.8	20.8	-
	3年生	21	○ 66.7	▼ 14.3	19.0	-
	4年生	9	44.4	○ 44.4	▼ 11.1	-

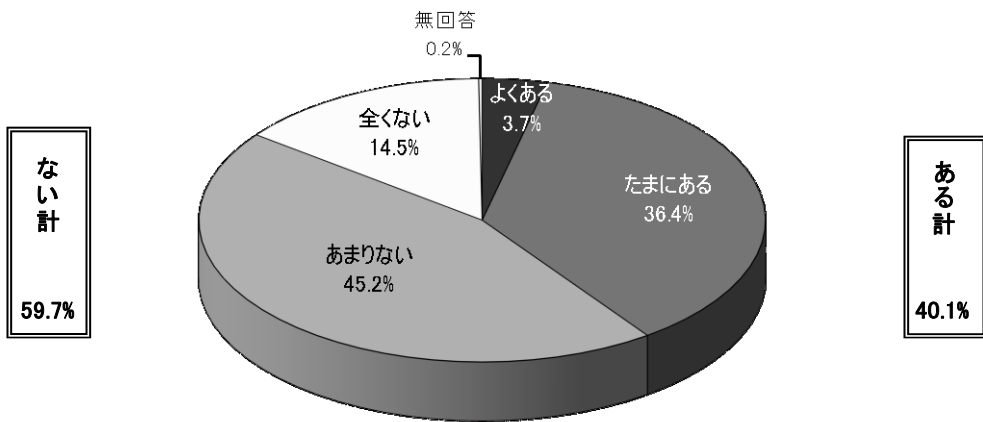
(%)

- ◆ 「あなたは、普段、マナーに関して友人・知人に注意をすることがありますか」という質問に対して、「ある(計)」と回答した人は全体の約40%、「ない(計)」と回答した人は全体の約60%となった。

問16

あなたは普段、マナーに関して友人・知人に注意をすることがありますか。あてはまるものをひとつだけ選び、○印をつけてください。
 <全ベース>

<全体:N=1008>



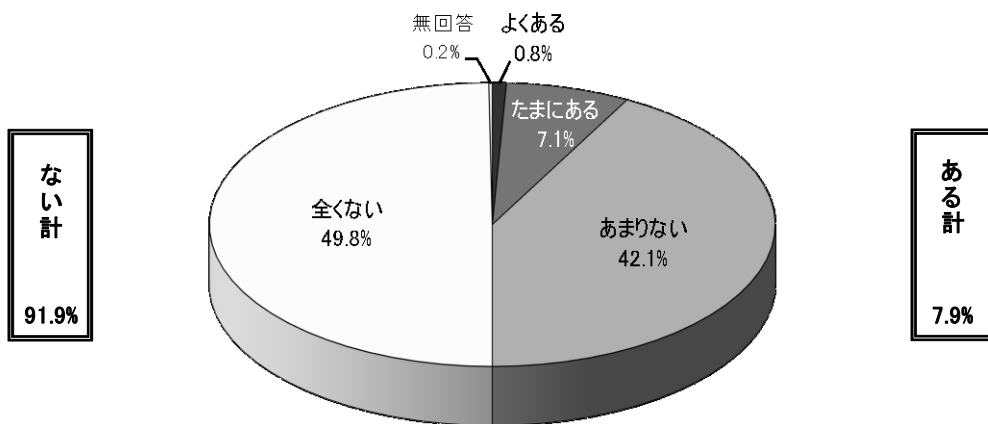
		サンプル数	よくある	たまにある	あまりない	全くない	無回答	ある計	ない計
全体		1008	3.7	36.4	45.2	14.5	0.2	40.1	59.7
性別	男性	504	5.4	38.5	40.5	15.5	0.2	43.8	56.0
	女性	504	2.0	34.3	50.0	13.5	0.2	36.3	63.5
学年	1年生	252	4.0	35.7	44.8	15.1	0.4	39.7	59.9
	2年生	252	2.4	36.9	45.2	15.5	-	39.3	60.7
	3年生	252	3.2	38.5	47.2	10.7	0.4	41.7	57.9
	4年生	252	5.2	34.5	43.7	16.7	-	39.7	60.3

(%)

◆ 「あなたは、普段、マナーに関して他人(友人・知人を除く)に注意をすることがありますか」という質問に対して、「ある(計)」と回答した人は全体の約8%、「ない(計)」と回答した人は全体の約92%となった。

問17 あなたは普段、マナーに関して他人(友人・知人を除く)に注意をすることがありますか。あてはまるものをひとつだけ選び、○印をつけてください。〈全ベース〉

<全体:N=1008>



		サンプル数	よくある	たまにある	あまりない	全くない	無回答	ある計	ない計
全体		1008	0.8	7.1	42.1	49.8	0.2	7.9	91.9
性別	男性	504	1.4	8.5	44.4	45.6	-	9.9	90.1
	女性	504	0.2	5.8	39.7	54.0	0.4	6.0	93.7
学年	1年生	252	0.8	9.9	44.0	44.4	0.8	10.7	88.5
	2年生	252	0.4	7.5	42.9	49.2	-	7.9	92.1
	3年生	252	0.4	4.4	43.7	51.6	-	4.8	95.2
	4年生	252	1.6	6.7	37.7	54.0	-	8.3	91.7

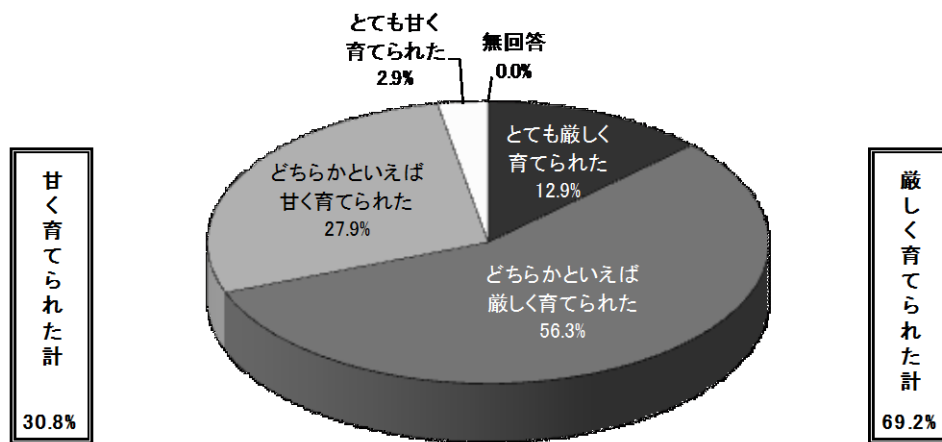
(%)

◆ 「あなたは、家庭でどの程度『しつけ』に関して、厳しく育てられたと思いますか」という質問に対して、「厳しく育てられた(計)」と回答した人は全体の約69%、「甘く育てられた(計)」と回答した人は全体の約31%となった。

問18

あなたは、ご家庭でどの程度「しつけ」に関して、厳しく育てられたと思いますか。 <全ベース>

<全体：N=1008>



	サンプル数	とても厳しく育てられた	どちらかといえば厳しく育てられた	どちらかといえば甘く育てられた	とても甘く育てられた	無回答	厳しく育てられた計	甘く育てられた計
全体	1008	12.9	56.3	27.9	2.9	-	69.2	30.8
性別	男性	13.3	53.2	30.2	3.4	-	66.5	33.5
	女性	12.5	59.5	25.6	2.4	-	72.0	28.0
学年	1年生	13.5	57.9	25.8	2.8	-	71.4	28.6
	2年生	8.7	61.1	27.8	2.4	-	69.8	30.2
	3年生	13.9	53.6	31.0	1.6	-	67.5	32.5
	4年生	15.5	52.8	27.0	4.8	-	68.3	31.7

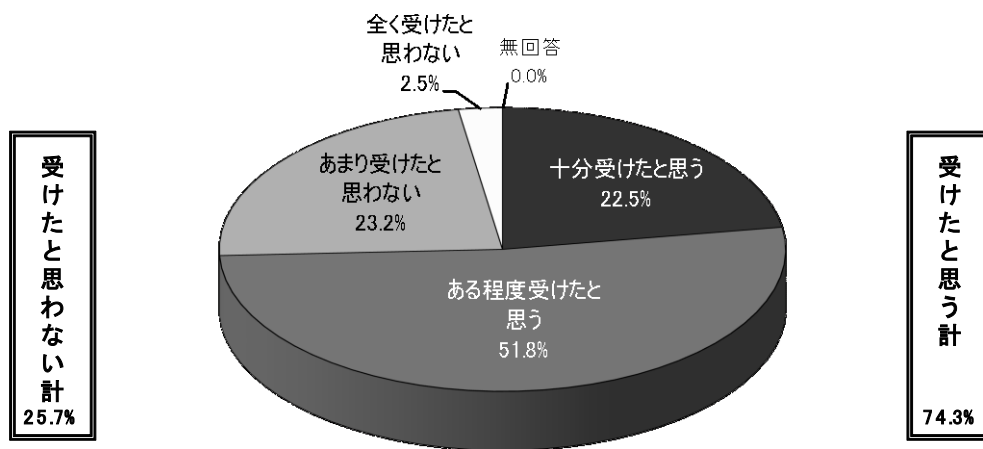
(%)

◆ 「あなたは、小学校や中学校、高等学校などで、『マナー』に関して十分な教育を受けたと思いますか」という質問に対して、「受けたと思う(計)」と回答した人は全体の約74%、「受けたと思わない(計)」と回答した人は全体の約26%となった。

問19

あなたは、小学校や中学校、高等学校などで、「マナー」に関して十分な教育を受けたと思いますか。 <全ベース>

<全体：N=1008>



	サンプル数	十分受けたと思う	ある程度受けたと思う	あまり受けたと思わない	全く受けたと思わない	無回答	受けたと思う計	受けたと思わない計
全体	1008	22.5	51.8	23.2	2.5	-	74.3	25.7
性別	男性	21.4	50.2	24.4	4.0	-	71.6	28.4
	女性	23.6	53.4	22.0	1.0	-	77.0	23.0
学年	1年生	25.0	53.2	19.0	2.8	-	78.2	21.8
	2年生	23.0	52.4	22.6	2.0	-	75.4	24.6
	3年生	22.6	52.0	22.6	2.8	-	74.6	25.4
	4年生	19.4	49.6	28.6	2.4	-	▼ 69.0	○ 31.0

(%)

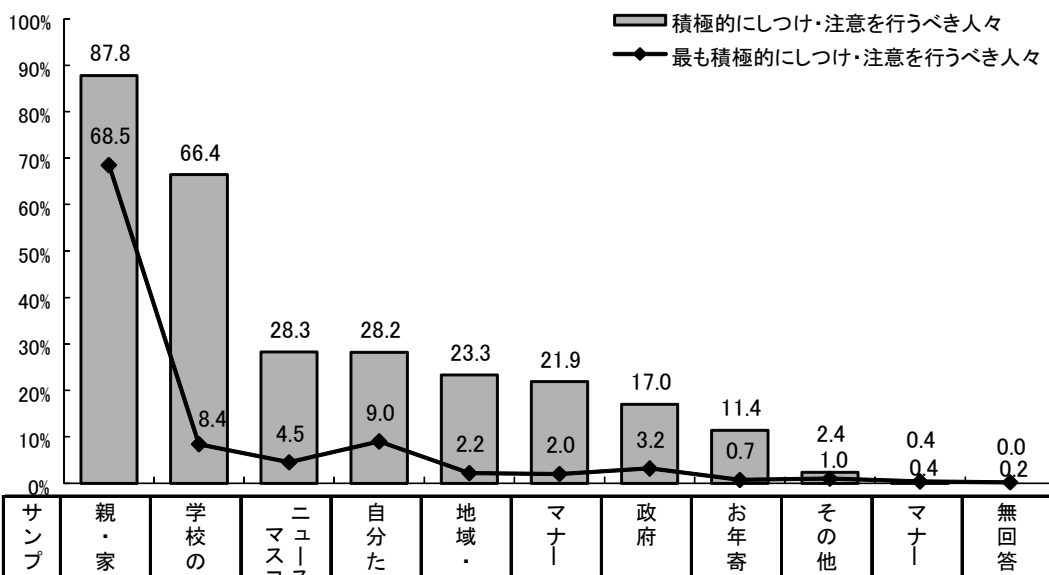
- ◆ 「あなたは、誰が『しつけ』や『注意』などを積極的に行っていくべきだと思いますか」という質問に対して、「親・家族」と回答した人が約88%と最も多く、次いで「学校の先生」が約66%、「自分たち大学生」「ニュースや報道番組などのマスコミ」がいずれも約28%となった。
- ◆ また、「選んだ項目の中で、誰が最も積極的に『しつけ』や『注意』などを行っていくべきだと思いますか」という質問に対して、「親・家族」と回答した人が約69%と最も多く、次いで「自分たち大学生」が9%、「学校の先生」が約8%となった。

問20

あなたは、今後、世の中のマナーをもっと良くするために、誰が「しつけ」や「注意」などを積極的に行っていくべきだと思いますか。
 <全ベース>

<全体:N=1008>

※全体のスコアで降順ソート



サンプル数	親・家族	学校の先生	ニュースや報道番組	自分たち大学生	地域・近所の人々	マナー広告	政府	お年寄り	その他	マナーを良くする必要はない	無回答		
全体	1008	87.8	66.4	28.3	28.2	23.3	21.9	17.0	11.4	2.4	0.4	-	
性別	男性	504	86.9	67.1	24.2	32.5	22.0	18.8	17.7	12.9	2.8	0.6	-
	女性	504	88.7	65.7	32.3	23.8	24.6	25.0	16.3	9.9	2.0	0.2	-
学年	1年生	252	83.7	60.7	24.2	29.4	23.8	19.0	16.3	15.9	1.6	0.4	-
	2年生	252	86.9	67.5	31.0	31.7	23.8	24.2	16.7	10.7	2.0	0.8	-
	3年生	252	91.3	69.4	30.6	25.0	19.8	24.2	14.3	7.1	3.6	-	-
	4年生	252	89.3	67.9	27.4	26.6	25.8	20.2	20.6	11.9	2.4	0.4	-

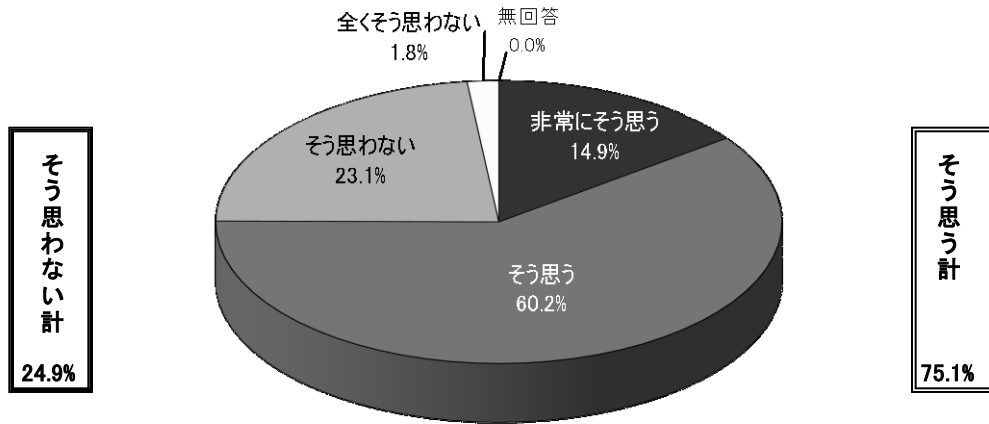
(%)

- ◆ 「あなたは、日本がマナー先進国だと思いますか」という質問に対して、「そう思う(計)」と回答した人は全体の約75%、「そう思わない(計)」と回答した人は全体の約25%となった。

問21

あなたは、日本がマナー先進国だと思いますか。〈全ベース〉

〈全体:N=1008〉



		サンプル数	非常にそう思う	そう思う	そう思わない	全くそう思わない	無回答	そう思う計	そう思わない計
全体		1008	14.9	60.2	23.1	1.8	-	75.1	24.9
性別	男性	504	17.5	55.4	24.4	2.8	-	72.8	27.2
	女性	504	12.3	65.1	21.8	0.8	-	77.4	22.6
学年	1年生	252	17.1	58.7	23.4	0.8	-	75.8	24.2
	2年生	252	13.5	62.3	22.6	1.6	-	75.8	24.2
	3年生	252	17.1	57.1	23.0	2.8	-	74.2	25.8
	4年生	252	11.9	62.7	23.4	2.0	-	74.6	25.4

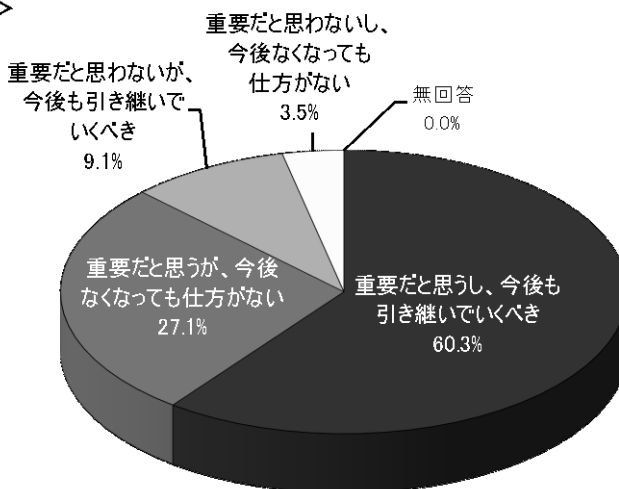
(%)

- ◆ 「あなたは、日本に古くからある様々な種類の敬語や季節の挨拶など、人間関係をスムーズにするための礼儀やしきたりについてどう思いますか」という質問に対して、「重要だと思うし、今後も引き継いでいくべき」と回答した人が約60%と最も多く、次いで「重要だと思うが、今後なくなっても仕方がない」が約27%となった。
- ◆ 一方で、「重要だと思わないし、今後なくなっても仕方がない」と回答した人は約4%、次いで「重要だと思わないが、今後も引き継いでいくべき」は約9%となった。

問22

日本には古くから様々な種類の敬語や季節の挨拶など、人間関係をスムーズにするための礼儀やしきたりがあります。このことについて、以下の中からあなたのお考えに最も近いものをひとつだけ選び、○印をつけてください。 <全ベース>

<全体: N=1008>



サンプル数		重要だと思ひ、今後も引き継いでいくべき	重要だと思ひなが、今後もなくなつても仕方がない	重要だと思ひないが、今後も引き継いでいくべき	重要だと思ひなくなつても仕方がない	無回答	
全体		1008	60.3	27.1	9.1	3.5	-
性別	男性	504	▼ 54.4	31.5	9.7	4.4	-
	女性	504	○ 66.3	22.6	8.5	2.6	-
学年	1年生	252	64.3	25.0	7.9	2.8	-
	2年生	252	57.1	27.8	11.9	3.2	-
	3年生	252	60.7	28.2	7.9	3.2	-
	4年生	252	59.1	27.4	8.7	4.8	-

(%)

問22付問

あなたがそうにお答えになったのは、どのような理由からですか。具体的にお答えください。〈全ベース〉

【「重要だと思うし、今後も引き継いでいくべき」と感じる理由】

〈重要だと思うし、今後も引き継いでいくべきベース: N=608〉

1位: 礼儀やしきたり、敬語は、海外にはない日本古来の伝統・文化だから	196人（男性 90人：女性 106人）
2位: 挨拶や言葉遣いは人間関係において重要だから	89人（男性 35人：女性 54人）
3位: 礼儀やしきたり、敬語は日本の国民性を表しているから	50人（男性 22人：女性 28人）
4位: 礼儀やしきたりを引き継ぐことでマナーが改善されたり、新しいマナーが生まれるから	42人（男性 21人：女性 21人）
5位: 相手を思いやる気持ちは大事だから	39人（男性 20人：女性 19人）
6位: 礼儀やしきたりは社会での常識であるから	32人（男性 16人：女性 16人）
7位: 時候のあいさつや敬語などは守るべき文化の一つだから	25人（男性 5人：女性 20人）
8位: 海外と比べて日本のマナーは良いから	20人（男性 8人：女性 12人）
8位: 目上の人や初対面の人に敬語を使うことは当たり前だから	20人（男性 9人：女性 11人）
10位: 敬意を払うことは当たり前だから	16人（男性 7人：女性 9人）

【「重要だと思うが、今後なくなっても仕方ない」と感じる理由】

〈重要だと思うが、今後なくなっても仕方ないベース: N=273〉

1位: 時代の変化やグローバル化に伴い、価値観の変化や多様性を受け入れるべきだから。	93人（男性 54人：女性 39人）
2位: 使う機会自体が少なくなっているということは、無くても人間関係に支障がなく必要ないということの意味するから。	34人（男性 21人：女性 13人）
3位: 学校や親など教育機関自体があまり機能しておらず、礼儀やしきたりについての正しい知識が若い世代に伝承されていないから。	31人（男性 13人：女性 18人）
5位: そもそも面倒であり、人間関係がスムーズになっているか実感できないから	16人（男性 13人：女性 3人）
6位: 現代の若者は、日本の礼儀やしきたりに対する重要度が低い傾向があり、今後さらに意識が低下すると思うから。	14人（男性 7人：女性 7人）
7位: 礼儀やしきたりは堅苦しいイメージがあり、よりフランクな関係を好むから。	13人（男性 9人：女性 4人）
8位: テクノロジーが向上したことで、礼儀やしきたりもそれによって変化するから。	10人（男性 6人：女性 4人）
9位: 礼儀やしきたりは日本の大切な伝統/文化であり守る必要があると思うから。	9人（男性 3人：女性 6人）
9位: 礼儀やしきたりを含めた言動は、個人の自由の下で行われているから	9人（男性 8人：女性 1人）
11位: 日常で敬語を使うのは時間の無駄で、仕事効率なども下がるから。	8人（男性 5人：女性 3人）

◆日本に古くからある様々な種類の敬語や季節の挨拶など、人間関係をスムーズにするための礼儀やしきたりは「重要だと思わないが、今後も引き継いでいくべき」と回答した人に対して、「あなたがそのようにお答えになった理由は、どのような理由からですか」という質問をしたところ、「日本の文化/伝統だからなくなることは考えられず、あるのが普通だから」と回答した人が55人と最も多く、次いで「相手に良い印象を与え、人間関係をスムーズにするため」が19人、「グローバル化が進み、海外からの日本の評価が重要視されるようになったから」が10人となった。

◆日本に古くからある様々な種類の敬語や季節の挨拶など、人間関係をスムーズにするための礼儀やしきたりは「重要だと思わないし、今後なくなっても仕方がない」と回答した人に対して、「あなたがそのようにお答えになった理由は、どのような理由からですか」という質問をしたところ、「使う機会がなく無駄だから」が11人と最も多く、次いで「時代によって変化するから」が8人、「形式的なだけで無意味だから」が6人となった。

問22付問

あなたがそのようにお答えになったのは、どのような理由からですか。具体的にお答えください。〈全ベース〉

【「重要だと思わないが、今後も引き継いでいくべき」と感じる理由】

〈重要だと思わないが、今後も引き継いでいくべきベース: N=92〉

1位: 日本の文化/伝統だからなくなることは考えられず、あるのが普通だから	55人 (男性 27人 : 女性 28人)
2位: 相手に良い印象を与え、人間関係をスムーズにするため	19人 (男性 8人 : 女性 11人)
3位: グローバル化が進み、海外からの日本の評価が重要視されるようになったから	10人 (男性 6人 : 女性 4人)
4位: あえて無くす必要はないから	8人 (男性 3人 : 女性 5人)
4位: なし	8人 (男性 4人 : 女性 4人)
6位: 用法を理解していないため、使う機会がないから	3人 (男性 1人 : 女性 2人)
6位: 時代に合ったマナーがあるから	3人 (男性 0人 : 女性 3人)
8位: 同じ印象しか与えないから	2人 (男性 1人 : 女性 1人)
8位: 個人の自由であるため、あまり興味がないから	2人 (男性 1人 : 女性 1人)

【「重要だと思わないし、今後なくなっても仕方がない」と感じる理由】

〈重要だと思わないが、今後なくなっても仕方がないベース: N=35〉

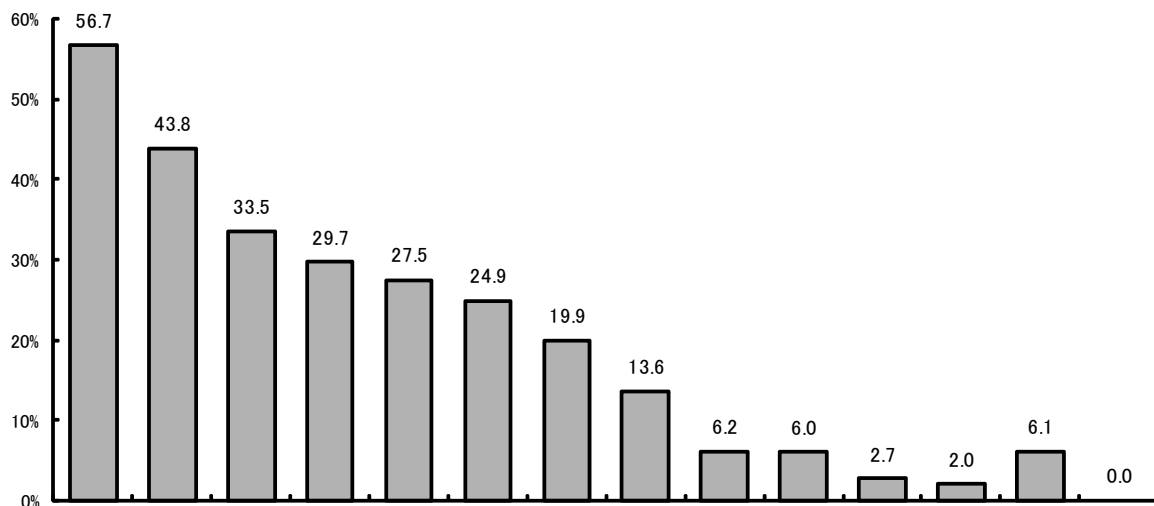
1位: 使う機会がなく無駄だから	11人 (男性 5人 : 女性 6人)
2位: 時代によって変化するから	8人 (男性 4人 : 女性 4人)
3位: 形式的なだけで無意味だから	6人 (男性 5人 : 女性 1人)
4位: 非効率であり、面倒なため使わないから	3人 (男性 3人 : 女性 0人)
4位: 現代に合っていないから	3人 (男性 2人 : 女性 1人)
6位: 存在している意味がわからないから	2人 (男性 1人 : 女性 1人)

◆ 「日本をマナー先進国としてより良くしていくために、あなたが、思い切って取り組むべきだと思うのはどのようなことですか」という質問に対して、「ポイ捨ての厳罰化」と回答した人が約57%と最も多く、次いで「満員電車解消のため、全企業に対してフレックスタイム制の導入を義務化」が約44%、「深夜(23時~4時)の騒音行為の厳罰化」が約34%となった。

問23 日本をマナー先進国としてより良くしていくために、思い切って取り組むべきだと思うのはどのようなことですか。あなたが取り組むべきだと思うものすべてに○印をつけてください。 <全ベース>

<全体: N=1008>

※全体のスコアで降順ソート



	サンプル数	ポイ捨ての厳罰化	満員電車解消のため、全企業に対してフレックスタイム制の導入を義務化	深夜(23時~4時)の騒音行為の厳罰化	屋内施設の全面禁煙	電車内への監視カメラの設置を義務化	女性専用車両・男性専用車両の導入義務化(男女の利用する車両の徹底した分類)	路上での歩きスマホの厳罰化	自転車での歩道通行全面禁止	エスカレーター歩行禁止	全SNSの実名化	電車内でのスマホ/携帯電話での利用を一切禁止する	その他	あてはまるものはない	無回答	
全体	1008	56.7	43.8	33.5	29.7	27.5	24.9	19.9	13.6	6.2	6.0	2.7	2.0	6.1	-	
性別	男性	504	57.3	42.7	36.5	28.0	28.0	26.0	17.5	13.5	6.3	7.9	2.6	3.0	6.7	-
	女性	504	56.2	45.0	30.6	31.3	27.0	23.8	22.4	13.7	6.0	4.0	2.8	1.0	5.4	-
学年	1年生	252	○ 61.9	▼ 37.7	32.9	34.5	23.0	23.8	19.4	14.3	5.6	5.6	2.4	1.2	4.8	-
	2年生	252	56.3	46.4	32.9	31.0	23.8	25.4	22.6	12.7	4.8	6.3	3.2	2.0	6.7	-
	3年生	252	57.1	47.6	34.1	29.4	○ 32.5	26.6	23.4	13.9	5.6	5.2	3.2	4.0	6.0	-
	4年生	252	▼ 51.6	43.7	34.1	▼ 23.8	30.6	23.8	▼ 14.3	13.5	8.7	6.7	2.0	0.8	6.7	-

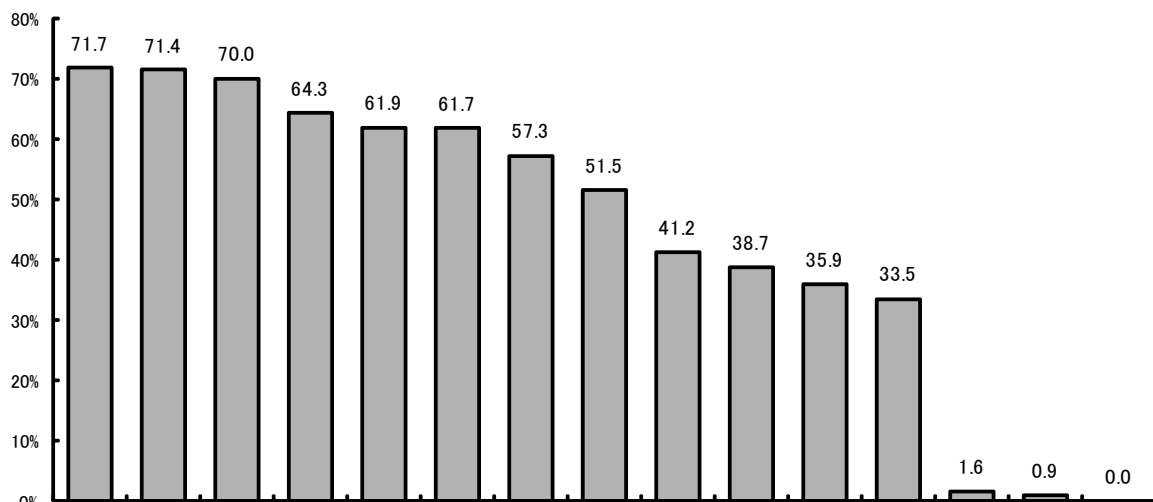
(%)

◆ 「あなたが海外に伝えたい、浸透してほしいと思うマナーはどれですか」という質問に対して、「財布などが落ちていたら交番に届ける」と回答した人が約72%と最も多く、次いで「公共の施設をきれいに使う」が約71%、「時間を守って行動する」が70%となった。

問24 以下に、日本で広く浸透しているマナーを挙げています。このうち、あなたが海外に伝えたい、浸透してほしいと思うものはどれですか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。 <全ベース>

<全体: N=1008>

※全体のスコアで降順ソート



サンプル数	財布などが落ちていたら交番に届ける	公共の施設をきれいに使う	時間を守って行動する	食事の前後に「いただきます」、 「ごちそうさま」を言う	駅や買い物などで整列する	お辞儀、お礼、謙虚な姿勢	食べ物を大切に食べる	道を尋ねられたら案内してあげる	靴を揃える	チップを払わないが サービスをする	食器を片づける	歩行者を優先的に通す	その他	あてはまるものはない	無回答		
全体	1008	71.7	71.4	70.0	64.3	61.9	61.7	57.3	51.5	41.2	38.7	35.9	33.5	1.6	0.9	-	
性別	男性	504	68.7	▼65.9	69.0	59.5	58.7	59.3	57.5	52.8	37.9	38.3	35.3	32.3	1.8	1.0	-
	女性	504	74.8	○77.0	71.0	69.0	65.1	64.1	57.1	50.2	44.4	39.1	36.5	34.7	1.4	0.8	-
学年	1年生	252	71.4	71.0	67.1	64.3	61.9	64.3	59.1	○58.3	45.2	40.9	39.3	34.1	1.6	1.2	-
	2年生	252	75.8	69.4	69.8	○69.4	60.3	65.1	59.5	50.8	44.4	38.9	40.5	32.1	2.0	0.8	-
	3年生	252	75.4	○80.2	73.0	64.7	62.3	61.5	59.5	53.6	42.5	40.9	35.3	○40.5	2.0	0.8	-
	4年生	252	▼64.3	▼65.1	70.2	▼58.7	63.1	▼56.0	▼51.2	▼43.3	▼32.5	34.1	▼28.6	▼27.4	0.8	0.8	-

(%)

Ⅲ 大学生の実態と意識について

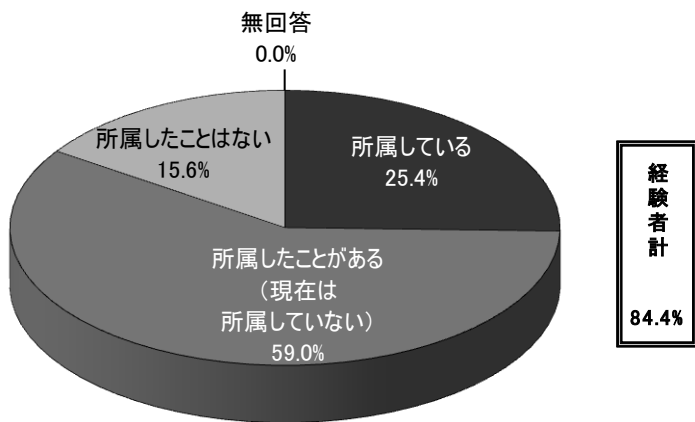
※数表中の数値につけられた記号
○印=全体より5ポイント以上高い数値
▼印=全体より5ポイント以上低い数値

◆ 「あなたは、これまでにスポーツ/体育会系の部活動に所属したことはありますか」という質問に対して、「所属している」と回答した人は全体の約25%、「所属したことがある(現在は所属していない)」と回答した人は全体の59%、「所属したことはない」と回答した人は全体の約16%となった。

問38

あなたは、これまでにスポーツ/体育会系の部活動に所属したことはありますか。 <全ベース>

<全体: N=1008>



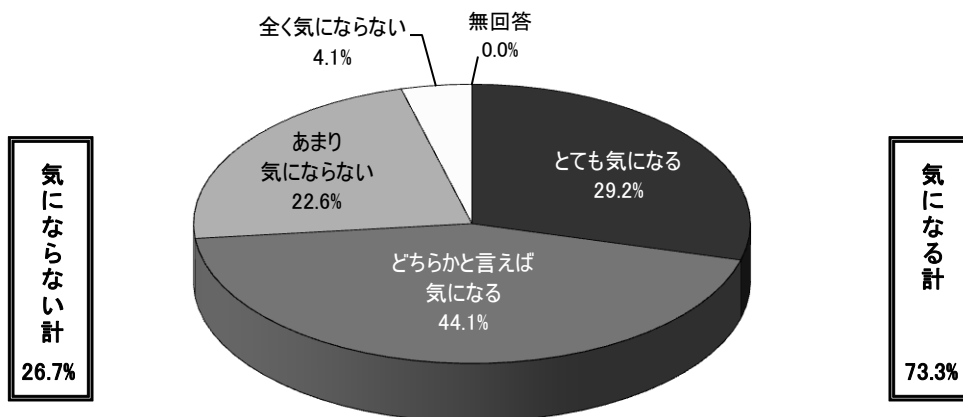
		サンプル数	所属している	(所属したことがある (現在は所属していない))	所属したことはない	無回答	経験者計
全体		1008	25.4	59.0	15.6	-	84.4
性別	男性	504	○ 30.6	63.5	▼ 6.0	-	○ 94.0
	女性	504	▼ 20.2	54.6	○ 25.2	-	▼ 74.8
学年	1年生	252	○ 35.7	▼ 51.6	12.7	-	87.3
	2年生	252	25.0	59.9	15.1	-	84.9
	3年生	252	21.0	63.9	15.1	-	84.9
	4年生	252	▼ 19.8	60.7	19.4	-	80.6

(%)

◆ 「あなたは、友人や知人から自分がどう思われているか、気になる方ですか」という質問に対して、「気になる(計)」と回答した人は全体の約73%、「気にならない(計)」と回答した人は全体の約27%となった。

問39 あなたは、友人や知人から自分がどう思われているか、気になる方ですか。 <全ベース>

<全体:N=1008>



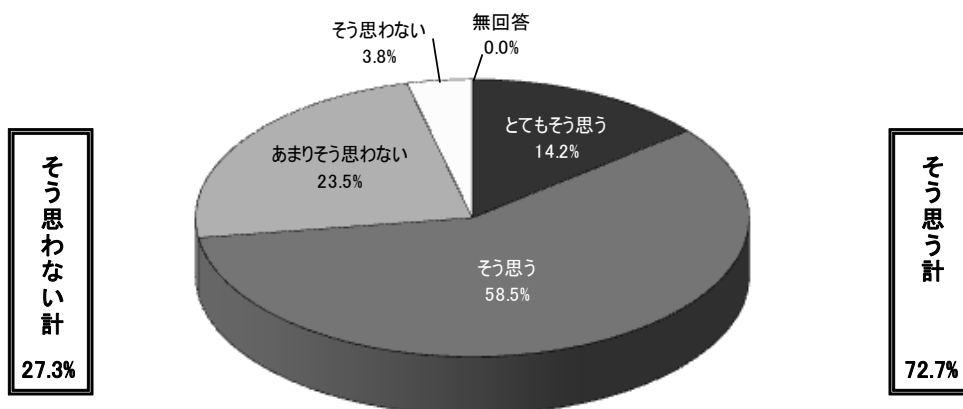
	サンプル数	とても気になる	どちらかと言えば気になる	あまり気にならない	全く気にならない	無回答	気になる計	気にならない計	
全体	1008	29.2	44.1	22.6	4.1	-	73.3	26.7	
性別	男性	504	25.0	45.4	24.2	5.4	-	70.4	29.6
	女性	504	33.3	42.9	21.0	2.8	-	76.2	23.8
学年	1年生	252	33.3	▼ 38.1	25.8	2.8	-	71.4	28.6
	2年生	252	31.3	46.0	▼ 17.5	5.2	-	77.4	22.6
	3年生	252	29.4	42.1	24.6	4.0	-	71.4	28.6
	4年生	252	▼ 22.6	○ 50.4	22.6	4.4	-	73.0	27.0

(%)

- ◆ 「あなたは自分のことを『まわりの空気が読めるタイプ』だと思いますか」という質問に対して、「そう思う(計)」と回答した人は全体の約73%、「そう思わない(計)」と回答した人は全体の約23%となった。

問40 あなたは、自分のことを「まわりの空気が読めるタイプ」だと思いますか。 <全ベース>

<全体:N=1008>



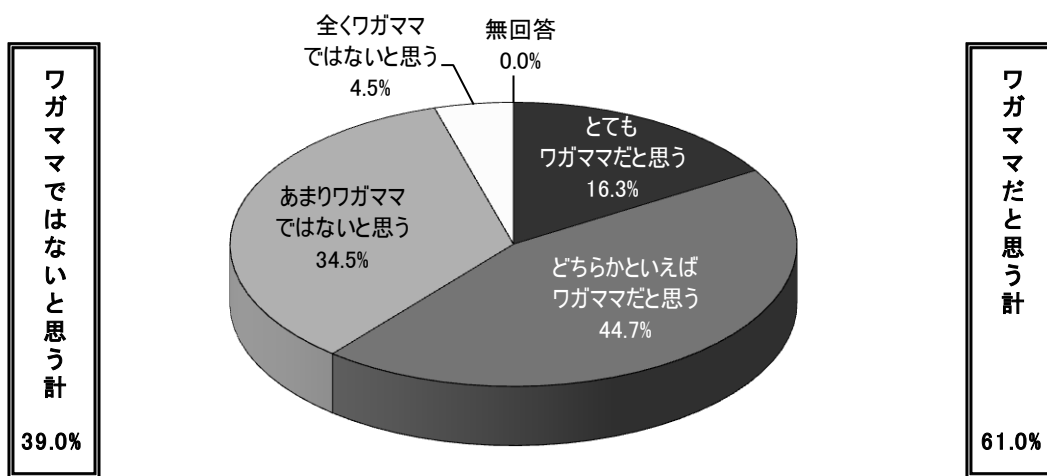
		サンプル数	とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	そう思う計	そう思わない計
全体		1008	14.2	58.5	23.5	3.8	-	72.7	27.3
性別	男性	504	17.1	55.0	22.8	5.2	-	72.0	28.0
	女性	504	11.3	62.1	24.2	2.4	-	73.4	26.6
学年	1年生	252	16.3	54.8	24.6	4.4	-	71.0	29.0
	2年生	252	10.3	56.0	30.6	3.2	-	66.3	33.7
	3年生	252	12.3	62.7	20.6	4.4	-	75.0	25.0
	4年生	252	17.9	60.7	18.3	3.2	-	78.6	21.4

(%)

◆ 「あなたは、自分自身をどの程度『ワガママ』だと思えますか」という質問に対して、「ワガママだと思う(計)」と回答した人は全体の61%、「ワガママではないと思う(計)」と回答した人は全体の39%となった。

問41 あなたは、自分自身をどの程度「ワガママ」だと思えますか。〈全ベース〉

〈全体：N=1008〉



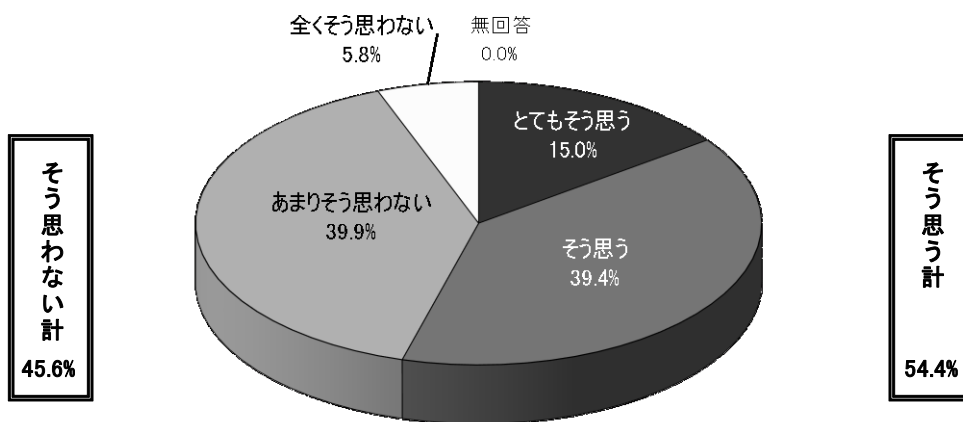
	サンプル数	とてもワガママだと思う	どちらかといえばワガママだと思おう	あまりワガママだと思おう	全くワガママではないと思おう	無回答	ワガママだと思おう計	ワガママではないと思おう計	
全体	1008	16.3	44.7	34.5	4.5	-	61.0	39.0	
性別	男性	504	13.9	41.1	38.3	6.7	▼ 55.0	○ 45.0	
	女性	504	18.7	48.4	30.8	2.2	○ 67.1	▼ 32.9	
学年	1年生	252	14.7	46.4	33.7	5.2	-	61.1	38.9
	2年生	252	16.3	48.4	32.1	3.2	-	64.7	35.3
	3年生	252	18.3	45.6	33.3	2.8	-	63.9	36.1
	4年生	252	15.9	▼ 38.5	38.9	6.7	-	▼ 54.4	○ 45.6

(%)

- ◆ 「あなたは、自分のことを『合理的なタイプ』だと思いますか」という質問に対して、「そう思う(計)」と回答した人は全体の約54%、「そう思わない(計)」と回答した人は全体の約46%となった。

問42 あなたは、自分のことを「合理的なタイプ」だと思いますか。〈全ベース〉

〈全体：N=1008〉



		サンプル数	とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない	無回答	そう思う計	そう思わない計
全体		1008	15.0	39.4	39.9	5.8	-	54.4	45.6
性別	男性	504	○ 20.0	40.9	▼ 34.7	4.4	-	○ 60.9	▼ 39.1
	女性	504	▼ 9.9	37.9	○ 45.0	7.1	-	▼ 47.8	○ 52.2
学年	1年生	252	12.7	41.7	39.7	6.0	-	54.4	45.6
	2年生	252	16.3	▼ 31.3	○ 46.8	5.6	-	▼ 47.6	○ 52.4
	3年生	252	11.5	40.9	42.1	5.6	-	52.4	47.6
	4年生	252	19.4	43.7	▼ 31.0	6.0	-	○ 63.1	▼ 36.9

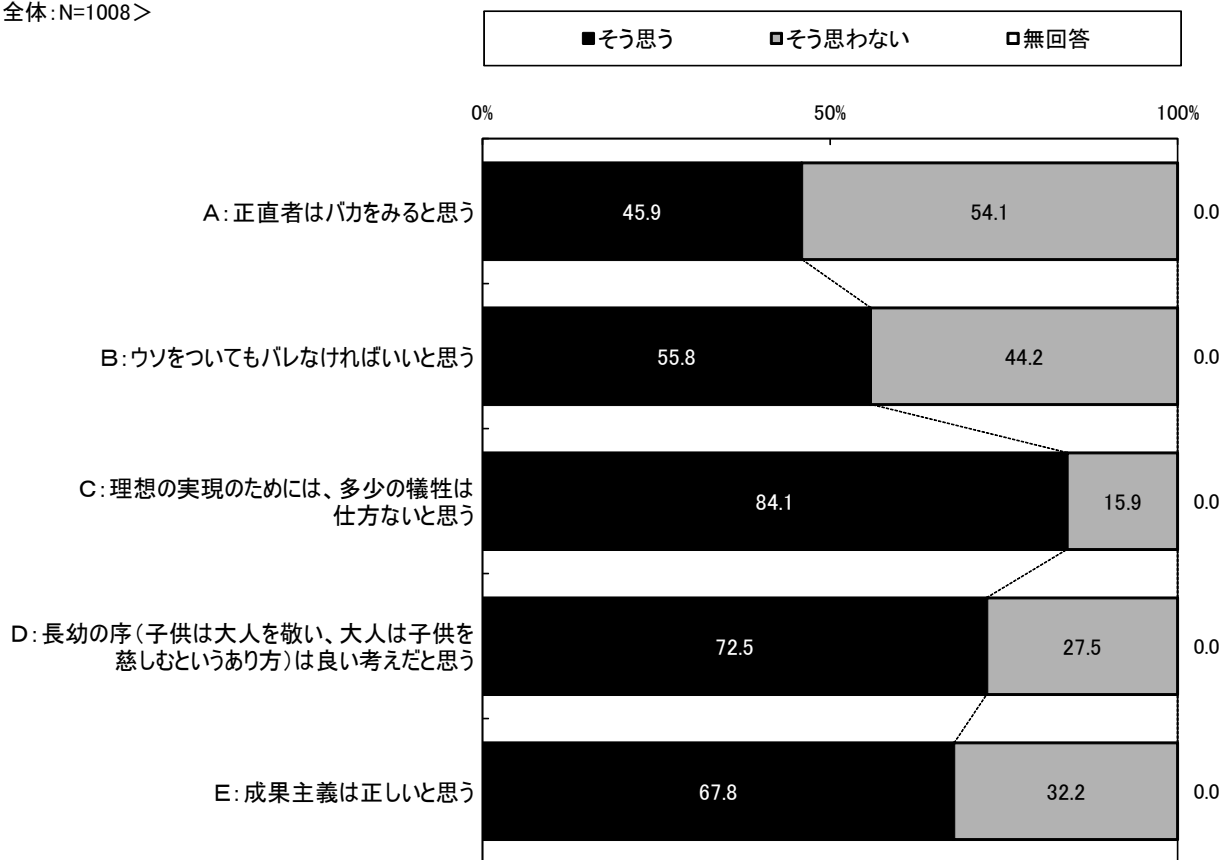
(%)

◆ 考え方に関する各項目について、「あなたの考え方に近いものはどちらですか」という質問に対して、「そう思う」と回答した人が多かった項目は「理想の実現のためには、多少の犠牲は仕方ないと思う」が約84%と最も多く、次いで「長幼の序(子どもは大人を敬い、大人は子供を慈しむというあり方)は良い考えだと思う」が約73%、「成果主義は正しいと思う」が約68%となった。

問43

以下にいろいろな考え方を挙げています。それぞれについて、あなたの考え方に近いものはどちらですか。「1. そう思う」「2. そう思わない」のいずれかに○印をつけてください。<全ベース>

<全体:N=1008>



問43

以下にいろいろな考え方を挙げています。それぞれについて、あなたの考え方に近いものはどちらですか。
「1. そう思う」「2. そう思わない」のいずれかに○印をつけてください。〈全ベース〉

	サンプル数	A. 正直者はバカをみると思う			B. ウソをついてもバレなければいいと思う			C. 理想の実現のためには、多少の犠牲は仕方ないと思う		
		そう思う	そう思わない	無回答	そう思う	そう思わない	無回答	そう思う	そう思わない	無回答
全体	1008	45.9	54.1	-	55.8	44.2	-	84.1	15.9	-
性別	男性	○ 52.2	▼ 47.8	-	58.7	41.3	-	85.3	14.7	-
	女性	▼ 39.7	○ 60.3	-	52.8	47.2	-	82.9	17.1	-
学年	1年生	47.2	52.8	-	54.0	46.0	-	83.7	16.3	-
	2年生	○ 51.2	▼ 48.8	-	55.6	44.4	-	85.3	14.7	-
	3年生	▼ 38.9	○ 61.1	-	54.4	45.6	-	82.9	17.1	-
	4年生	46.4	53.6	-	59.1	40.9	-	84.5	15.5	-

(%)

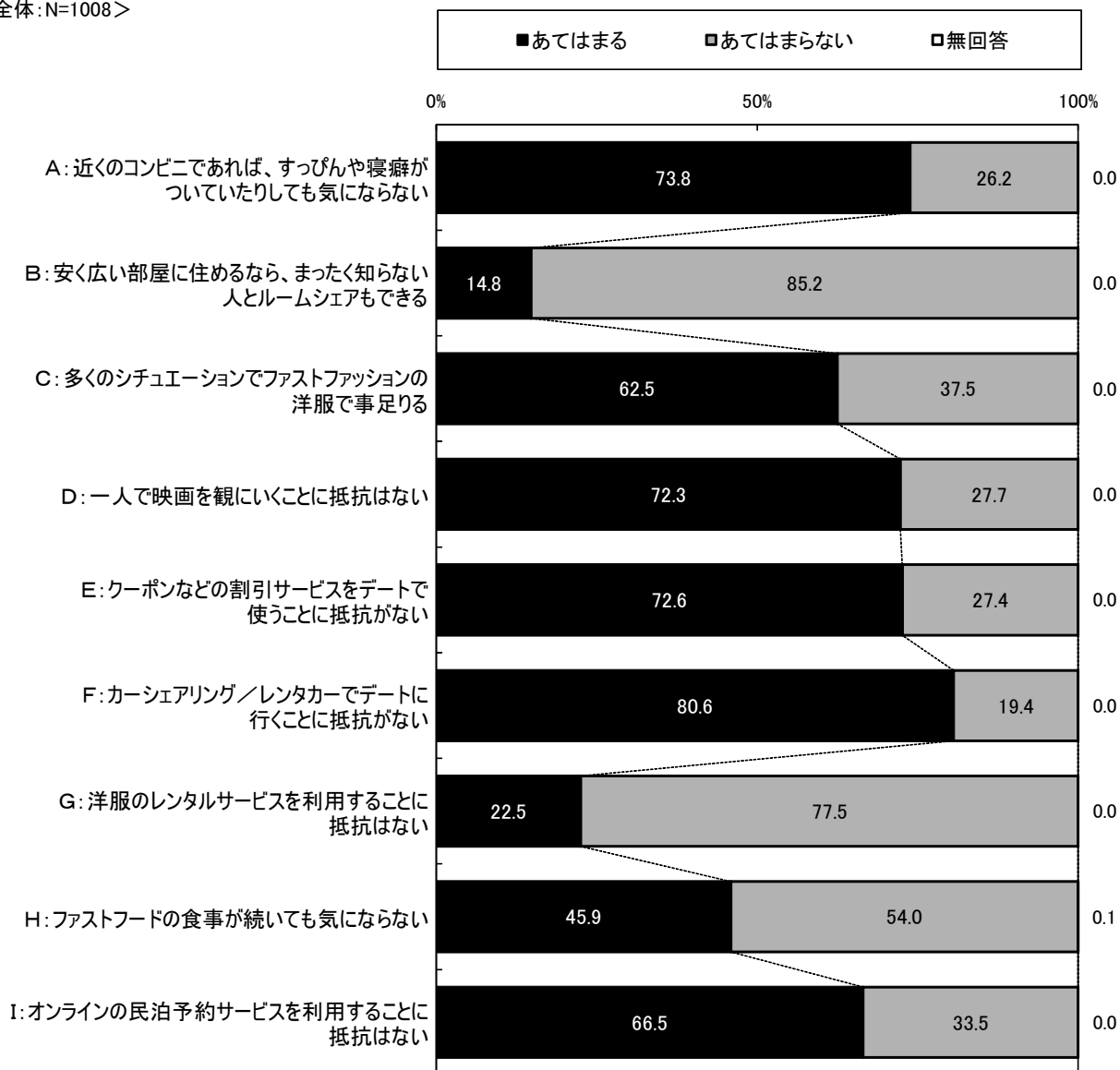
	サンプル数	D. 長幼の序(子供は大人を敬い、大人は子供を慈しむというあり方)は良い考えだと思う			E. 成果主義は正しいと思う		
		そう思う	そう思わない	無回答	そう思う	そう思わない	無回答
全体	1008	72.5	27.5	-	67.8	32.2	-
性別	男性	70.0	30.0	-	○ 75.0	▼ 25.0	-
	女性	75.0	25.0	-	▼ 60.5	○ 39.5	-
学年	1年生	73.0	27.0	-	69.8	30.2	-
	2年生	71.8	28.2	-	64.3	35.7	-
	3年生	71.8	28.2	-	65.5	34.5	-
	4年生	73.4	26.6	-	71.4	28.6	-

(%)

◆ 行動に関する各項目について、「あなたは、『あてはまる』『あてはまらない』のどちらですか」という質問に対して、「あてはまる」と回答した人が多かった項目は「カーシェアリング/レンタカーでデートに行くことに抵抗がない」が約81%、次いで「近くのコンビニであれば、すっぴんや寝癖がついていたりしても気にならない」が約74%、「クーポンなどの割引サービスをデートで使うことに抵抗がない」が約73%となった。

問44 以下にいろいろな行動を挙げています。それぞれについて、あなたが行動をするときに「1. あてはまる」「2. あてはまらない」のいずれかに○印をつけてください。＜全ベース＞

＜全体：N=1008＞



問44

以下にいろいろな行動を挙げています。それぞれについて、あなたが行動をするときに「1. あてはまる」「2. あてはまらない」のいずれかに○印をつけてください。＜全ベース＞

	サンプル数	A. 近くのコンビニであれば、すっぴんや寝癖がついていたりしても気にならない			B. 広く広い部屋に住めるなら、まったく知らない人とルームシェアもできる			C. 多くのシチュエーションでファストファッションの洋服で事足りる			
		あてはまる	あてはまらない	無回答	あてはまる	あてはまらない	無回答	あてはまる	あてはまらない	無回答	
全体	1008	73.8	26.2	-	14.8	85.2	-	62.5	37.5	-	
性別	男性	504	78.6	21.4	-	19.0	81.0	-	○ 67.9	▼ 32.1	-
	女性	504	69.0	31.0	-	10.5	89.5	-	▼ 57.1	○ 42.9	-
学年	1年生	252	73.0	27.0	-	○ 19.8	▼ 80.2	-	65.1	34.9	-
	2年生	252	72.6	27.4	-	13.9	86.1	-	61.9	38.1	-
	3年生	252	76.6	23.4	-	13.9	86.1	-	▼ 54.8	○ 45.2	-
	4年生	252	73.0	27.0	-	11.5	88.5	-	○ 68.3	▼ 31.7	-

(%)

	サンプル数	D. 一人で映画を観に行くことに抵抗はない			E. クーポンなどの割引サービスを使うことに抵抗がない			F. カーシェアリング/レンタカーでデートに行くことに抵抗がない			
		あてはまる	あてはまらない	無回答	あてはまる	あてはまらない	無回答	あてはまる	あてはまらない	無回答	
全体	1008	72.3	27.7	-	72.6	27.4	-	80.6	19.4	-	
性別	男性	504	73.2	26.8	-	▼ 66.9	○ 33.1	-	▼ 75.0	○ 25.0	-
	女性	504	71.4	28.6	-	○ 78.4	▼ 21.6	-	○ 86.1	▼ 13.9	-
学年	1年生	252	69.8	30.2	-	▼ 65.9	○ 34.1	-	▼ 75.0	○ 25.0	-
	2年生	252	74.2	25.8	-	73.4	26.6	-	79.0	21.0	-
	3年生	252	73.8	26.2	-	76.6	23.4	-	○ 86.5	▼ 13.5	-
	4年生	252	71.4	28.6	-	74.6	25.4	-	81.7	18.3	-

(%)

	サンプル数	G. 洋服のレンタルサービスを利用することに抵抗はない			H. ファストフードの食事が続いても気にならない			I. オンラインの民泊予約サービスを利用することに抵抗はない			
		あてはまる	あてはまらない	無回答	あてはまる	あてはまらない	無回答	あてはまる	あてはまらない	無回答	
全体	1008	22.5	77.5	-	45.9	54.0	0.1	66.5	33.5	-	
性別	男性	504	24.8	75.2	-	50.8	49.2	-	68.3	31.7	-
	女性	504	20.2	79.8	-	41.1	58.7	0.2	64.7	35.3	-
学年	1年生	252	23.0	77.0	-	44.4	55.2	0.4	65.1	34.9	-
	2年生	252	20.6	79.4	-	○ 51.2	▼ 48.8	-	63.9	36.1	-
	3年生	252	26.6	73.4	-	▼ 40.9	○ 59.1	-	67.9	32.1	-
	4年生	252	19.8	80.2	-	47.2	52.8	-	69.0	31.0	-

(%)

IV 定点観測

- ※数表中の数値につけられた記号
- 印=全体より5ポイント以上高い数値
 - ▼印=全体より5ポイント以上低い数値

◆今年の「日本の顔」は「安倍晋三」首相が190票を獲得し、3年連続1位となった。次いで「小池百合子」が157票を獲得して2位、「小林麻央」が44票を獲得し3位となった。その後にはプロデビューし29連勝を成し遂げた将棋棋士の「藤井聡太」等が続いた。

問25

あなたが、「最近1年間の日本」を代表する著名人をひとりだけ選ぶとすると、誰が思い浮かびますか。
あなたが思い浮かべる「この1年間の日本の顔」を、具体的な個人名でお知らせください。 <全ベース>

<全体:N=1008>

1位: 安倍晋三	190人 (男性 109人 : 女性 81人)
2位: 小池百合子	157人 (男性 55人 : 女性 102人)
3位: 小林麻央	44人 (男性 9人 : 女性 35人)
4位: 藤井聡太	38人 (男性 24人 : 女性 14人)
5位: 菅田将暉	35人 (男性 12人 : 女性 23人)
6位: ブルゾンちえみ	25人 (男性 6人 : 女性 19人)
7位: ピコ太郎	23人 (男性 15人 : 女性 8人)
8位: 広瀬すず	19人 (男性 9人 : 女性 10人)
9位: マツコ・デラックス	15人 (男性 6人 : 女性 9人)
9位: 松居一代	15人 (男性 9人 : 女性 6人)
9位: 星野源	15人 (男性 6人 : 女性 9人)

12位: 錦織圭	14人 (男性 11人 : 女性 3人)
13位: 石原さとみ	12人 (男性 1人 : 女性 11人)
14位: 市川海老蔵	11人 (男性 6人 : 女性 5人)
15位: 大谷翔平	8人 (男性 5人 : 女性 3人)
15位: 本田圭佑	8人 (男性 8人 : 女性 0人)
17位: イチロー	7人 (男性 7人 : 女性 0人)
17位: 羽生結弦	7人 (男性 1人 : 女性 6人)
17位: 今上天皇 明仁	7人 (男性 3人 : 女性 4人)
17位: 新垣結衣	7人 (男性 7人 : 女性 0人)
17位: 加藤一二三	7人 (男性 2人 : 女性 5人)
17位: みやぞん	7人 (男性 3人 : 女性 4人)

参考:「日本の顔」(’16年度調査)

<全体:N=816>

1位: 安倍晋三	156人 (男性 74人 : 女性 82人)
2位: 舛添要一	85人 (男性 52人 : 女性 33人)
3位: ベッキー	56人 (男性 30人 : 女性 26人)
4位: イチロー	41人 (男性 37人 : 女性 4人)
5位: りゅうちぇる	36人 (男性 5人 : 女性 31人)
6位: 錦織圭	31人 (男性 18人 : 女性 13人)
6位: 五郎丸歩	31人 (男性 18人 : 女性 13人)
8位: マツコ・デラックス	21人 (男性 8人 : 女性 13人)
9位: 山崎賢人	20人 (男性 6人 : 女性 14人)
9位: 長友佑都	20人 (男性 9人 : 女性 11人)

11位: 天皇陛下	17人 (男性 13人 : 女性 4人)
12位: 大谷翔平	15人 (男性 13人 : 女性 2人)
13位: 又吉直樹	13人 (男性 3人 : 女性 10人)
14位: DAIGO	12人 (男性 3人 : 女性 9人)
15位: 広瀬すず	11人 (男性 4人 : 女性 7人)
16位: 本田圭佑	8人 (男性 8人 : 女性 0人)
17位: 石原さとみ	7人 (男性 2人 : 女性 5人)
17位: 川谷絵音	7人 (男性 4人 : 女性 3人)
17位: 北川景子	7人 (男性 4人 : 女性 3人)
17位: 有村架純	7人 (男性 3人 : 女性 4人)

◆ 大学生の好きな広告は、「KDDI/au/『三太郎』シリーズ」が116票を獲得し、1位となった。次いで「Amazon/アマゾンプライム」が19票を獲得し2位、「大塚製薬/ポカリスエット「鬼ガチダンス」シリーズ」が16票を獲得して3位となった。

問26

最近1年間の広告の中で、あなたが好きな広告、嫌いな広告をそれぞれひとつずつ挙げてください。〈全ベース〉

〈全体：n=1008〉

1位： KDDI/au/「三太郎」シリーズ	116人	(男性 71人 : 女性 45人)
2位： Amazon/アマゾンプライム	19人	(男性 9人 : 女性 10人)
3位： 大塚製薬/ポカリスエット「鬼ガチダンス」シリーズ	16人	(男性 10人 : 女性 6人)
4位： 住友生命保険相互会社/1UP	7人	(男性 4人 : 女性 3人)
4位： NTTドコモ/25周年CM「いつか、あたりまえになることを。」	7人	(男性 4人 : 女性 3人)
4位： ルミネ/キャッチコピー(毎月)	7人	(男性 6人 : 女性 1人)
7位： カルピス株式会社/カルピス	6人	(男性 3人 : 女性 3人)
7位： マウスコンピューター/「マウスダンス」篇	6人	(男性 3人 : 女性 3人)
9位： NTTドコモ/dTV/「ふたりをつなぐ物語」篇	5人	(男性 4人 : 女性 1人)
9位： リクルート/じゃらん	5人	(男性 2人 : 女性 3人)
9位： リクルート/ゼクシィ	5人	(男性 4人 : 女性 1人)
9位： 東京メトロ/「Find my Tokyo」シリーズ	5人	(男性 4人 : 女性 1人)
9位： ソフトバンクモバイル/白戸家シリーズ	5人	(男性 1人 : 女性 4人)

参考：「好きな広告」(過去12回調査)

▼参考：'16年度結果(全体：n=816)

1 KDDI/au/「三太郎」シリーズ	129人
2 AMAZON/アマゾンプライム	38人
3 資生堂/SEA BREEZE/「トライアングルシリーズ」	13人
4 オリエンタルランド/東京ディズニーリゾート	8人
5 ポカリスエット「エル」篇	7人
5 ルミネ/キャッチコピー(毎月)	7人
7 JR東海/「京都の紅葉」篇	5人
8 JR東日本/「JR ski ski」シリーズ	5人
9 NTTドコモ/ドコモEカード/中条あやみ	5人
9 キリン/一番搾り/「しあわせ一番町 47都道府県の一歩搾り」篇	5人
9 サントリー/ザ・プレミアム・モルツ	5人

▼参考：'15年度結果(全体：n=816)

1 KDDI/au/「英雄」シリーズ	63人
2 サントリー/ペプシ・ネックスゼロ/「桃太郎」シリーズ	17人
3 SEA BREEZE/広瀬すず・中川大志	10人
4 ソフトバンクモバイル/「白戸家」シリーズ	9人
5 JR東日本/「JR ski ski」シリーズ	8人
5 ルミネ/小松菜菜	8人
7 RIZAP/「つぎつぎエイキキ」篇	7人
8 サントリー/GREEN DA・KA・RA /しずくちゃん	6人
9 大塚食品/MATCH/広瀬アリス・広瀬すず	5人
9 カルピス/カルピスウォーター/広瀬すず・長澤まさみ	5人
9 ジョージア/「マニフェスト」篇/山田孝之	5人

▼参考：'14年度結果(全体：n=800)

1 ソフトバンクモバイル/「白戸家」シリーズ	23人
2 サントリー/ペプシ・ネックスゼロ/「桃太郎」シリーズ	20人
3 サントリー/GREEN DA・KA・RA/「グリーンダカラちゃん」シリーズ	18人
4 カルピス/カルピスウォーター/能年玲奈	13人
5 TOYOTA/「TOYOTOWN」シリーズ	10人
6 サントリー/ふんわり鏡月/石原さとみ	8人
7 コカ・コーラ	7人
7 日清食品/カップヌードル/「壁ドン」篇	7人
9 ルミネ/橋本愛	6人
9 家庭教師のトライ/「ハイジとクララ」シリーズ	6人

▼参考：'13年度結果(全体：n=800)

1 サントリー/GREEN DA・KA・RAグリーンダカラちゃん	27人
2 ソフトバンクモバイル/白戸家シリーズ	23人
3 日清/カップヌードル/SURVIVE!シリーズ	12人
3 カルピス/カルピスウォーター/能年玲奈	12人
5 JR東日本/JR SKI SKI/JR SKI SKI CM GARA篇	10人
5 KDDI/au/Real篇	10人
5 ルミネ/橋本愛	10人
8 コーセー/雪肌精/新垣結衣	6人
9 Apple/iPhone/Photos Every Day 篇	5人
9 トヨタ/「Re BORN」シリーズ	5人
9 大塚製薬/カロリーメイト/浪漫飛行篇	5人
9 大和ハウス/ベトナムにも篇	5人

▼参考：'12年度結果(全体：n=800)

1 ソフトバンクモバイル/白戸家シリーズ	36人
2 サントリー/GREEN DA・KA・RAグリーンダカラちゃん	20人
2 トヨタ自動車/ドラえもんシリーズ	20人
4 アップル/iPhone・iPad	8人
5 ソフトバンクモバイル/SMAPシリーズ	7人
6 ルミネ	7人
7 ホンダ/負けるもんか篇	5人
7 スズキ/パン海へ篇	5人
7 東京ディズニーリゾート/夢かなう場所/Where Dreams Come True	5人
10 JR東海/そうだ、京都行こう	4人

▼参考：'11年度結果(全体：n=800)

1 ソフトバンクモバイル/白戸家シリーズ	45人
2 ACジャパン/あいさつの魔法編	24人
3 エステ/消臭力	20人
4 日本コカ・コーラ/コココーラ	16人
5 NTTドコモ/スマートフォン	12人
6 日本コカ・コーラ/ジョージア	9人
7 日本コカ・コーラ/AQUARIUS	7人
7 サントリー/上を向いて歩こう編	7人
7 グリコ/アイスの実	6人
9 ソフトバンクモバイル/SMAP	6人

▼参考：'10年度結果(全体：n=816)

1 ソフトバンクモバイル/白戸家シリーズ	59人
2 ロッテ/Fit's/佐藤健・佐々木希	16人
2 日産/NOTE/低燃費少女ハイジ	16人
4 東京メトロ/新垣結衣・宮崎あおい	12人
5 NTTドコモ/木村カエレ・渡辺謙	9人
5 西友	9人
5 earth music&ecology/宮崎あおい	9人
8 アップル/ipod・iphone・ipad	8人
8 ニチレイ/アセロラ/アセロラ体操/仲里依紗	8人
10 KDDI/au/嵐	7人
10 カゴメ/野菜生活/AKB48	7人

▼参考：'09年度結果(全体：n=816)

1 ソフトバンクモバイル/白戸家シリーズ	56人
2 ロッテ/Fit's/佐藤健・佐々木希	24人
3 サントリー/プロテインウォーター/中村獅童・松田翔太	23人
4 リクルート/Hot Pepper/スノーピーク・カワカエラ	20人
5 KDDI/au、hida/嵐、仲間由紀恵等	9人
6 JTB/レジャ/Roots/坂口憲二、仲村トオル	7人
6 カルピス/カルピス、カルピスウォーター/長澤まさみ、川島海荷、中村蒼	7人
8 ファーストリテイリング/ユニクロ/プラチナストーン・黒「サマースター」/甲斐英里、UT等	6人
9 日本マクドナルド/クオーター・バンダー	5人
9 サントリー/BOSS/宇宙人ジョージ	5人
9 日産自動車/ノート/「低燃費少女ハイジやまびこ」篇	5人
9 NTTドコモ/Answer/アンサーハウス	5人

▼参考：'08年度結果(全体：n=800)

1 ソフトバンクモバイル/白戸家シリーズ	114人
2 アップルジャパン/iPod・Mac	13人
3 資生堂/TSUBAKI	9人
4 ナイキジャパン/NikeFootballなど	7人
5 日本コカ・コーラ/コココーラ	6人
5 日本たばこ産業(JT)/Roots/坂口憲二	6人
7 AC公共広告機構/環境問題など	5人
7 KDDI/au/auの庭で。	5人
7 NTTドコモ/Answer	5人
7 NTTドコモ/DoCoMo2.0	5人
7 ソフトバンクモバイル/ブランド広告/ブランド・ピット、キャメロン・ティラス	5人

▼参考：'07年度結果(全体：n=800)

1 NTTドコモ/DoCoMo2.0	56人
2 インテル/インテル Core 2 Duo プロセッサ	17人
3 資生堂/TSUBAKI	12人
4 ソフトバンク/予想外シリーズ・ホワイトプランなど	11人
4 日本たばこ産業(JT)/喫煙マナー広告	11人
4 明治安田生命/保険/「時をこえて」シリーズ	11人
7 ライフ/LIFEGARD/オダギリジョー	10人
7 日清グリコ/ポッキー/新垣結衣	10人
9 AC公共広告機構	9人
9 東京ガス/ガス・パッチョ/妻夫木聡	9人

▼参考：'06年度結果(全体：n=800)

1 ライフ/LIFEGARD/オダギリジョー	35人
2 資生堂/TSUBAKI	20人
3 リクルート/Hot Pepper/SMAP	16人
4 資生堂/マキアージュ/蛻原友里・伊東美咲	12人
4 大塚製薬/ポカリスエット/綾瀬はるか	12人
4 東京ガス/ガス・パッチョ!	12人
7 キリンビール/淡麗グリーンラベル	11人
7 朝日新聞社/「ジャーナリスト宣言」	11人
9 サントリー/DAKARA/「よからぬブルース」シリーズ	10人
10 サントリー/伊右衛門/本木雅弘・宮沢りえ	8人

▼参考：'05年度結果(全体：n=800)

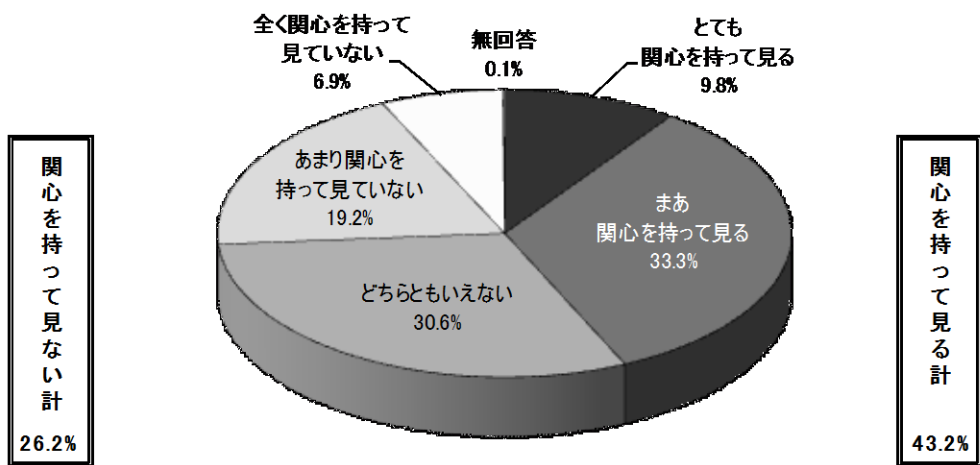
1 リクルート/Hot Pepper/アフレコ	26人
2 ライフ/LIFEGARD/オダギリジョー	23人
3 日本コカ・コーラ/コココーラ	21人
4 キリン/レジャ/生茶/崎嶋菜々子	15人
4 サントリー/伊右衛門/宮沢りえ等	15人
6 日清食品/日清カップヌードル/NO BORDER	14人
7 ナイキジャパン/企業広告	13人
7 日本たばこ産業(JT)/喫煙マナー	13人
9 マスターカード/プライスレス	10人
10 アップルコンピューター/i-pod	9人

◆ 「あなたは、普段、関心を持って広告を見る方ですか」という質問に対して、「関心を持って見る(計)」と回答した人は全体の約43%、「どちらともいえない」と回答した人は全体の約31%、「関心を持って見ていない(計)」と回答した人は全体の約26%となった。

問27

あなたは、普段、関心を持って広告を見る方ですか。〈全ベース〉

〈全体：N=1008〉

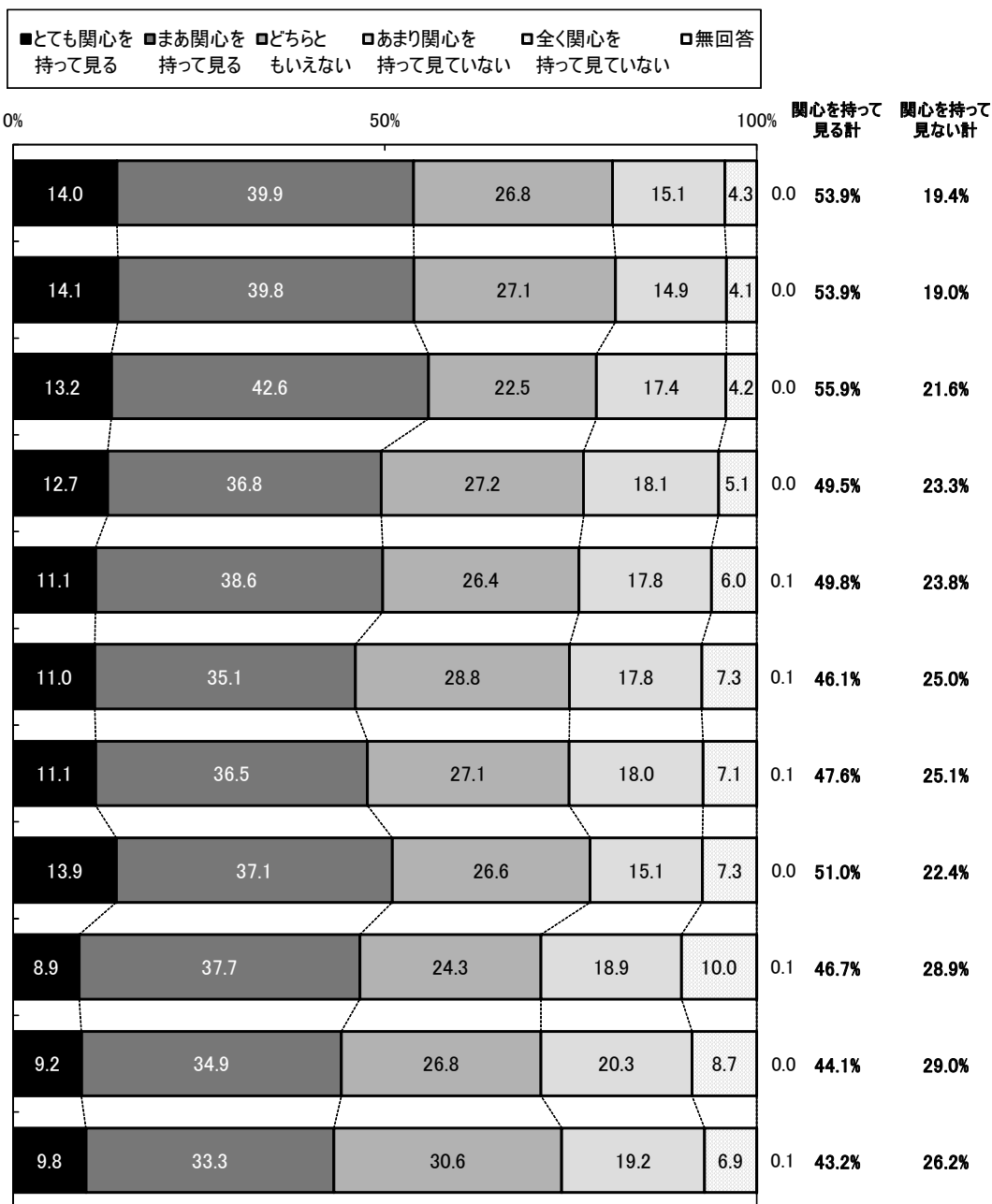


	サンプル数	とても関心を持って見る	まあ関心を持って見る	どちらともいえない	あまり関心を持って見ない	全く関心を持って見ない	無回答	関心を持って見る計	関心を持って見ない計	
全体	1008	9.8	33.3	30.6	19.2	6.9	0.1	43.2	26.2	
性別	男性	504	9.1	29.2	29.4	21.8	10.5	-	38.3	○ 32.3
	女性	504	10.5	37.5	31.7	16.7	3.4	0.2	48.0	▼ 20.0
学年	1年生	252	7.1	▼ 22.2	○ 40.5	20.6	9.5	-	▼ 29.4	30.2
	2年生	252	6.3	38.1	28.6	19.4	7.5	-	44.4	27.0
	3年生	252	13.9	37.3	▼ 24.2	17.5	6.7	0.4	○ 51.2	24.2
	4年生	252	11.9	35.7	29.0	19.4	4.0	-	47.6	23.4

(%)

◆ 広告に関する関心度について、過去の調査と比較すると、「関心を持って見る(計)」と回答した人は全体の約43%と、過去10年間の調査の中で最も低かった。

問27 あなたは、普段、関心を持って広告を見る方ですか。〈全ベース〉

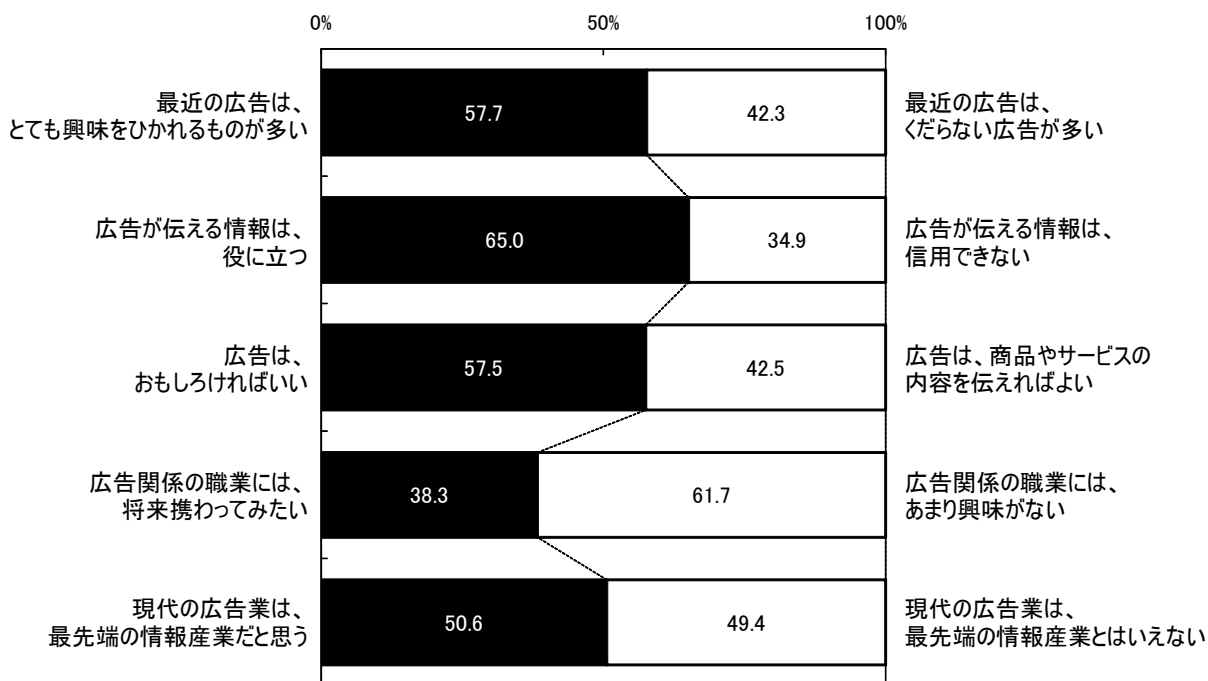


- ◆ 広告に対する意見について、「最近の広告は、とても興味を引かれるものが多い」と回答した人は全体の約58%、「最近の広告は、くだらない広告が多い」と回答した人は全体の約42%となった。
- ◆ 広告に対する意見について、「広告が伝える情報は、役に立つ」と回答した人は全体の65%、「広告が伝える情報は、信用できない」と回答した人は全体の約35%となった。
- ◆ 広告に対する意見について、「広告は、おもしろければいい」と回答した人は全体の約58%、「広告は、商品のサービスの内容を伝えればよい」と回答した人は全体の約43%となった。
- ◆ 広告に対する意見について、「広告関係の職業には、将来携わってみたい」と回答した人は全体の約38%、「広告関係の職業には、あまり興味がない」と回答した人は全体の約62%となった。
- ◆ 広告に対する意見について、「現代の広告業(広告代理店など)は、最先端の情報産業だと思う」と回答した人は全体の約51%、「現代の広告業(広告代理店など)は、最先端の情報産業とはいえない」と回答した人は全体の約49%となった。

問28

以下に広告について様々な意見が挙げられています。あなたのお気持ちに近い方をひとつずつお選びください。 <全ベース>

<全体:N=1008>



	サンプル数	最近の広告は…			広告が伝える情報は…			広告は…			広告関係の職業には…			現代の広告業は…			
		とても興味を引かれるものが多い	くだらない広告が多い	無回答	役に立つ	信用できない	無回答	おもしろければいい	商品やサービスの内容を伝えればよい	無回答	将来携わってみたい	あまり興味がない	無回答	最先端の情報産業だと思う	最先端の情報産業とはいえない	無回答	
全体	1008	57.7	42.3	-	65.0	34.9	0.1	57.5	42.5	-	38.3	61.7	-	50.6	49.4	-	
性別	男性	504	▼ 51.6	○ 48.4	-	60.7	39.3	-	60.7	39.3	-	33.9	66.1	-	49.6	50.4	-
	女性	504	○ 63.9	▼ 36.1	-	69.2	30.6	0.2	54.4	45.6	-	42.7	57.3	-	51.6	48.4	-
学年	1年生	252	▼ 51.6	○ 48.4	-	61.1	38.5	0.4	▼ 46.4	○ 53.6	-	▼ 30.6	○ 69.4	-	47.2	52.8	-
	2年生	252	60.7	39.3	-	66.3	33.7	-	57.5	42.5	-	42.5	57.5	-	52.8	47.2	-
	3年生	252	57.5	42.5	-	65.9	34.1	-	61.5	38.5	-	○ 48.4	▼ 51.6	-	55.2	44.8	-
	4年生	252	61.1	38.9	-	66.7	33.3	-	○ 64.7	▼ 35.3	-	▼ 31.7	○ 68.3	-	47.2	52.8	-

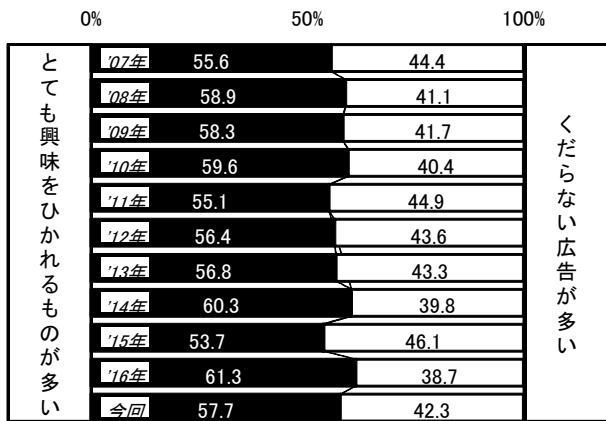
(%)

◆「最近の広告は、くだらない広告が多い」と回答した人は約42%と、2016年度の調査と比較して約3ポイント増加した。

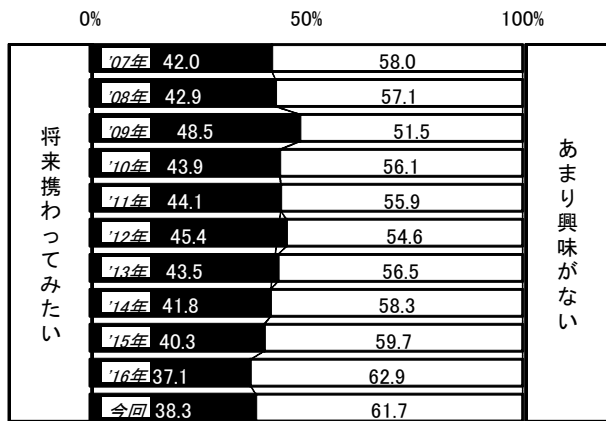
問28

以下に広告について様々な意見が挙げられています。A～Eのそれぞれについて、あなたのお気持ちに近い方をひとつずつお選びください。
 <全ベース>

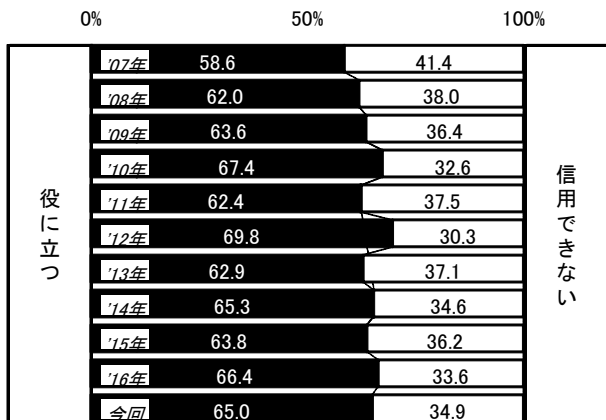
【最近の広告は・・・】



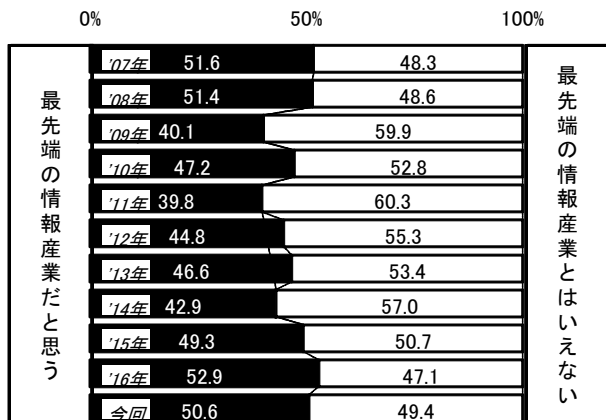
【広告関連の職業には・・・】



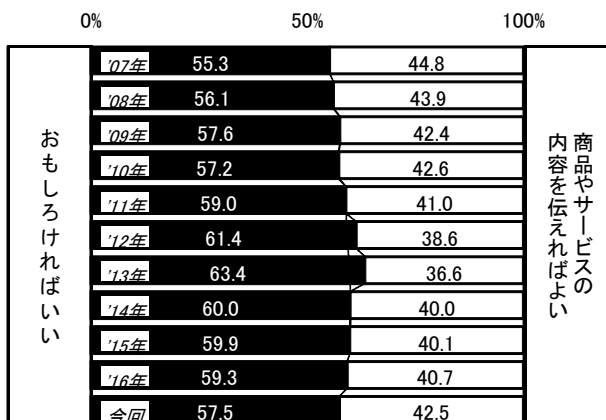
【広告が伝える情報は・・・】



【現代の広告業は・・・】



【広告は・・・】



'07年度調査	: (N=800)
'08年度調査	: (N=800)
'09年度調査	: (N=816)
'10年度調査	: (N=816)
'11年度調査	: (N=800)
'12年度調査	: (N=800)
'13年度調査	: (N=800)
'14年度調査	: (N=800)
'15年度調査	: (N=816)
'16年度調査	: (N=816)
今回('17年度調査)	: (N=1008)

活動報告

ストーリー ～個性豊かな私たちの236日間の物語～

4月

4月17日、キックオフミーティングが行われた。今年は6大学・約60人もの学生が、少しの緊張と大きな期待を胸に銀座の東京広告協会に集まった。次の週には自己紹介やテーマ発表を行い、大学ごとの距離感を感じながらも多様なテーマに対する意見を交わした。

5月

大学ごとに分かれてテーマ案の考察を進めた。大学生の現状をうまく掴むことができず初めから議論は白熱したが、各大学の持ち寄ったテーマ案を吟味し、今年の調査テーマは「大学生のマナー」に決まった。テーマが決まり実感が沸いたことで、さらに期待を膨らませた。

6月

調査テーマ決定後、仮説をもとに調査票作りを開始したが、作業は思うように進まず困難を極めた。大学生の意識を探るためにはどのような質問をしたら良いのか、どのような表現が適切なのか、頭を悩ませる日々が続き、作業は夜遅くにまで及んだ。しかし、今振り返ればこの時間が、私たちの主張を導くためには、とても重要な時間であった。大学間の壁を超えてメンバーの一体感が生まれ始めたのも、この頃からであった。

7月

そしてやっと調査票が完成した。東京サーベイ・リサーチの方からインストラクションを受け、調査の仕方を学び、ポイントを押さえながら調査票回収に挑んだ。その結果、各大学が協力して7月末までに約1,000部の調査票を回収するという目標を無事達成した。しかし、調査票の精査に入ると少ないながらも無効票が出てきてしまうなど、調査を取ることに難しさを感じた。その後行われた中打ち上げにて、今までの活動を振り返り、FUTURE2017後期への意欲を示し、前期は締めくくられた。

8月

それぞれの短い夏休みを終え、メンバーと再会した。その間に仕上げていただいたデータをファインディングスにまとめ、自由回答(OA)にアフターコードを付けていった。普段馴染みのないエクセル作業に悪戦苦闘しながらも、自分たちで集めた結果をどのようにまとめていくのか一人ひとりが案を出し合いながら、大学生の生の意見を取りこぼさないよう慎重に作業を進めた。

9月3日 ロジックチャート研修

赤坂で“ロジックチャート”についての講義を受け5、6人のチームに分かれてお題として出されたデータを元にロジックチャートを組み立てる作業に入った。多くのメンバーが初めて触れる論理的な思考法に戸惑いながらも手探りで作業を進めた。そしてそのチームで自分たちが回収したデータを使い、合宿までにロジックチャートを完成させることが課題として与えられた。

9月14～15日 分析合宿

各チーム試行錯誤して課題を完成させ、2日間の合宿に臨んだ。研修に引き続き、チームでの作業が中心となったが、アドバイザーの方々にロジックチャートの組み立て方からプレゼンのポイントに至るまで、様々な面においてご指導いただいた。それと同時に、この合宿では自分たちの調査結果から論理的思考を駆使して主張を導き出すことの難しさを初めて痛感することとなった。

この合宿を経てより仲が深まったことで一丸となり、より良いものを作ろうと改めて誓った。そしてそれぞれが自らの役割を自覚し、FUTURE2017のメンバー全員が“生まれ変わった”。

合宿後～11月

合宿が終わってからは、それぞれのチームで考えたロジックチャートを見直し、全員で一つのロジックチャートを完成させていくという作業に移った。各チームが一生懸命に作ったこともあり、どのように一つにするか決まらず苦戦した。また人数が多かったこともあり、その分意見が対峙し議論が煮詰まることもしばしばあったが、重ねた議論にどれひとつとして無駄なものは無かったように思う。プロジェクトも佳境を迎え、毎週の定例会や日々の学生ミーティングの質はより高いものになっていった。

完成を目前にして

FUTURE2017が始まってから、236日。振り返ってみると、長いようで短かった。より良いものを作り上げるという同じ目標を持っているため、今でも意見が割れてぶつかり合うこともあるが、互いに尊重し合い懸命に取り組んでいる。完成を目前にした今、月曜日の定例会に加え、学生間のミーティングはとても貴重な時間となっている。そんな残りわずかとなった時間を一分一秒も無駄にせず、メンバー全員が満足できる最後を迎えたい。



プロジェクトを終えて

～参加メンバーよりひとこと～

青木 翔太 (あおき しょうた) 専修大学

はじめに感謝の思いを述べたいと思います。高堀さんをはじめとする東京広告協会の皆さま、調査票集計の協力をしてくださった東京サーベイリサーチの皆さま、このような機会を与えてくださいました石崎先生、いつも僕たちの面倒を見てくださったOB・OGの皆さま、特に専修大学の先輩である政田さん、アドバイザーであり僕たちの羅針盤となり夢と希望を与えてくださいました石寺さん、吉田さん、古賀さん、寺前さん全ての方に支えられてこの素晴らしいFUTUREを終えることができました。感謝だけでは言い表せない気持ちがあります。本当にありがとうございました。

はじめの頃、僕はFUTUREに不安しか感じられず本気で取り組めるの心配でした。先輩方からも週に5日は集まったかな、と言われていましたので絶対に自分にはやり抜くことは難しいだろうと思っていました。案の定、前半ではなかなかみんなが集まる日に参加することができず他のメンバーたちとの差を埋めることができず悩み苦しみ、大学での連絡者もしていたことから辞めたいけど辞めることのできない感情があり、積極的な参加をする気持ちもなくなる日々でした。しかし調査票が出来上がり自分の大学は自分たちで集計を取りたいという気持ちがこみ上げてきて、本気でFUTUREに力を入れていきたいと思うようになりました。さらに1番心を動かされたのは前半が終了し中打ち上げの時でした。現在の代表である、恵大からの激励が僕をここまでやる気にさせてくれました。僕が連絡者じゃなくなる時に温かい言葉をかけてくれ冷めそうだった熱を再び沸騰させてくれました。恵大、ありがとう。

後半では合宿に向けてのグループの際にFUTURE内で友達の少なかった僕に手を差し伸べてくれた、ももとなおみには大変感謝しています。合宿に唯一参加することができなかった自分にもわかりやすく説明してくれ、仲間の輪に入れてグループでの活動を円滑に進められるようにしてくれた2人がいたからこそ、今の自分があるのかなと感じています。またデアゴスティーニのメンバーは特に僕の面倒を見てくれたのでここでも感謝を言わせてください。ありがとう。合宿も終わり2グループに分かれてロジックチャートを作るときには、いつももなく積極的に参加する力を身につけることができ、FUTUREがかけがえのないものへと変化していきました。カラオケ屋さんでオールした際に文章に行き詰まりなかなかなかうまくいかなかったことも多々ありました。しかしそんな中でも仲間と支え合い大変なもの楽しいものへと変わったときの自分の楽しさは今でも覚えています。週6で祖師ヶ谷大蔵に集まった10月も、課金だといながらカラオケ屋さんに行ったことも、週3で青学とマックに舞い降りた11月も今となっては良い思い出です。定例会での自粛しまくっていた自分の殻を破ることができ、このFUTUREで得られたことは人生においても大切なことになりました。発表を前にしてピリピリと緊迫した状況でも毎日笑顔で楽しもうとできる仲間たちに僕はいつも感心していました。さらに予定がありなかなかに参加することができない仲間にも、なぜ来ることができないのか。と思うことなく予定があるのは仕方ない来てくれたときに頑張ってもらおうとポジティブに振舞うことのできる素晴らしさ、暖かさといった人間性までも学ぶことができました。毎週月曜日に赤坂駅まで行って19時から行われる定例会ももうなくなるのだと思うとちょっぴり寂しい気持ちです。しかしこれからも仲間には会うことはできますし人生の中でも大切な仲間に出会うことができたと幸いです。

最後になりましたが、この大学生活を有意義に過ごすことができたことを僕は誇りに思います。改めてこのプロジェクトに関わってくださった全ての人にお礼を言いたいです。本当にありがとうございました。

宇田川 貴未 (うたがわ たかみ) 日本大学

4月のキックオフミーティングからもう8か月も経ちます。そう考えると、この8か月間は長いようであつという間に感じられます。それはきっと、定例会をはじめ、学生同士の集まりを定期的に行い、毎日がとても充実していたからだだと思います。正直、FUTUREが始まる前は、先輩から話を聞いていて、とにかく“忙しくて、大変そう”という印象を持ちました。しかし、そのように印象を持っただけではなく、共に少し興味も持ちました。私は、特に大学で胸を張って頑張ってきたと言えることを今までやってこなかったの、このプロジェクトに参加することは自分にとって自信を持たせる良いきっかけになるのではないかと考えたからです。そこでまず、キックオフミーティングに参加して話を伺ってから今後どうするか決めようと考えました。そして実際に東京広告協会に足を運び、今後のスケジュールなど、話を伺い、「ゼミのみんなが参加するのならやってみようかな…」という軽い考えでFUTUREに参加しよう決めました。そのため、活動が始まり、テーマ決めや調査票の作成の頃は、あまり積極的になれず、人任せにしていたところがありました。ところが、そんな私が変わったきっかけがありました。それは夏に行われた、合宿です。合宿は、いつもの定例会とは違って長い時間を作業に費やす、辛いだけのものだと思っていて、正直、行きたくないという感情が強かったです。しかし、実際に参加してみたら、辛かったけれどそれ以上に、楽しさや達成感、自分の成長を感じられました。朝早くから夜遅くまでずっとみんなと同じ空間で、集めたデータを使い、チームごとに、ロジックチャートを組むため、ひたすら話し合い、意見をぶつけ合いました。いつもなら意見を言えず、人が言ったことに対して「そうだね」と賛同するだけの私ですが、この2日間は違ったのです。それはきっと、集中して作業を行い、みんなの姿勢もより熱心になったため、私も遅れず頑張りたいと思う気持ちが大きくなったからだだと思います。そして、気がつくと、考え、伝える事に不思議と楽しさのようなものが感じられました。「今まで何故もっと参加してこなかったのだろう」と思う時もありました。合宿が終わった後は、徐々に学生同士が集まる回数も増えていき、1つものをみんなで作るとい作業が繰り返されました。そのため、少しずつ個人に与えられるタスクも増えていき、また、集まるときには夜遅くまで時間を共有するなど、より一層忙しくなっていました。「もうラストスパートに差し掛かっている」と感じながらも、なかなか納得のいくものができず、行き詰ってしまうこともありましたが、そのような時でも諦めず議論をぶつけ合い、何度も考え直しや、振り返りを行うそんな環境の中、共に切磋琢磨してきた仲間とは、想像以上の絆が生まれたと感じています。

そして今、満足のいく状態で私たちのプロジェクトが終わろうとしています。この機会を通して、自分が成長することができただけでなく、かけがえのない仲間と出会うことができ、このプロジェクトに参加して本当に良かったと思っています。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった高堀さんをはじめとする東京広告協会の皆様、東京サーベイリサーチの皆様、毎週の定例会にもわざわざ足を運び、私たちのサポートをしてくださったOB・OGの方々、そしてお忙しい中、毎週時間を割いて丁寧なご指導をしてくださったアドバイザーの石寺さん、吉田さん、古賀さん、寺前さん、心から感謝いたします。このFUTUREをやり遂げることができたことを嬉しく思う一方で、当たり前にも8か月間活動してきて、生活の一部ともいえるFUTUREが終わってしまうと思うと少し寂しく感じます。ここで学べたこと、ここでできた仲間を今後も大切にしていきたいです。本当にありがとうございました。



梅野 さくら (うめの さくら) 駒澤大学

私は4月のキックオフMTGに出席することはできませんでした。4月の時点ではそもそもFUTUREの存在自体を知らず、中野ゼミに入ったばかりの時だったのです。私は大学3年生で経営学部へ転部し、2年の終わりから始めた長期のインターンシップ、ゼミ、経営学部の授業と色々やってみようと軽い気持ちでゼミのプロジェクトの1つであったFUTUREにも参加し始めました。そして私が初めてFUTUREの定例会に行ったのが5月の3回目くらいの定例会でした。よく内容も分からないまま急いでテーマを決めて企画書を作成していったのを今でも鮮明に覚えています。駒澤はみんな途中参加かつ3人しかいなかったの、私は最初、他の大学の人数に圧倒されていた部分もあり、OB・OGの方のようにみんなと仲良くなれるのかを1番心配していました。実際なかなか馴染めていなかったと思います。その上、ゼミやインターンとやらなければならないことが多かったため、毎週月曜の定例会には参加することができても、それ以外のミーティングに参加することがなかなか出来ず、FUTUREに対する意識が低くなってしまっていた時期があり、自分の中途半端さや、自分がいなくても十分に進んでいく側面をみて、モチベーションが下がってしまっていました。そんな時にあることが私に変化をもたらしました。それが合宿前の事前課題だったのです。ほぼ毎日のようにどこかで集まって付箋にとつもない量の事実をひたすら書いては解釈を導きという作業の繰り返し、それでも終わらなくて私の家で夜通し考えに考え、そのまま朝から日大の商学部にお邪魔してまたひたすら考えていました。あの時はもうこれ以上は頭を働かせられないと思うほど考え抜いて、その頑張りやアドバイザーの方に合宿で認めてもらえた時は今までにない達成感を感じることができ、考えることの楽しさに気づくことができたとても貴重な経験でした。また、自分の意見がたくさん反映されていたことによって、自分の意見に自信を持つことができるようになっていきました。そこからFUTUREに対する意識が変化していき、合宿が終わってからは自分からも積極的に意見を言うようになりました。ただ、一時期何日も夜通しで考えて、アドバイザーの方からダメ出しされて精神的にも身体的にも辛いときもあったのですが、そんな中でも続けてこれたのは、少しでもより良いものにしたいという強く高い意識があったからで、絶対に最後までやりきりたいという執念に近い思いがあったからでした。そして何よりどんなに辛い時でもメンバーが支えてくれたことが自分の中ではとても大きかったです。私はFUTUREに参加し始めた時は上記でも述べたようにあまり馴染めていなかったのですが、合宿などを通してたくさんのメンバーとコミュニケーションをとることで、どんどん距離を縮めていくことができるようになって、いつの間にか愚痴でも相談でもできるような存在になっていった人もいました。今まで一緒に頑張ってきたみんなには本当に感謝していますし、このメンバーで本当に良かったと心から思っています。残りわずかとなってしまい終わってしまうのはとても悲しいですが、最後まで全力で自分らしく頑張っていきたいと思います。高堀さんをはじめとする東京広告協会の皆様、東京サーベイリサーチの皆様、FUTUREを続けさせてくださった中野先生、たくさんのアドバイスをくださったOB・OGの方々、アドバイザーの石寺さん、吉田さん、古賀さん、寺前さん、私たちを後ろから支えてくれた恵大、鈴奈には感謝しきれません。私自身こんなに成長できるとは思っていなかったし、人って成長しようと思えばこんなに成長できるのか、ということも教えてくださり、自分を変えるきっかけにもなりました。こんなに貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。FUTUREに参加できて本当に良かったです。



尾形 洋介 (おがた ようすけ) 上智大学

以前からFUTUREの活動に興味があり、期待を込めて参加したキックオフミーティング。人数の多さに圧倒されながらも、このグループの中で埋もれずに約一年間きちんと自分を出していこうと決意しました。忙しさの中でやめてしまう同期が出るたびに、正直なところ自分も何度も悩みましたが、最後までやり抜くことができたのは同じ志を持ってここまで共に活動してきた仲間の存在のおかげでした。個性豊かなメンバーは難しい内容に取り組んでいる時も休憩になるといつも笑わせてくれるので、オンとオフの切り替えをうまく利用し集中できたと思います。何か一つのことにみんなで熱く議論を重ねてきたこの時間は自分の中で確実に大きなものになりました。大学生活の中で一番頑張ったことといっても過言ではないですし、確実に自分を成長させていただきました。自分は何かが一番大変で一番記憶に残っているというのではなく、この活動全体のボリューム感というものを日々実感しながら、大きなプロジェクトに参加しているという責任も感じていました。企画から調査、分析、記者プレゼンテーションまでをプロの方のアドバイスを頂きながらも自分たち学生の手で進めていけたことは今後の自信にもつながると思いました。始めは週一回の博報堂本社でのミーティングから段々と学生ミーティングの回数が増え、課題も増えていく中で、自分たちが進めていることは前進しているのか、ゴールにきちんと向かっているのかという不安はよく仲間とも話になりました。やはり終わってからわかることではあるのですが、最終的にはゴールにたどり着くことができましたし、より良いものを作るためには後退や回り道も大切なプロセスであることがわかりました。次に、このプロジェクトを通して自分が何をできたか、もっと何かできることがあったのではないかとということについて考えてみました。前者は最後までやり抜いたこと、自分ならではの意見を積極的に発言できたことが全体を通して自分が達成できたと感じる点です。後者はずっともって考える事をあきらめずにできたのではないかとこの点です。アドバイザーの方からのフィードバックを受けた時、なんで自分はこのアイデアにたどり着けないのかと感じた機会が何度かありました。良いアイデアが全然浮かばない時はとてもつらく、あきらめたくてしましますが、活動を進めていくうちに気づいたことがあります。それは面白いアイデアが浮かばない時はいつも面白いアイデアを考えようと必死の時です。ちょっと一見関係のないように感じることを考えている時ほどそれがアイデアの種になるような時が何度もありました。こうしたことは、アドバイザーの方々の視野の広さや知識、関心の多さからもわかりました。アドバイザーの方々やOBの方々からこの約一年間自分はあらゆることを吸収しようと考えていたのに、自分が想定していたよりもとても多くのことを学ぶことができて本当に参加してよかったです。他の学生たちにはできない経験を自分たちはできたのだと改めて実感しました。このようにこのプロジェクトから得たことは書ききれないくらいたくさんあり、それはたくさんの方の協力があって成り立ったものです。大変貴重な機会を与えてくださった高堀さんをはじめとする東京広告協会の皆様、調査に携わっていただいた東京サーベイリサーチの皆様、日々サポートしてくださったOB・OGの先輩方、お忙しい中時間を割いてご指導してくださったアドバイザーの石寺さん、吉田さん、古賀さん、寺前さん、本当にありがとうございました。ここで学んだ多くのことを必ず今後活かしていきたいです。



押尾 樹 (おしお たつき) 千葉商科大学

4月から始まり約8か月間取り組んできたFUTUREを終えて自分が感じることは、自分自身の未熟さと弱さです。「とりえず手当たり次第にやってみる」これが3年生の春の頃の自分のスタイルでした。FUTUREも厳しいことはわかりながらも、なんとかなるだろうという軽い気持ちで参加しました。今思えば、大学内でこれまで経験してきた様々な活動が僕に良い意味でも悪い意味でも自信を持たせていたのだと思います。しかしそんな驕りともいえる自信はFUTUREに取り組んだこの8か月間で砕け散りました。

東京広告協会でのキックオフミーティングから始まった4月の活動は、初めての経験に戸惑いながらも学外の人たちと共に活動することに刺激を感じていました。しかし活動が本格化していくにつれて自分の意見をなかなか言葉にできず、自分自身がFUTUREに対して積極的な姿勢で取り組むことができていると感じ始めていました。博報堂で行われる定例会では調査票の作成方法や、ロジックチャートの講義など、アドバイザーの方々から様々なことを学ぶことができ、知識の面では自分自身の成長を感じていました。しかし行動の面では学んだ知識を生かすことができず、意見を言うことのできない自分にもどかしさを感じ、「はたして自分がこのプロジェクトに参加している意味はあるのか、周りにもたくさん迷惑をかけているわけだし、中途半端な気持ちならやめるべきなのではないか」とまで思っていました。

そんな自分の悩みとは裏腹にFUTUREの活動は進んでいきます。順調に進んでいくFUTUREと、結束力の高まるメンバーたちを見て、積極的に参加できていない自分はメンバーのみんなにも後ろめたさを感じ、気持ちでどんどんネガティブになっていきました。正直、定例会に向かう電車の中で「今日の定例会が終わったら、活動を辞退しよう」と考えることも何度もありました。でもいざ定例会に行くと、いつもメンバーのみんなが積極的に自分に声をかけてくれて、参加できていない部分の進捗状況を丁寧に教えてくれました。特に代表の恵大はマメに連絡をくれて、自分の状況に理解を示してくれたこと本当に感謝しています。メンバーのみんなには本当に迷惑をかけたと思います。自分がどれだけFUTUREに貢献できたのかわからないですが、最後までFUTUREをやりきることができたのは間違いなくメンバーのみんなのおかげだと思います。本当にありがとうと伝えたいです。改めて、自分はこの8か月間のFUTUREの活動から様々なことを学ぶことができたと感じます。調査票の作り方やロジックチャート、プレゼンをする上で意識すべきこと、グループワークにおいて求められることなど学べたことは数えきれません。FUTUREを経験したからこそ、かつての驕りともいえる自信が不安へと変わりました。自分はまだまだ学ぶべきことがたくさんあると今は感じています。そしてまた自分が本当にやりたいことはいったい何なのか、無計画な行動ではなく自分がやれること、やりたいことを見極めた上で行動することが大切なのだと今は思います。このような貴重な経験を糧に、これからの学生生活さらには社会人でも新しい挑戦を続けていこうと思います。

最後になりましたが、私たちに成長できる場を与えてくださった高堀さんをはじめとする東京広告協会の皆様。調査にご協力いただいた東京サーベイリサーチの皆様。このような貴重な機会を与えてくださった松本大吾先生。支えてくださったOBOGの皆様。そして学生の意見に対して、丁寧にご指導ご鞭撻をくださったアドバイザーの石寺さん、吉田さん、古賀さん、寺前さん本当にありがとうございました。FUTURE2017で得ることができた経験は私の大学生活の思い出として一生忘れられないものとなりました。改めて心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



郷間 百合 (ごうま ゆり) 日本大学

「みんなが行くなら私もとりえず行ってみよう。辛くなったら辞めよう。」という軽い気持ちと、「いままでの大学生活は特に何もしてこなかったから、一つでも頑張ったといえることをしてみたい。」という気持ちで参加した4月のキックオフミーティング。いざ会議室に入って場違い感を感じた事、やけに上智生がエリート学生に見えた事、自己紹介をするだけのたった1分程度でも皆の前で話すことに緊張したこと、今でも覚えています。あれからもう8カ月が経とうとしていることに驚きを隠せません。みんなと一つの課題に切磋琢磨したこの8カ月は私の大切な財産です。

プロジェクトが始まり、毎週月曜日の定例会以外に学生では水曜日と金曜日を集まる日にしました。水曜日は毎週参加して、金曜日は集まれる人も少なかったので私も行ける日だけ行って、1週間のうちFUTUREに関わるのは2日か3日だけでした。だんだんと月曜日に出される課題の内容が大変になっていき、一部の人だけが期限ギリギリまで寝ずに頑張っているという時期がありました。今思うと本当に申し訳なかったと思うし、もっとあの時期から皆で協力できていたらなあと後悔しています。

調査票作りが始まったところから、どこにいても「あの人マナー悪いな」「歩きスマホ多いな」「優先席座るか迷う…」というように、常にFUTURE関連のことを頭で考えてしまっていました。

そして自分が一番変わったなと思ったのは夏合宿です。今までは大人数だったので誰かがやってくれるという気持ちや、少し発言しにくいという気持ちが心の中にありました。ですが夏合宿はチームごとの作業だったので、一人ひとりが積極的にやらなければならないと思い、今まで以上に積極的に参加しました。自分の発言にチームの皆が賛同してくれたり、自分では考えつかない考えの人がいたり、行き詰ったり、白紙に戻ったり、とても大変でした。この合宿では、頭できちんと整理してから相手が納得するような意見を言うこと、「書いたことが考えたことのすべて」とアドバイザーの方から教わり、皆の大切な意見を聞き漏らさないように、忘れないように、常にメモを取ることも、他にも多くのことを学び、色々な面で成長できました。大変だったけど、チームのメンバーがいたから夜中まで楽しく頑張れたなと思います。ほかのチームの様子も結構覗いていたのですが、今まであまり発言をしていなかった人が積極的に参加し、沢山発言していたことに、自分ももっと頑張らなきゃという刺激を受けました。夏合宿を機に、みんなの仲も深まったような気がします。夏休み明けからが本当にあっという間でした。友達との約束をドタキャンしてまで集まりに行ったり、バイトを1か月お休みしたり、本格的にFUTURE優先の生活になりました。趣味や遊びを我慢して参加したからこそ、自分は成長できたと自信を持って言うことができる気がします。

プロジェクトも大詰めを迎えた今、どんな時もお互いに支えあって頑張ってきたFUTURE2017のみんなには感謝の気持ちでいっぱいです。FUTUREはとても大変なプロジェクトなのに、ここまで頑張れたのはみんなとの楽しい思い出が沢山あるからだだと思います。22時からマックも今となってはいい思い出です。(笑)29人という大人数をまとめ、引っ張ってくれた恵大。いつも親身に聞いてくれた鈴奈、お疲れ様でした、そしてありがとう。2人は自慢の代表と副代表です。

最後になりましたが、高堀さんをはじめとする東京広告協会、東京サーベイリサーチの皆様、FUTUREに参加する機会を下された相原先生、いつもそばでサポートしてくださったOB・OGの皆様、お忙しい中毎週私たちのご指導をくださったアドバイザーの石寺さん、吉田さん、古賀さん、寺前さんに心から感謝いたします。このFUTUREでの経験をこれから色々なところで活かせるよう頑張ります。本当にありがとうございました。



齋藤 匠 (さいとう たくみ) 青山学院大学

「FUTUREってなんだらう…」一体どんなものなのか、もの知りたさだけで臨んだキックオフミーティングからもう約8か月が経とうとしているなんて正直信じられません。博報堂の方々との協力のもとプロジェクトに取り組めるということはなかなかない機会だと思い私は参加することを決めました。

不安でいっぱい初回の定例会でいきなり1分間の自己紹介の時間が設けられ、緊張したのと同時に色々な人がいてこれからの活動が楽しみだなという気持ちを持ったことを今でも覚えています。とはいえ、なかなか他大学のメンバーとの交流はできず、打ち解けず活動に臨む日々が続いてしまいました。そんな中ある日の飲み会を境に会話をすることもままならない関係から、お互いの意見をぶつけ合い、1つのものを作っていく関係へと変わっていくことができチームとしてようやく機能するようになったのが懐かしく思えます。「書いたことがすべて」この言葉が私の中に強く印象に残っています。普段あまり文字を書くことのない私にとっては慣れないことでしたが、必死に毎回の定例会、学生ミーティングで配布資料が真っ黒になるくらいメモをしたのが個人的に頑張ったことの1つでしょう。

ようやく環境に慣れてきた頃、夏合宿が始まり、合宿を経てメンバーのFUTUREに対する意識が変わりました。今まで先頭に立って話を進めていた人だけでなく、全員が前に立って発言することと発表者を支えるためのバックヤードを経験したことにより一層お互いのことを理解し、1つの目標に取り組むことの大切さを実感できたことが大きな成果であったと思います。私は論理的に話すことが苦手でしたが、合宿を通して「ロジックチャート」を繰り返し行ったことで論理的な思考回路が身に付きました。論理的に説明することで相手にとってわかりやすく、何が言いたいのかを簡潔に話にまとめることができるということが実践を通じてわかりました。

合宿を機にメンバーの参加態度も変わっていき、それぞれがゼミやアルバイト、インターンなどの課外活動があるにもかかわらずFUTUREとの両立を上手くしながらできるだけ毎日集まりができるようになっていました。今までも意見のぶつかりや議論の行き詰まりはありましたが、メンバーが本気になればなるほどぶつかりも激しく、そして考え込んでしまう時には全く進まなくなってしまうこともありました。しかし真っ向から否定するようなことはなく違う考えも取り入れながら学生が言いたいこと、今の学生は何を思っているのかを詰めていくことができたと思います。形がまとまってきてからも満足することなく、細かい部分にまでこだわって考え自分たちでさらに深堀をしていく作業は大変ながらもとても充実した時間だったと感じています。家族よりも長い時間を過ごしてきたこの大学生意識調査プロジェクト「FUTURE」の活動がもう終わってしまうことに安堵感があるのかと初めは思っていました。今では寂しい気持ちでいっぱいです。

最後になりますが、このような大変貴重な機会を与えてくださった高堀さんをはじめとする東京広告協会の皆様、東京サーベイ・リサーチの皆様、芳賀先生、OB・OGの皆様、アドバイザー石寺さん、吉田さん、古賀さん、寺前さん心から感謝しています。本当にありがとうございます。そしてFUTURE2017のメンバーに出会い、真面目な議論や時に楽しい飲み会などで約8か月一緒に過ごすことができたことが本当にうれしく思っています。迷惑をかけることも多々あったと思いますが温かいメンバーに支えてもらったおかげで最後までやり遂げることができました。FUTURE2017のメンバーでしか得ることのできなかった貴重な経験をこれからも大切にしていきたいです。本当にありがとうございました。



佐藤 可奈 (さとう かな) 上智大学

FUTUREの存在を知ったのは、ちょうど去年の今頃。先輩のSNS投稿で#FUTUREとタグつけられた写真がすごく楽しそうで、チャンスがあったら参加したいと思いました。そして迎えた4月のキックオフミーティング。去年の先輩が作った冊子を手にした時に、8か月後自分たちの調査がこのような冊子になるのかと思い、わくわくしていたのを今でも覚えています。

いざ活動が始まると、待ち受けていたのは想像した以上に変な課題の数々でした。大学別で案を出すときには発想力のなさを痛感し、本当に周りが興味を持ってもらえるテーマが出るのか不安で仕方ありませんでした。そしていざ調査票を作り出した時は、本当にこの質問票で自分たちが知りたいことへの答えが出るのか確認して、直すという作業の繰り返しでした。

最も印象に残っているのは合宿です。私は合宿前に入院したことで、ロジックチャート作成に参加できないまま合宿初日の中間発表を迎えてしまいました。あまりにも参加できていなかったせいで、アドバイザーさんからの辛口のフィードバックに対して、悔しいや悲しいなどの感情を全く抱けなかったのが不甲斐なく感じました。だからこそ、せめて合宿中では誰よりも頑張らなければいけないと思って必死になったのを覚えています。どの班よりも夜遅くまで作業して、一番早く起きて続きを行う、妥協することを嫌うメンバーだったからこそすごく充実した2日間となりました。戦力外にもかかわらず、温かく迎え入れてくれたデアゴスティーニ班員には頭が上がりません。また、この夏合宿のチームメンバーとプライベートでも仲良くなれたのは本当に嬉しかったです。

私は部活と上南戦実行委員会に所属していたため、本当に両立が大変でした。自分で決めたことだから、自業自得と言われればそれまでですが、この3つの活動全てを投げ出さずに取り組んだことで諦めてしまう、という悪い癖が少し治ったかなと思います。

こんなに欲張りな3年生生活で、最後までFUTUREをやりきれたのは、プロジェクト内容に魅力的に感じていたのももちろんありますが、なにより恵大と鈴奈をはじめ、仲間に恵まれたからだだと思います。初期からみんなを引っ張ってくれていた恵大。私が想像できないくらいの仕事と責任があったにも関わらず、弱音を吐くどころか皆を鼓舞していく姿には本当に尊敬していました。鈴奈はロジックチャートの講習会の時の発表がうまくて、すごい参考になったのを覚えています。副代表になってからは縁の下力付的な存在で、持ち前の優しさでみんなをサポートしてくれました。上智のメンバーは定例会後に赤坂から四谷までその日のフィードバックからプライベートな話までしながら歩いて帰ることで仲が深まり、この帰り道が毎回の楽しみにまでなっていました。他大学のメンバーは学生ミーティングに遅れた時も優しく迎えてくれ、そしていつも思ったことをすぐ言ってしまう私を温かく見守ってくれて本当に感謝しています。

ロジックチャートや客観的に物事をみる能力など技術的に得られたものもありますが、こんなに大勢のメンバーと最後まで走り抜けたという達成感が、FUTUREで得られたものの中で、最も大きいものだと思います。

最後になりましたが、このような大変貴重な体験の場を設けてくださった高堀さんをはじめとする東京広告協会の皆様。調査、集計の際にご協力いただきました、東京サーベイ・リサーチの皆様。FUTUREに参加する機会を与えてくださった杉谷先生。右も左もわからない私たちを見捨てることなく支えてくださった博報堂アドバイザーの石寺さん、吉田さん、古賀さん、寺前さん。調査票を丁寧に記入していただいた学生1000人。皆様の協力なしではこのプロジェクトは遂行できませんでした。心から感謝いたします。ありがとうございました。



佐藤 初美 (さとう はつみ) 日本大学

今、FUTUREでの活動の感想を書くことになって、時の流れの早さに驚いています。4月に行われたキックオフミーティングには、ゼミのみんなが行くし、就活に使えるのかなという軽い気持ちで参加しました。行ってみると、アドバイザーの方々や他の大学の人たちの雰囲気や圧倒されて、自分にこの活動を続けられるのだろうかと不安な気持ちになったのを覚えています。活動が始まってからも、しばらくは正直そこまでやる気もなく、いつでも辞めたくなったら辞めれば良いやと思って、なんとなくだらだら続けていました。今考えると、その時から頑張ってくれていたメンバーには申し訳なかったと思うし、自分にももったいないことをしていたと思います。

そんな私が変われたのは、間違いなく9月にあった合宿です。限られた時間でロジックチャートを作り上げることは想像していたよりも大変でした。しかし、やっていくうちにいいものを作りたいという気持ちがどんどん大きくなっていき、いつのまにか一生懸命になっている自分がありました。自分の意見をチームのみんなに伝えたり、アドバイザーの方々や他のチームの人たちの前でプレゼンしたりと、これまでの生活では縁がなかったことを経験しました。それらの経験を通して、人前で話すことへの苦手意識が軽減して、自分を成長させることが出来たと感じました。また、今まで話したことがなかった子とも話することができて、たくさんのメンバーと仲良くなることが出来ました。この合宿で大変な思いをしたからこそ、FUTUREへの思い入れが強くなり、その後の活動では今までよりも積極的に参加するようになっていきました。

合宿が終わってからは、本気を取り組むようになったからこそ、この活動の大変さが分かってきました。考えても考えてもいいアイデアが浮かばなくて、終電ギリギリまで、時には家に帰ってから明け方まで電話して考えたりしました。そんな風に一生懸命考えても、定例会では毎回問題を指摘されて、何回ももう限界だと思ったりしました。メンバー同士でも意見が分かれて、ぶつかったこともありました。でもこの時点では、もう辞めたいと考えることはなくなっていました。気がつけばほぼ毎日FUTUREの活動に使っていました。4月のキックオフミーティングに参加したときは、自分がこんな風になるなんて想像していませんでした。

この感想を書いている現時点では、まだ活動は終わっていませんが、プレス発表が終わって今までのようにみんなが集まる機会がなくなると考えると、寂しさで胸がいっぱいになります。この8カ月間で、人前で意見を言うこと、反対に他の人の意見を聞くこと、論理的に考えること、協調性、メモを取る大切さなど、本当に多くのことを学び、自分を成長させることが出来ました。今思えば、私の大学生活で一番有意義で、充実していた期間だったと思います。

最後になりましたが、このような素晴らしい経験の場を与えてくださった、高堀さんをはじめとする東京広告協会の皆様。調査・集計の際にご協力いただきました東京サーベイ・リサーチの皆様。FUTUREのプロジェクトに参加する機会を与えてくださった相原先生。私たちが常にサポートしてくださったOB・OGの皆様。お忙しい中時間を割いてプロジェクトを支えてくださったアドバイザーの石寺さん、吉田さん、古賀さん、寺前さん。その他調査に協力してくださった全ての皆様に心から感謝を申し上げます。そして、いつも先頭に立って私たちを引っ張ってくれた代表と副代表の恵大と鈴奈。8カ月間一緒に頑張ってきたFUTURE2017のみんな。迷惑もたくさんかけたと思うけど、みんなのおかげで、最後までやり抜くことが出来ました。貴重な体験と最高の仲間ができて、本当に良かったです。ありがとうございました。



高橋 絵理佳 (たかはし えりか) 駒澤大学

FUTUREが始まってから約8ヶ月、不安なこともたくさんありましたが、それ以上に貴重な体験ができて感じています。FUTUREで出会った仲間とひとつのテーマについて考え抜いた日々は、他では経験することができない良い機会になりました。辛くてやめたいと思うことも何度もありましたが、この期間に数多くのことを学ぶことができ、結果として参加して良かったなと思っています。

私は大学に編入してから決意していたことがありました。それは残りの大学生活を充実させることでした。短い残りの大学生活、遊ぶのではなく、新しいコミュニティに積極的に参加しようと考えていました。ゼミに所属してまもなく、FUTUREの存在を知り、参加することとなりました。先輩からの勧めもあり参加したFUTUREでしたが、はじめは周りと馴染めず不安ばかりの日々を送っていました。不安を抱えながらも、着々とテーマ案が決まり、調査票が完成し、調査票を配る段階まで来ていました。各大学1,000人規模の人に調査を行うと聞いて驚きました。この調査票を通じてFUTUREが大規模のプロジェクトであることを改めて実感したように思います。同じ大学生に一人一人声をかけてまわる毎日。本当に回収しきれぬのか不安でしたが、無事に終わり、いよいよロジックチャートを作成することとなりました。結果の数値から論旨を作り上げていく作業はとても地道でした。ひとつのストーリーを作るためにチームの皆と地道に考え抜いたからこそ、完成したときの達成感は大きなものでした。合宿ではロジックチャートを完成させる作業だけではなく、個々のプレゼンテーションについて博報堂の方からアドバイスをいただくなど、これから社会人になる上で身に付けていくスキルについても学ぶことができました。合宿も終わり、FUTURE2017冊子の完成に向けてロジックチャートを新たなチームごとで作成する日々が続きました。課題に追われ、眠気と戦いながらもオールして作業したこともありましたが、それも仲間がいたからこそできたことでした。もちろん、周りと話がかみ合わずいつくこともありました。それでも、相手の意見を受け入れ、尊重し、議論を進めていくことの大切さをそこで学んだ気がします。

正直この8ヶ月間、ゼミが忙しくFUTUREとの両立は難しいものでした。調査票を完成させるまでの段階は、なかなか集まりに参加できずにいました。そのせいか、このままFUTUREをやっている意味はあるのだろうか考えることもありました。しかし、調査票を配る段階でFUTUREに楽しさを感じ、両立は難しいけどもっとFUTUREに力を入れようと考え始めていました。また合宿やオールを経験したことで、次第にFUTUREで出会った仲間たちと仲良くなり、自分の居場所を見つけたように感じました。とりあえず参加してみようとはじめてFUTUREでしたが、作業一つ一つが自分への成長へとつながり、この機会を通じて本当に大きなものを得たように感じました。

最後になりましたが、私たち学生にFUTURE2017という貴重な成長の場を与えてくださった高堀さんをはじめとする東京広告協会の皆様、調査に協力いただいた東京サーベイ・リサーチの皆様、毎週の定例会や合宿にまで足を運んでくださったOB・OGの皆様、お忙しい中私たち学生に熱心にご指導していただいたアドバイザーの石寺さん、吉田さん、古賀さん、寺前さん、心より感謝申し上げます。皆様の協力があったからこそ経験できたプロジェクトであることは間違いありません。FUTURE2017で得られた経験やこのプロジェクトを通じて出会った仲間は、残りの大学生活を充実させるというわたしの目標を達成するには十分すぎるものとなりました。FUTUREで経験した辛かったこと、楽しかったことすべて忘れずに今後も自分なりに全力で頑張っていきたいと思っています。みんなに出会えて良かったです！本当にありがとうございました。



武田 奈々 (たけだ なな) 日本大学

私は2年生のゼミに入った頃に、なんとなくFUTUREの存在を知りました。3年生になると、先輩から詳しく話をお伺いしていく中で、参加した方がいいと先輩方全員が口を揃えておっしゃっていたのを聞いて「FUTUREで自分を成長させることができ、何か大きなものが得られるのではないかと」思いキックオフミーティングに参加しました。そして、期待と不安を抱いて挑んだ、キックオフミーティングでは、たくさんの大学の学生が集まり、大学生の意識調査と言うこともあり、自分の1番身近な集団である大学生の意識を知れることはとても面白そうだなという印象を受けました。しかし、私はこの環境に馴染めるのだろうかと焦りを感じつつも「去る者は追わず来る者は拒まず」と言う言葉を聞き、「自分のできるところまで、とりあえず挑戦してみよう!」と思い、FUTUREの参加を決意しました。しかし、決して簡単に作れるものではありませんでした。

4月からテーマ決め・調査票を作るにつれ、「いいものを作りたい!」と言う気持ちが強くなっていきました。テーマ決めでは、大学ごとに案を持ちよりご指摘を受けながら何度もテーマを考え、テーマ決を行いました。そこで決まった今回のテーマは「大学生のマナー」であったこともあり、改めて自分自身のマナーも見つめ直すことができるいい機会となりました。しかし、私は自分の意見をはっきりと伝えるのがとても苦手なのに加え、アイデアが思い浮かばず、自分には向いていないのではないかと悩んだ時期も多かったです。

そんな中で、迎えた9月のFUTURE合宿。グループの仲間とともに付箋を何度も書き直し、1つのテーマについて何時間もかけて、議論をしたことを懐かしく思います。この合宿を通して仲間との絆が深まり、FUTURE2017のメンバーと一緒に最後までやり遂げたいと思えるようになりました。

合宿後も、ロジックチャート作りに取り組みました。少ない事実からロジックチャートを組む作業は特に大変で、一言一句のニュアンスを深く考え、何度も考えては、変えるという繰り返しの作業はとても苦労しました。自分が考えたアイデアでも、他者の目線からみるとわかりにくいと感じてしまい、また振り出しに戻っては考え、悪戦苦闘しました。この中で、自分の語彙力の無さを痛感するとともに、さまざまな意見を交わすことで、多様な意見や価値観を吸収することができました。さらには、パソコンの技術も学ぶことができ、将来に生かしていけるスキルがたくさん身に付きました。

こうしてあっという間に8ヶ月が過ぎました。この経験の中で、1つのもをみんなで意見を出し合って作る楽しさや難しさを学び、自分の弱みを知ることができたとともに伸ばすことができたのではないかと感じています。意見を言うのはまだまだ得意ではありませんが、前の自分より意見を言えるようになり成長を感じています。このようにFUTUREをやってこられたのは、FUTURE2017のメンバーのおかげです。みんなに支えてもらえたからこそ、ここまで頑張れたと思います。ありがとうございました。

最後になりますが、このように、自分が成長できる場を設けてくださり、貴重な経験をさせてくださった、高堀さんをはじめとする東京広告協会の皆様、調査にご協力して頂いた東京サーベイリサーチの皆様、相原先生、FUTUREの先輩であり親身になってご指導して頂いたOB・OGの皆様、多くの時間を割いてまでご指導くださった博報堂のアドバイザーである石寺さん、吉田さん、古賀さん、寺前さん、調査に回答していただいた皆様に心からの感謝を申し上げます。FUTURE2017に参加できたことは学生生活でかけがえのないものとなりました。この中で得られた知識や経験を糧にして、自分ももっと成長していきたいと思えます! 本当にありがとうございました。



棚橋 茉莉 (たなはし まこ) 駒澤大学

初めて定例会に参加した5月にはFUTUREは始まっていました。とりあえず行ってみよう、という思いから始まったFUTURE生活。やっていけるだろうか、みんなについていけるだろうか、そんな不安が大きく残ったのを覚えています。ただ、新しい仲間ができる喜び、他大学の大学生と意見を交わす楽しさ、自分がどのように成長し、変わることができるのかとワクワクし、「とりあえず“でも来てよかった、FUTUREを続けてみようと思いました。正直、どこかのタイミングでやめるのではないかと”思っていたので、今こうして自分が感想を書いているなんて、とても信じられません。

学校・ゼミ・FUTURE、毎日についていくのに必死でした。参加日数が少なく、周りに置いて行かれていくという意識が強くなり、理解が曖昧だから確認したいと思って素直に聞くことができず、またみんなと差がつくという悪循環のなかにいました。みんなと会えるのは嬉しい、楽しい、でも理解が乏しいと議論が楽しいと感じられません。そんな時、調査票が完成、大学ごとに配ります。想像以上に大変な作業でした。無事全て配り終え、みんなの前で一言話す機会があり、私は参加できなかった分を取り戻したい。みんながどんどん仲良くなっていくことが羨ましい、悔しい。追いつけるように頑張りたい。と話しました。今その言葉を振り返り、思うこと。正直追いつけたかどうかはわからない、ただ、あの時よりは何倍もみんなと仲良くなれた、そう思います。FUTURE2017に参加していた“人”ではなく、“仲間”になれたのではないかと思います。そのことが何より嬉しいです!

9月、FUTURE合宿がありました。論理的に考えることがこんなにも難しく、頭を使うことだとは思いませんでした。いかに自分が普段頭を使わずにポケーっとしていたかがよくわかります。論理的に考えることを意識するだけで、今まで気づけなかった事実気づき、人に自分の考えや思いを伝えることが簡単になった気がします。少人数のグループに分かれたことで、一人ひとりと深くかかわり、良いところ、尊敬できることを沢山見つけることができました。合宿最終日、一人ひとりがみんなに向けて話します。自分がなにを学び、どう変わり、どう成長したか、みんなの熱いFUTUREへの思いが私の心に届きました。冊子を作る作業では、定例会以外のミーティングにも少し参加することができ、今までよりも楽しく、意見を言うことが、考えることが楽しいと感じることができました。冊子づくり、とても大変でした。自分たちの考えが伝わらないこと、うまく文にまとまらないことがここまでもどかしいことだとは思いませんでした。すべてはみんなだからできたこと、このメンバーだからこそできたことだと思います。

最後に、FUTUREという貴重な機会を設けてくださった高堀さんをはじめとする東京広告協会の皆様、アンケートの収集・分析をしてくださった東京サーベイリサーチの皆様、FUTUREという素敵な経験に参加する機会を与えてくださった中野先生、ありがとうございました。調査票を配る際、私が悩んでいた時、沢山の場面で何回も助けられました。OB・OGの先輩方、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。お忙しい中丁寧にかつ真剣に、本気で熱くご指導してくださったアドバイザーの石寺さん、吉田さん、古賀さん、寺前さん、本当にありがとうございました。皆さんから学んだこと、教わったこと、すべてが私の財産です。そして何より、参加日数の少ない私を見捨てることなく、常に情報共有をまめにしてくれたみんな、分からないところある?と気にかけてくれるみんな、私が納得・理解するまで辛抱強く説明してくれるみんな、そんなみんなとだから最後まで私はFUTURE2017のメンバーでいられることができました。ありがとう。



丹内 陽太 (たんない ようた) 日本大学

4月のキックオフミーティングから早くも7ヶ月が過ぎ、この感想を書くにあたり、改めて私たちの活動が終わりに近づいていることを実感しています。思い起こせば4月、張り詰めた緊張感の中キックオフミーティングに参加してから今に至るまで一瞬たりとも気を抜くことはできませんでした。サークルや部活動に所属しているわけでもなく、これといって大学生活で打ち込むという経験をしてこなかった私にとって、苦しくも楽しい充実した、そして濃密な8ヶ月間のFUTUREの活動は一生の財産となりました。

正直、最初はこのプロジェクトに参加するか迷っていました。FUTUREがやりたいから相原ゼミに入った、と言っても過言ではない私は、いよいよ4月に差し掛かりなぜかプレ始めました。「大学3年の1年間を費やすだけの価値はあるのか」、「就職してからもできることを今別にやる必要はないだろ」「大学生の今のうちに思いっきり遊びたい」という感情が原因でした。それでも悩みに悩み、FUTUREをやることを決めました。そのかわりと言ったら変かもしれないですが、FUTUREをどうせやるなら一生懸命やることを自分の中で条件としました。そうでないと大学3年という大学4年間のうちの尊い1年間が無駄になると思ったからです。

とは言うものの、FUTUREになんでこんなに関わったんだろうと自分でも不思議に思って振り返ってみると、各大学の連絡者になったことが運の尽きでした。最初に言うておきますが、これを読んでFUTUREをやるのかなー、どうしようかなーと考えている人は、FUTUREにがつりどつぱり関わりたいなら最初のステップとして各大学の連絡者になることをお勧めします。想像を絶する未来が待ってます。嘘言いました。すいません。でも強ち間違っていないです。文章に自分の想いや考えをうまく表現するのが苦手な私なので、ありきたりな最後の感想を書いても仕方がないですが、FUTUREで得られたことはなんだろうと真剣に考えると、ロジックチャートによる論理的思考も正解だと思し、プレゼンテーションの能力もそう、ディスカッションの仕方もそうだと思うし、目上の人に対する礼儀もどれも正解だと思います。私の場合は、わかりません。(笑)本当に色々な経験をさせてもらっている人々に助けられて、支えられているなあ気づけたことかなと、少し綺麗事に聞こえるとは思いますが、そう感じます。

少し話は変わりますが、ああでもないこうでもない、とことある毎にみんなに対してだったり、個人に対してだったり怒ってきました。(笑)本当にごめんなさい。(笑)でも今年のFUTUREを良いものにしたいと思っての言葉だったことだけはどうか理解してください。どうしても良いものを作りたくて。それでもみんなと最後までやってこれたこと、本当に嬉しいです。メンバーの何人かで深夜まで電話で話したことも数え切れないほどあったし、場所がなくカラオケ(トマト事件)でオールをしたことも、みんなでも串だおれに飲みに行ったことも、日を重ねる毎にみんな仲良くなっていくのも実感しました。

最後になりますが、代表である恵大と副代表である鈴奈、2017の代を率いてくれてありがとう。そして、お疲れ様でした。

このような機会を設けてくださり常にご支援いただいた高堀さんをはじめとする東京広告協会の皆様、調査の仕方等、一般の大学生では普段体験することができない実査・集計にご協力いただいた東京サーベイ・リサーチの皆様、ゼミの先生である相原先生、ゼミの先輩をはじめとするOB・OGの皆様、毎回の定例会にも参加していただき現役に寄り添い、私自身が相談させていただく度に本当に本当に親身になってアドバイスをしてくださった昨年度代表である圭亮さん、副代表である佳奈さん、そして熱心にご指導いただいたアドバイザーである石寺さん、吉田さん、古賀さん、寺前さんには感謝してもきれません。本当にありがとうございました。



對馬 燧 (つしま たつ) 日本大学

自分が成長するタイミング、大学で熱意をもって打ち込んだ何かがあると欲しいと思っていた時にちょうど舞い込んできたのが、FUTUREでした。ゼミの先輩からもたくさんのエピソードや参加してわかった良さなどを聞いたことでFUTUREについての好奇心は始まる前からとても大きなものとなっていました。しかし最初のキックオフミーティングで、場の雰囲気や知らない人たちとうまくやっていけるかどうかをネガティブに考えてしまい、正直なところあまり気持ちは乗りませんでした。その中でも、最初に志したことは最後まで頑張ってみようという強い思いと、ゼミのみんなが参加するからとりあえずやってみようという少し弱い思いの2つを抱えながら、目の前の課題を一つひとつこなしていくうちに、気が付いたらもうプレス発表というあっという間の8か月間でした。徹夜での作業が続いたり、思うようにうまくまとまらなかったりした時もたくさんありました。大きな不安や倦怠感などに見舞われたりもしましたが、チーム一丸となってアドバイスし合ったことでそのような困難も何と乗り越えられました。また、自分の意見を述べたりするのは割と得意なほうだったのですが、他人の意見を自分やチームの意見に組み込むことに自信がなく、初期のころはかなり苦労しました。

そんな私が自分自身でも変わったことを感じたのは、合宿でした。今年の合宿は例年とは異なり、1泊2日でしたが中身の濃い2日間だったと思います。一緒に悩みながら、論争しながら作業をしたおかげで本当に仲良くなれ、より一層やりがいを感じることができました。合宿の課題の中間発表においては、論理的思考のひとつであるロジックチャートの構築のポイントやプレゼンにおける改善点など、将来の自分のためになる様々なアドバイスをいただきました。時間がかなり少ない中で作業であり、ただでさえ難しいロジックチャートを眠さと戦いながら組んでいくのは、とても大変でした。自分にはない考えや知識にたくさんふれることができた合宿はとても有意義なものであり、精神的にも体力的にもハードではありましたが、やってよかったと思えるような充実感でした。

合宿が終わってからは、時間の経過が早く、毎週課題との戦いででした。何度も何度もロジックチャートを構築し、本当に述べたいことは何かを話し合いぶつかり合いました。時には意見が噛み合わず、何時間も話し合ったりしました。厳しく、大変な日々ではありましたが、今までの大学生活で最も充実したものでした。これまでの大学生活を何となく過ごしてきた私にとっては大きな転換期となりました。1つの大作を作り上げるために切磋琢磨し、共に歩んだ仲間たちはこれからの人生における財産になると確信しています。みんなと共に過ごす時間が残り少なくなると思うと寂しさでいっぱいです。そしてそれと同じくらい成長できた喜びを感じています。

最後になりましたが、このような貴重な機会を提供してくださった、高堀さんをはじめとする東京広告協会の皆様、調査結果をデータとして見やすくしてくださった東京サーベイ・リサーチの皆様、毎週の定例会にもわざわざ足を運び、私たちのサポートをしてくださったOB・OGの皆様。そしてお忙しい中、毎週時間を割いて熱心にアドバイス・ご指導してくださったアドバイザーの石寺さん、吉田さん、古賀さん、寺前さん。皆様のご協力なしではこの貴重な経験はできませんでした。この機械で学んだたくさんの方の力を活かし、今後の大学生活及び社会人になっても忘れず、何事に対しても諦めずに努力し続けていきたいです。FUTURE2017に関わっていただいた方々全員に心から御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



西村 聡太 (にしむら そうた) 上智大学

忘れもしない4月17日、月曜日。私は、「博報堂で働いている人はどんな人なのだろう、見てみたい!」というかなりふわふわした気持ちでキックオフミーティングの会場に足を踏み入れました。いつもは「とりあえずやるか!」と好奇心が勝つ私も、さすがに「やります!」と即答はできませんでした。私はすでにサークルの代表、学習塾での大学受験生の担当といったどれも責任のあるものを抱えており、スケジュールの管理ができるのか不安だったからです。しかし、武智さんの「ほかの大学生にはできない経験が大きく成長する糧になる」という言葉が耳から離れず、3日間考えたのち、参加することを決めました。

FUTUREの活動が始まってからは生きた心地のしない日々が続きました。毎日FUTUREの課題のことだけを考えて生活し、ああでもない、こうでもない何人かの仲間が朝まで電話で考えることもしばしばでした。だからこそ、FUTUREの活動に全てをささげずに定例会でのみ顔を合わせる一部の仲間の存在が腹立たしく感じることもありました。頭では、「FUTUREがすべての人ばかりじゃない、いずれ自分もそうなる時が来る」と理解していたものの、「なんでこんな数人でやっているんだ、もうやめたい」そう思うことも何度もありました。今だからこそ笑い話ですが、当時は恵大や陽太が「それでもみんなでやりたい」と言っているのを耳にして、心の底からこいつらとは合わないと思っていました。(今は本当に大好きだよ(笑))

そんな私に転機が訪れたのは1泊2日の分析合宿でした。中間発表でアドバイザーの方に「議論が足りない。全然できていない」と厳しい言葉を頂き、心が折れそうになっていた私は、以前からそのことを相談していた陽太から「もっと周りを見たほうが良い」とアドバイスをもらい、その日の議論から意識して周りの意見を聞くようにしました。すると、皆からどんどん意見が出てきて、今までの私の態度や言動が意見を潰していたことに気がつきました。皆だって本気でFUTUREと向き合っている。自分もこのままじゃいけない。そのことを私に気付かせ、欠点をまっすぐに指摘してくれた仲間やアドバイザーの方に出会えたこともFUTUREを通して得た財産です。

そして、毎回定例会に足を運んで私たちを見守ってくださり、時には私たちと同じ目線で関わってくださった高堀さんをはじめとする東京広告協会の皆様、私たちの調査を助けてくださった東京サーベイリサーチの皆様、いつも私たちの近くで見守り、時には助言をし、へこんでいるときには励ましてくださったOB・OGの方々、いつも父親のように優しく、正しい方向へ導いてくださった石寺さん、合宿では前に立っていた自分に厳しい言葉であり方を教えてくださり、常に私たちのことを考えてくださった吉田さん、私たちの意見を何とかしてくみ取ろうとしてくださった古賀さん、私たちと一番近い距離で関わり、ミスをして優しく励ましてくださった寺前さん。多くの方の尽力があったからこそ、私たちはFUTUREという大規模なプロジェクトに集中し、よりよいものを作ることができました。この場を借りて御礼申し上げます。

この感想を書いている今、私は他の業務が忙しく、学生ミーティングに参加できる時間も限られてきています。しかし、以前の自分とは全く違う自分になったと実感することが多くなりました。FUTUREも終わりに差し掛かった今、ふと思えます。FUTUREで私が得たものは何だろうか。プレゼンのスキル、論理的思考能力。もちろんそうです。しかし、本当に得たものは仲間を信じる気持ちだと思います。そのことを教えてくれた28人の仲間たちには本当に感謝したいです。そして、8か月前の自分に胸を張って伝えたいです。「FUTUREは、今の君に足りないことを学べる場所。迷わず、参加しなさい!」

最後に28人の仲間たちへ。
「こんな俺と一緒に最後までやってくれてありがとう。皆と会えてよかった!」



服部 瑞穂 (はっとり みずほ) 日本大学

4月から始まったFUTUREの活動もあつという間に過ぎ、気が付けば11月になっていました。長いようで短かったこの約8か月間は私の大学生活のなかで最も密度の濃い充実した日々だったと感じています。

「ゼミ生みんな参加している先輩からもオススメされたから行ってみよう!」くらいの気持ちで私のFUTUREはスタートしました。最初の数ヶ月の定例会や学生ミーティングは正直に言うとモチベーションも低く、「誰かが最後はうまくやってくれる」と思っていました。それと同時に積極的に意見を言い、議論しているメンバーやどンドン進んでいく話し合いの場で発言できない自分自身に劣等感を抱えていました。私の中で転機となったのが、9月に行われた1泊2日の合宿とその2日前にグループで課題を終わらせるために徹夜したことです。私たちの班は合宿の前に各自予定があり、なかなか集まることができませんでした。そのため合宿の前にメンバーの家に泊まり込み徹夜で課題を行いました。グループワークでは6人という少人数で課題を行なったため、「自分も積極的に参加しよう」という意識がとて強くまりました。この意識作りができた環境と班のみんなのおかげで、意見も以前より言うことができるようになったと思います。壁いっぱい貼り付けられたポストイットをみんなで見ながらたくさん議論を交わしました。何度組み合わせてもロジックチャートが終わらず、考えも煮詰まり、睡魔にも襲われ、心が折れそうになりましたが互いに支え合って最後は気力で頑張った気がします。合宿準備から合宿で最も学ぶことができたと感じたことは、自分の視野を広げたこと・タイムマネジメントです。みんな様々の視点を持っており、とても刺激を受けました。グループワークでは合宿前の徹夜のおかげか合宿では衝突がなかったと思いますが、最後まで修正を行っていた為、完成がギリギリで、「最初から最後までやっていたね」なんてお互いに言っていたのが今では懐かしいです。タイムマネジメントの重要性は、この合宿がなかったら分からなかったと思います。限られた時間の中で良いものを作ることの大変さを改めて感じることはできたとてもいい機会でした。

合宿後、5つあったロジックチャートを1つにまとめるまでの時間はとにかく時間が経つのが早かったと感じています。わずかではありましたが、ズレていた方向性を完全に一致させる作業は私の中で最も苦労したところだと思っています。私たちが1番伝えたいことは何なのかをみんなで何度もロジックチャートを組み直したり、サブ主張を作り変えたり正解が見えない日々が続きましたが、納得できるものが完成した時の達成感は今でも忘れられません。

今振り返ってみると、FUTURE2017のプロジェクトは正直楽しいことばかりではありませんでした。「辞めたい」と思ったことも正直あります。しかしここまで続けてこれたのは間違いなくこのメンバーだったからだと思います。大学生活でこんなにも頑張ろうと思えたプロジェクトにメンバーの一員として参加することができて幸せです。このプロジェクトは私の大学生活の中で最も成長できたものであり、たくさんのことを得ることができました。社会にでて仕事に取り組む際、この経験で得たものは必ず生かしたいと思っています。

最後に、私たちに貴重な成長できる機会を提供してくださった高堀さんをはじめとする東京広告協会の皆様、東京サーベイリサーチの皆様、私たちを見守ってくださった相原先生、私たちに多くのサポートをしてくださったOB・OGの皆様、そしてお忙しい中熱心にご指導してくださったアドバイザーの石寺さん、吉田さん、古賀さん、寺前さん、心から感謝申し上げます。そして共に約8ヶ月間頑張ったFUTURE2017のみんな本当にありがとうございました!!



藤原 里緒 (ふじわら りお)

青山学院大学

FUTUREが始まってから、もうすぐ8ヶ月が経とうとしています。数字にしてみると長いものですが、振り返ってみると本当にあっという間でした。3年目を迎える大学生活の中で打ち込んだものが何1つなかった私は、このプロジェクトが終わりを迎えようとしていることに驚きと、安堵と、そして少しの寂寥を感じています。

ゼミに入りたての私は、自分の意見を相手に伝えることに慣れていなく、「3年生になったら自分が成長できることに取り組みたい」という気持ちでFUTUREに挑みました。そして、ロジックチャート研修をきっかけに変わることができたと思います。

それまでは真剣には取り組んではいたものの、他大学であるみんなといまい打ち解けることもできずに、毎週の課題をただひたすら取り組んでいました。ロジックチャート研修で夏合宿のグループメンバーが確定し、夏合宿にむけてロジックチャートを組み立てている間、以前よりも自分が積極的に発言をしていることに気が付きました。少人数で何回も話し合いを重ねるにつれてメンバーとの仲を深めることが出来、打ち解けたからこそ自分の意見が言えるようになりました。夏合宿以降は同じグループのメンバー以外とも打ち解けることが出来、自分が思ったことは率直に言えるようになりましたし、楽しさも加わりました。意見が言えるようになったからと言って、相手の意見を押しつけるようなことはせずしっかり受け止める、そして互いに刺激し合うというのは、仲間だからこそできたことだと思います。自分が成長できたのは、FUTUREに取り組んだということだけではなく、FUTURE2017のみんなのおかげでもあると思っています。夏合宿以降より一層FUTUREの課題に追われることとなりました。ゼミが22時に終わった後も青学前のマックで集まってロジックチャートを組み続けた日が続き、時にはゼミとの両立に苦しんだこともありましたが、今となってはいい思い出です。(笑)みんなとの議論や自分たちが言いたかったことが少しずつ見えてきた時、みんなとFUTUREやっていたよかった、という実感が湧きました。また、苦しい状況の中でも、手を抜いてしまっては今までの努力が無駄になってしまうので、一度だって緩むことを許されませんでした。

調査を作るうえで、仮説を立てることの重要性。相手が話している内容を聞き流さないようにメモを取る。考えたことはまず書くようにすること。論理的に考える、伝えること。プレゼンテーションをする際、人にどう伝えるのがいいのか。1つの事に対して真剣に、丁寧に取り組むこと。FUTUREに参加していなかったら、どれも得ることのできなかったことばかりです。

29人で1つのものを作り上げたこの8ヶ月間、今までで最も充実し、最も濃い8ヶ月でした。自分がどれだけ貢献できたかは分かりませんが、自分の成長には確実に繋がったことは確かです。

最後になってしまいましたが、大変貴重な場を提供してくださった、高堀さんをはじめとする東京広告協会の皆様、調査・集計の際にご協力いただきました東京サーベイ・リサーチの皆様、FUTUREに参加できる環境を用意してくださった芳賀先生。私達を側で見守り、サポートし続けてくださったOB・OGの皆様。お忙しい中、このプロジェクトを最後までご指導してくださったアドバイザーの石寺さん、吉田さん、古賀さん、寺前さん。FUTUREに参加する決意を一押しして、FUTURE全体を支えてきた恵大と、ゼミとFUTUREとの両立で滅入った私に声を掛けてくれた匠。そして、この8ヶ月間共に活動してきたFUTURE2017のみんな。皆様方のおかげで、普通の大学生だったら経験し得ないことに参加することが出来、また最高の仲間に出会うことが出来ました。この8ヶ月間は、私にとっての誇りです。心から感謝の気持ちで一杯です。

大学生意識調査プロジェクト「FUTURE」が、今後も益々素晴らしいものになることを心から願っております。本当にありがとうございます。



古屋 匡隆 (ふるや まさたか)

日本大学

4月から始まったFUTURE2017がもう11月になって7ヶ月経ったことに自分自身が一番驚いています。とりあえずサークルに入って、学校で授業受け、バイトをするというとても平凡な毎日を送っていたとき、他の大学生が経験したことの無いことをしたいなと思っていました。そんなとき、ゼミの先輩たちから3年生になるとFUTUREという活動に参加することができると教えてもらい、面白そうだなと思って興味を持ったのがきっかけでした。

4月になりキックオフミーティングに行くときは、いつ辞めてもいいのだからとりあえず参加してみようかなという軽い気持ちでした。ミーティングが始まると、とても重い雰囲気の中でプロジェクトをやっているのかなと感じていたのを今でも覚えています。プロジェクトが始まってすぐの頃は大学ごとに分かれての作業が多く、なかなか他の大学の人と話す機会がなくてみんなと仲良くやっていけるのかと思っていました。しかし、ミーティングを重ねるにつれて他の大学の人と議論する機会が増え、気付いた時には大学間の壁はなくなっていました。あつという間に7月になり、自分たちが頭を悩ませながら作成した調査票が完成しました。各大学200部ずつ配布して回収するという作業はとても大変でしたが、調査票の作成から配布、回収まですべてを自分たちだけで行うというのはとても貴重な経験になりました。

そして、9月になり赤坂で行われた講義では「ロジックチャート」を1日かけて学び、その後千葉で行われる夏合宿までの1週間、いつもの大人数とは違い6人程度のグループで活動することになりました。夏合宿の初日は宿に着いてすぐに中間発表を行うことを聞かされていたのですが、自分たちのグループはなかなかメンバーのみんなが集まることができず、合宿の何日か前に徹夜でロジックチャートを作りなんとか中間発表に間に合わせることができました。このときは、本当に大変な思いをしたのですが、メンバーのみんながいたからこそ乗り越えることができました。でも、合宿前にメンバーと運命共同体になる準備ができていたのは良かったのかなと思います。合宿中はロジックチャートを考えては組み直しての連続でうまく解釈をすることができなかったり、行き詰ったことも何度もありました。でもそんなときには、グループのメンバー同士で支えあっていけたからこそ無事に合宿をやり遂げることができたのだと思います。

自分がFUTUREの活動を通じて学んだことは沢山ありましたが、特に自分にとって大きな学びとなったものの1つがロジックチャートです。論理的に考えることや話すこと書くことが苦手な自分にとって、事実から解釈、解釈から主張という流れで考えるということは普段あまりなかったもので、難しかったけどとても新鮮で本当にいい経験ができたなと思います。

今この感想を書いているFUTURE2017がもう終わってしまうのかと思うと少し寂しい気持ちになります。代表のけいたや副代表のすずなをはじめ、FUTURE2017は最高のメンバーが集まったと思います。自分が途中でやめることなく最後までFUTURE2017をやり遂げることができたのは、みんなが優しく、楽しい雰囲気を作ってくれたからだと思います。本当にみんなには感謝の気持ちでいっぱいです。

最後になりましたが、このような大変貴重な機会を提供してくださった高堀さんをはじめとする東京広告協会の皆様、調査集計にご協力してくださった東京サーベイ・リサーチの皆様、定例会や合宿に足を運ぶ多くのサポートをしてくださったOB・OGの皆様、本当にありがとうございます。そして大変お忙しい中、丁寧かつ熱心に指導してくださったアドバイザーの石寺さん、吉田さん、古賀さん、寺前さんには心から感謝しています。本当にありがとうございました。



保坂 桃子（ほさか ももこ） 日本大学

「大学生時代の思い出作り」という名目に入ったサークルで全く熱くなれなかった私は、このまま大学生活を終えることに危機感を覚えていました。そんな私は迷わずFUTUREへの参加を決めました。しかしいざスケジュールについて先輩から聞くと、緩い人生を歩んできた私がやっていけるのかと一気に不安になりました。そんな不安を抱いたまま足を運んだキックオフミーティングでは、これまでの人生で味わったことのない張り詰めた空気に腰が引けました。でも「ゼミのみんながやるしとりあえずやってみよう。」私はまたもや緩い気持ちで次週からの定例会への参加を決めたのでした。しかしそんな私がFUTUREに魅了されたのは第1回目の定例会でした。そこで行われた他大学の発表が「本当にみんな私と同級生なのか？」と疑うほど高レベルで劣等感を感じました。さらに1番驚いたのは、アドバイザーさんが学生案を読み、瞬時に内容を理解して核心を突く疑問を投げかけるという、プロの姿を目の当たりにしたことでした。その世界観に強く引き込まれた単純な私は「ここに8ヶ月いたら私も成長できるかも。」と思い、FUTUREを最後までやりきることを決意しました。その時からの8ヶ月を振り返ると、あっという間に時間が過ぎました。毎週月曜日の定例会、次の定例会に向けた学生ミーティング、夜中の電話ミーティング、頭が動かず無意味となった徹夜。それらをしていくと、1週間が怖いくらい早く過ぎました。そして私がFUTUREをより一層意識するようになったのは合宿でした。赤坂でグループが発表された時から、「合宿グループは運命共同体」と吉田さんが何度もおっしゃっていました。最初はこの言葉の意味を理解していませんでした。しかし合宿1日目、中間発表の結果を受けて私達の意識は変わりました。「遠回りしても効率が悪くてもいいから、妥協は絶対しない」と、限られた時間で何度も積み上げては崩しを繰り返しました。時には上手いかわず涙が出そうになりました。そんな時、チームのメンバーで気分転換に食べた自販機のアイスはたまたま美味しく感じたのでした。また、当日来られなかったメンバーからの音声メッセージが最高に嬉しかったです。そのように行き詰っては励まし合う連続で、夜は1番遅くまで、朝は1番早く作業を始めて最後まで粘り続けました。運命共同体とはこれだと実感しました。最終発表では前回との差を評価していただき、安堵の気持ちと達成感で疲れが吹っ飛んだのを覚えています。この合宿で「何度崩れても諦めずに前に進めば得るものがある。失敗にも意味がある」ということを学びました。私達のグループは自称1番苦しんだグループでしたが、深く調査票と向き合ったからこそロジカルに考える力とチームワークの強さを手に入れることができたのだと思います。今回FUTURE2017の一員として、普通の大学生ではできない大きな課題に取り組めたことを心から嬉しく思います。日常生活でも事実、解釈、主張の流れで話したり、合理的という言葉に過剰反応したり、「タイムマネジメント」にはまって乱用したり、FUTUREを常に意識してしまう生活が本当に楽しく幸せでした。気づくとアツくなっている自分がありました。この8ヶ月は私の大学生活の中で間違えなく1番充実した時間でした。毎日楽しく思えたのはFUTURE2017みんなのお陰です。特に恵大と鈴奈、最後までみんなをまとめてくれてありがとう。最後になりますが、この貴重な機会を与えてくださった高堀さんをはじめとする東京広告協会の皆様、調査にご協力いただきました東京サーベイ・リサーチの皆様、温かく見守ってくださったOB・OGの皆様、お忙しい中貴重なお時間を割き指導してくださったアドバイザーの石寺さん、吉田さん、古賀さん、寺前さん、皆様には心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。



星野 莉良（ほしの りら） 上智大学

4月のキックオフミーティングから8ヶ月。今まで生きてきた中で一番といっても過言ではないくらい一瞬で過ぎていった8ヶ月間でした。何となく参加したキックオフミーティングでアドバイザーさんの話を聞いて「とりあえず続けてみようかな。」と軽い気持ちでプロジェクトへの参加を決めました。すぐに活動が始まり、まずはテーマ決め。会話もほとんどしたことなかったメンバーといきなり議論をすることに戸惑いながらも何度も何度もテーマ案を出しました。やっとのことでテーマが決まり、息をつく暇もなく調査票作りが始まりました。テーマ決め以上に何度も何度も考えては変更する作業の繰り返しに途中で投げ出したくもなりました。出来上がった調査票が手元に届いた時の感動と達成感は今でも鮮明に覚えています。このころにはメンバーのみんなとも打ち解けることができてきました。一つの目標に向かってみんなで努力することの楽しさを感じ始めたのもこの時くらいからだったと思います。そして、FUTUREの活動の1番の思い出は何といっても夏合宿です。合宿前に学んだロジックチャートの考えを自分たちが集めたデータで実践しました。それまでは論理的に考えることが苦手だった私にとって、このロジックチャートは革新的な考え方でした。これからの考えに一生影響を与えるものになったと思います。夜中までチームのメンバーでロジックチャートを組み立て続ける作業の辛さも一生忘れられない思い出です。私のチームは自分たちでも認めるくらい個性の強いメンバーの集まりでした。自分の意見とメンバーの意見とが全くつながらないことは当たり前でしたが、自分では思いつかない考えが出てくることは私にとって発見の連続でした。ロジックチャートの組み立てはつらいものでしたがメンバーとの議論はとても楽しく成長できるものになりました。最終発表まであっという間に過ぎていった合宿でしたが、たくさんの成長ができたと思います。FUTUREの活動全体を振り返ってみると私が貢献できたことは少なかつたように感じます。活動にも欠席してしまうことが多く、本気でやめようと思ったこともありました。そんな時に代表のけいたが私の話を聞いて「参加できるかできないの問題ではなく参加したときにどれだけ頑張れるかが大切だし、もうちょっとだけ考えてみて。」と言ってくれました。そのあと気持ちが定まらないなか参加したミーティングでほかのメンバーも「頑張ろう」と声をかけてくれました。悩んでいた私を温かく受け入れてくれたみんなに救われました。自分ができることを確実にやっというかと思えるようになったきっかけでした。大人数で何かをすることはどちらかというと苦手だった私ですが、このFUTUREを通してみんなで成し遂げることの大変さと楽しさを学ぶことができました。メンバーのみんながいたからこそ最後まで続けるという選択ができ、今はあの時に辞めなくて本当に良かったと思っています。みんなにはありがとうという言葉では表せないくらい感謝の気持ちでいっぱいです。本当に私の自慢のメンバーです。FUTUREに参加していなかったら仲間の大切さをここまで感じることはできなかったと思います。最後になりましたが、このように貴重な機会を与えてくださった高堀さんをはじめとする東京広告協会の皆様と調査にご協力いただいた東京サーベイ・リサーチの皆様、たくさんのサポートをしていただいたOB・OGの先輩方、そして毎週お忙しい中私たちにご指導をしてくださったアドバイザーの石寺さん、吉田さん、古賀さん、寺前さん、皆様には心から感謝を申し上げます。一生忘れられない8ヶ月間となりました。本当にありがとうございました。



宮澤 優芽 (みやざわ ゆめ) 日本大学

緊張と不安を抱えながら参加した4月のキックオフミーティングから、気づけば8カ月が経とうとしています。あの時は「8カ月とか長いな」と思っていたのですが、今考えるとあつという間でした。大学3年になった頃、私は大学生生活で頑張ったと思えることがありませんでした。そんな時、先生と先輩方からFUTUREについて説明していただき、とりあえずキックオフミーティングに参加しました。FUTUREは他ではなかなか経験できることではなく、大学生活において良い刺激となり、自分を成長させるチャンスだと感じた反面、やっていける自信はあまりなく、「ゼミのみんなも参加するし、辛くなったらやめよう」という気持ちで参加しました。そして、毎週の定例会や学生ミーティングでは、様々な意見が飛び交っている中、的外れなことかもしれないという不安などでみんなの前で意見を言うのが苦手な私は、意見を聞いてメモを取り理解することでいっぱいだったので、あまり積極的に参加していませんでした。そんな私の意識を変えたのは、ロジックチャート研修と1泊2日の合宿でした。ロジックチャート研修では、論理的な思考法であるロジックチャートについて学び、その後分けられた少人数のグループでロジックチャートの作成を行いました。論理的に考えることも意識することもほとんどなかった私は、最初から苦戦しました。そして気持ちの入り方が変わると聞いていた1泊2日の合宿。周りから「寝られないし辛いらしい」と聞いていたため、やり遂げる自信の無さと不安で行くの嫌だと感じながら合宿を迎えました。実際に、試行錯誤し作成したロジックチャートを新たに一から組直し、ポストイットに囲まれながらの睡魔との戦いで大変でしたが、それよりも、作業をしているときに楽しくたくさん笑いながら取り組んでいたのが、辛いより楽しいという気持ちが上回っていました。さらに、少人数だったことで一人ひとりの意見が重要であることを改めて思い知り、ただメモを取って納得しているだけではなく自分の意見も伝える大切さ、そしてグループの一員である自覚と責任感を持ちました。また、グループワークだけでなく、他のグループの発表を聞いたことで、自分とは違った視点や考え方を吸収でき、同じ事実からでも様々な解釈や主張を導くことができることを学びました。この合宿を通して自分を成長させることができ、多くのメンバーと仲良くなれたこともありFUTUREに楽しいという気持ちが芽生え、もっと積極的に参加してみんなでより良いものを作りあげ最後までやり遂げたいと強く思うようになりました。合宿後はたくさんの議論を重ねて、全体で1つのロジックチャートを作り冊子作りにはげました。今振り返ると合宿後からが特に時間が過ぎるのが早かったと思います。ここまですべてを終えて、ロジックチャートの作成を繰り返す行こうと、論理的に考えるための基礎を身につけることができ、また、1つのものに一生懸命取り組むことで自分を成長させることができたと感じます。また多くの壁を目の前にしたときは、大変で、「辞めたい」と考えることもたくさんありましたが、FUTURE2017のみんながいたこと、最後までみんなとやり遂げたいという思いから乗り越えることができました。心から辞めずに続けていよよかったと思いますし、私にとってFUTUREはかけがえのないものとなりました。最後になりましたが、FUTUREという貴重な機会を与えてくださった、高堀さんをはじめとする東京広告協会の皆様や、調査にご協力いただいた東京サーベイ・リサーチの皆様、プロジェクトに参加する機会を与えてくださった相原先生、的確なアドバイスや様々な意見をくださったOB・OGの皆様、お忙しい中ご指導してくださった石寺さん、吉田さん、古賀さん、寺前さん、そして8か月間一緒にやってきたFUTURE2017のみんなに感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



山口 明峰 (やまぐち あみね) 日本大学

私はこのFUTUREを知らずに今のゼミに入りました。3年生になり、始めはFUTUREのことをよく理解していませんでした。とりあえずみんなが参加すると言っていたので参加することになりました。忙しくなると思い込んでいたけれど、いつでも辞められると言われていたので始めたときはつらくなったらやめればいよいよという気持ちでした。最初にキックオフミーティングがあり、6大学の学生と初めて会いました。みんなと仲良くなれる気がしませんでした、少し頑張ってみようかなという気持ちになりました。それから何回かは大学ごとの作業が多く、ほとんど他大学の人と話すことはありませんでした。その後少しずつ大学を混ぜたチームでの作業が始まりましたが、なかなか仲良くならず、不安でした。そのためあまり作業にも身が入らずあまりやる気もありませんでした。そのまま前期が終わり、中締め飲み会になってしまいました。しかしこの中締めでお酒の力もあり私の中で何か壁がなくなった気がしました。それからはメンバーとの関わりを大切に、支えあって今まで頑張ってきたことができてきました。打ち解けた後はとても楽しく日がたつのがとても速く感じました。個性豊かなメンバーと出会い、こうして意識調査をすることができて本当に良かったです。この8か月間は、私の大学生活を語る中で欠かせないものになり、とても良い思い出になりました。そんな思い出の中でも特に思い出に残っているのが合宿です。まず博報堂でロジックチャートについて講義を受けました。ここでは論理的な思考を学び頭がパンクしそうでしたが、とても貴重な機会でした。これを踏まえてロジックチャートを組み合宿に臨みました。私たちの班は中間発表でボロボロにダメだしされました。それがとても悔しくて合宿中はどの班にも負けないうくらい時間を使い一生懸命取り組みました。その結果アドバイザーの方から褒められました。それが私の中でとてもうれしかったと同時に、本気で取り組んだことで認められたことがすごく自信につながりました。この経験から私は生まれ変わったかのように積極的に意見を言うようになりました。意見を言うようになったことでFUTUREに対しての意識も大きく変わりました。合宿に行く前までは誰かがやってくれるからいいやと思っていましたが、このころからもっといいものを作るためには何をしたらいいかと自然に考えるようになっていました。私はFUTUREに参加して本当に良かったと思っています。成長出来たことはもちろんのことなのですが、FUTURE2017のメンバーがいたからこそ最後まで頑張れたと思います。個性豊かなメンバーだったと思いますが、みんなそれぞれがいいところがあり助け合っていくことができました。また、私自身もこのFUTUREで大きく変わることができました。今まではどんなことに対しても飽きてしまい中途半端でした。また打ち込めることがなく何気なく生きていました。しかしFUTUREでは今までは比べ物にならないくらい頭を使い、全力で取り組むことができました。この経験はとても自信となり、全力で取り組むことの楽しさを知りました。この貴重な経験とこの気持ちは一生忘れません。最後になりましたが、FUTUREという貴重な経験を設けてくださった高堀さんをはじめとした東京広告協会の皆様、調査にご協力頂いた東京サーベイ・リサーチの皆様、的確なアドバイスや親身になって相談に乗ってくれたOB・OGの先輩方、FUTUREに参加する環境を用意してくださった相原先生。大変お忙しい中熱心に指導してくださったアドバイザーの石寺さん、吉田さん、古賀さん、寺前さんに心から感謝いたします。この経験を胸に今何事も頑張っていけます。本当にありがとうございました。



山田 奈央美 (やまだ なおみ) 日本大学

ついこの間キックオフミーティングが始まったように感じているのにFUTURE2017も終盤差し掛かり早8ヶ月が経とうとしていることに驚きを隠せないです。

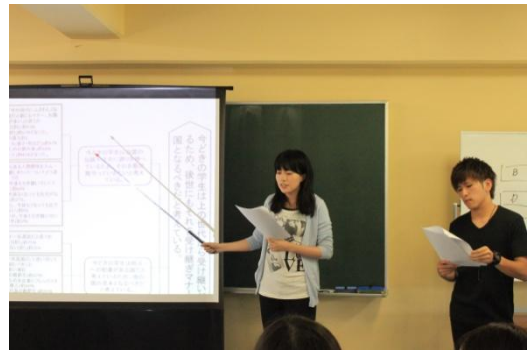
私のようにただなんとなく大学生活を過ごしてきた人がいる反面、ガチゼミに入ってどんどん成長していく友達をみて焦りと不安からこのままでいいのだろうかと考えるようになりました。そんな時ゼミの時間に先輩方からFUTUREの話をしていただきました。1年前よりも大きく変わった先輩方の堂々とした話し方や姿勢などをみて自分も先輩方ようになって成長したい、また皆が出来ないような経験がしたいと強く思いキックオフミーティングに参加することに決めました。初めてキックオフミーティングで他大の皆と顔合わせをした日、全員頭が良さそうで雰囲気も怖く仲良くなれるのか心配だった上に、ゼミ中には感じたことのない空気の重さを感じやっつけていけるのか不安になったのを覚えています。

最初の方のミーティングはただなんとなく行き、他大の皆の頭の回転の速さに圧倒され話において行かれないようにするというような感じだったので積極的参加することが出来ませんでした。FUTUREをやめたいと思ったことは一度もなかったけれど、そんな状態だったので、周りの子が授業終わりに好きなことをしたり遊びにいつている中で自分はためだと分かっているにも関わらずFUTUREに行く足取りが重い時もありました。しかしこのままではいけない、何のために始めたのかを改めて考え、皆に影響され少しずつでも自分を変えよう意識するようになりました。

そんな中自分の成長できる場となったのが合宿でした。本来の合宿は2泊3日であるのに今回は1泊2日のため1泊分の講義を受け、そこから運命共同体となる各チームが結成され合宿までにロジックチャートを完成させてくるという課題が出されました。その期間のグループワークも何とかみんなで予定を調整し終電まで課題に取り組むような日が続いたにも関わらず、なかなか思うようには進まず苦しいものでした。合宿の中間発表では自分たちのグループは多くのご指摘をいただいたのですが絶対このままでは終わらせない、何としても次の日の発表までには変わったところ絶対みせる！という気持ちを固めロジックチャートを用いて議論を続けましたが考えが出ず、手も頭も止まる時間が何時間もあり時間だけが過ぎていくこともあり、今までの案が白紙に戻った時は挫折しそうになりました。今までの人生の中でこんなに頭を使って考えたことはないし、ご飯を食べる時間も寝る時間もさぼりたいと思ってきたのは初めてでした。そして最終日、ギリギリまで作業し完成させたロジックチャートを前日に受けた注意を意識しながらチーム一丸となってプレゼンしました。大きな達成感と共にチームの絆が深くなり、より仲間を知ることが出来たいい機会になり全体に一体感が生まれたことを肌で感じました。

FUTURE2017も大詰めを迎え今まで一生懸命に取り組んできたことが段々と形となって現れ嬉しく思う反面、この活動の終わりが近づいていると感じ寂しさがこみ上げてきます。自分の未熟さを痛感したり悩むことも多々ありましたがこのメンバーがいたからこそ成長でき、乗り越えてくるのが出来ました。皆には感謝でいっぱいです。この活動で培った経験や新たな自分の課題を今後の大学生活にも生かしていきたいと思えます。苦しいときも楽しいときも皆と共に駆け抜けた8ヶ月間はかけがいのない私の宝物です。

最後にFUTUREという貴重な機会を設けてくださった高堀さんをはじめ東京広告協会の皆様、調査にご協力いただいた東京サーベイリサーチの皆様、FUTUREに参加する機会を設けてくださった相原先生、適切なアドバイスに加え献身的にサポートしてくださったOB・OGの皆様、お忙しい中熱心にご指導してくださったアドバイザーである石寺さん、吉田さん、古賀さん、寺前さん、心から感謝申し上げます。



山田 真帆 (やまだ まほ) 専修大学

「FUTUREを通して自分の糧になる何かを吸収したい」そう気込みを語った4月から、もうすぐ8ヶ月が経とうとしていることに時の速さを感じます。8か月間当たり前のようにやってきた活動が終わることに寂しさを感じている自分もいます。それくらいこのプロジェクトに大きなやりがいを感じているのだと思います。

現在所属しているゼミを選んだのはFUTUREに参加したかったことが一番の理由です。大学生の間に何か大きなことをやり遂げたい。その一心でFUTUREへの参加を決意しました。前向きな気持ちで参加した活動ですが、実際はそう簡単なことばかりではありませんでした。私は自分の意見を伝えるのが苦手で、なかなか発言するという一歩を踏み出せずにいました。積極的に発言するメンバーの意見を聞き、ただ同意することしかできない自分が腹立たしくて、自分自身の技量の無さを痛感しました。私はこのプロジェクトに何か貢献できているのか、という不安を抱えながらただ時間だけが過ぎていきました。

そんな私が大きな一歩を踏み出したのは、調査票を回収し終えFUTUREの活動も後半に突入する頃でした。調査結果のアフターコーディングやロジックチャートを作成していくことになり、そのとき分けられたグループでメンバーをまとめるようになりました。それまでただついていくことしかできなかった私にとってそれは大きな成長だったと思います。それからは自分の意見もきちんとメンバーに伝えられるようになり、私もこの活動で自分の役割を全うできているという実感をえました。合宿でのロジックチャートの作成では文章の校閲が得意だということにも気づき、これなら活躍できると自信を持つことができました。そしてこのときはじめて「グループワークが楽しい」と感じました。

合宿が終わってからも、ほとんど毎日をロジックチャートの作成につき込んでいました。作って修正、また作って修正。終わりが見えない作業の連続に途方に暮れそうになりましたが、メンバーの頑張っている姿を見ると自分も頑張ろうと思えました。

ゼミの活動が忙しい時期には、ゼミを理由にFUTUREのメンバーに迷惑をかけるわけにはいかないという思いから、自分の時間を犠牲にしても両立させました。体力的にも精神的にも決して簡単なことではなく、つらいと思うことも多々ありましたが、無我夢中で取り組んでいた気がします。ゼミとの両立が大変になることも分かっていたうえでFUTUREに参加するのを決めたのは自分自身なので、どちらかを優先することでどちらかの活動をおろそかにするのは間違っていると感じていました。妥協だけはしたくない。今思えば頑張りすぎたのかもかもしれませんが、それだけFUTURE2017をよいものにしたという思いが強かったのだと思います。

最後になりましたが、このような貴重な機会を設けてくださった高堀さんをはじめとする東京広告協会の皆様、調査にご協力いただいた東京サーベイリサーチの皆様、FUTUREに参加する機会をくださった石崎先生、定例会や合宿でサポートしてくださったOB・OGの皆様、お忙しい中熱心にご指導してくださった石寺さん、吉田さん、古賀さん、寺前さん、そのほかアンケートに協力してくださった皆様に心から感謝を申し上げます。そして8か月間、一緒に活動してきたFUTURE2017のみんな。夜遅くまで一緒にロジックチャートを作ったり、口下手な私をフォローしてくれたり、いろんな場面で何度もみんなの優しさに助けられました。私もみんなの力になれていたでしょうか？少しでもみんなの支えになれていたらうれしいです。FUTURE2017に参加したのは全国どこを探しても私たちがしかない。そんな貴重なことが経験できた私はとても幸せ者です。参加を決意した8か月前の私の判断は決して間違いではなかったと心からそう思います。本当にありがとうございます。



吉川 昂希 (よしかわ こうき) 上智大学

「今の自分が取り組むべきはこれだ！」
ここまでの3年間の大学生活、特に学んだこともなく、一生の友達ができただけでもなく、正直無為な日々を送っていました。何か打ち込めるものが欲しい、せっかく大学に入ったのだから学びのある活動をしたい、充実感がほしい、そう思っている時に出会ったのがFUTUREでした。

他の大学の友達と初めて顔を合わせたキックオフミーティングでは、果たして皆と上手くやっていけるのか、実際どのようなことにこれからやっていくのか、今まで努力という努力もしてこなかった私が最後までやりきることができるのかなど、様々な不安を抱えていました。ですが、そんな時期もつかの間、様々な障壁を乗り越え、いよいよ発表を迎えようとしています。

FUTUREに取り組むに当たって、自分に課していたことは2つありました。

1つ目は、人前で積極的に発言していくことでした。

幼い頃は人前に出ることがとても好きでしたが、年々周りの視線や自分の発言に正当性がないのではないか、ということが気になるようになり、人前に出ることを避け、いつの間にか静かに時が経つのをただ待っている人になってしまっていました。そこで今回は定例会や学生ミーティングや合宿など、様々な場面で意識的に発言する機会を探し、発言するようしていました。自分の発言は批判的な内容が多いのではないか、と思うこともありましたが、しかし、より良いものを作っていくためには、曖昧に進めていくより、厳密に議論をして進めることが必要であると思い直し、発言を控えることは取っていませんでした。このことから、1つ目の課題は達成できたように思います。

2つ目は、この活動に参加して良かったと思える活動にすることです。1つ目と比べると大きな課題かつ抽象的なものなのですが、私の大学生活において最も欠けている経験だと思っていたので、このことを強く意識して取り組むようしていました。29人のメンバー同士の強い横の繋がりが生まれたこと、アドバイザーによるフィードバック、プレゼン指導やロジカルシンキング講義など、多くの学びがあったことなど、とても実りのある活動になったと思っています。このことから、2つ目の課題に関しても達成することができたのではないかと考えています。

2つの課題を達成したことで、いづれか自己成長することができたように感じています。

FUTUREにおいて、一番印象に残っている活動は、やはり合宿でした。この合宿までは、話したことがない人がいたり、何を考えているのかわからない人もいたりして、相互理解が進まない状況が続いていました。しかし、合宿で1日中同じ課題について突き詰めていく中で、人生で初めて、言葉の喧嘩ではなく議論を体験することができました。また、各々が積極的に取り組み、発言している姿を見て、頼もしい、そしてこのメンバーで最後まで頑張っていきたいと強く思ったイベントとなりました。

最後になりましたが、このような貴重な機会を設けてくださった高堀さんをはじめとする東京広告協会の皆様、調査にご協力いただいた東京サーベイリサーチの皆様、このようなプロジェクトに参加する機会を与えてくれた杉谷先生、親身にかつ献身的にサポートして下さったOB・OGの皆様、日夜問わずお忙しい中、学生に指導して下さったアドバイザーの石寺さん、吉田さん、古賀さん、寺前さん、そして28人の中でも頼りになるFUTUREメンバーたち、好き勝手に発言したり、色々迷惑をかける場面もあったとは思いますが、大変お世話になりました。このメンバーでなければ、なし得なかった活動だったと思います。本当にありがとうございました。

この繋がりがこれからも続くことを願っています。



由永 達也 (よしなが たつや) 日本大学

「FUTUREをせずして学生終わられるか！」…正直最初はこちらまでのパッションはありませんでした。そもそも人見知りだし、飽き性だし、意見とか言えないし、遊びたいし。でも主体的に動くのがニガテな自分が変わるとしたらこのタイミングしかない、と思いを決しFUTUREの門を叩きました。

迎えたキックオフミーティング、各大学の参加者と初めて対面をした時、高鳴る鼓動を抑えられなかったことを覚えています。その際、「たくさん失敗も成功も味わって、学生的にも人間的にも成長します。」と決意表明をしました。良くも悪くもこの言葉が、自分のFUTUREを体現することになっていきました。そこから数週間が経ち初めての定例会及び学生ミーティングが行われました。まずはテーマ選考、仮説づくりという調査票の軸と基盤づくりが行われました。皆が周りを見つても着実に意見を言う中、自分は浮かび上がってきたアイデアをひたすら紙に書くだけでした。すると自分の理解が追いつかず、皆の意見についていけなくなる瞬間が増えてしまいました。益々自分は殻に閉じこもり、共有もせず存在感がなくなっていってしまった、そんな自分の心は、春眠暁を覚えず状態でした。

その後フェーズは、調査票の質問づくりに進みました。この頃になると、皆との距離が縮まり始め、公私でよく話すようになりました。それに伴い、少しずつ自分の意見を言う機会も増えてきました。しかし、この慣れが大きな失敗を導いてしまいました。端的に言うと、自分の意見をちゃんとした説明もなく否定・却下されることへの反感が募り、いざこざが生じたことでした。その結果、その場の雰囲気は引き締まらなくなり、ディスカッションの質も落ちていきました。OBOGの方々や他のグループの人から「もっともっと周りを巻き込め。」や「出てきたアイデア・意見に対してのファーストコンタクトは“なるほど”から始めよう。」などフィードバックを頂き、自己改革に努めました。意見を生かすことが、新たな意見の創出に繋がり、良い雰囲気づくりに貢献する、という学びは、このワークアウトがなかったら決して気づいていなかったことでした。この躓きを機に自分が変わったことは、自分の目から見て明らかでした。

夏が終わる頃には、調査票は完成し、配布・集計の段階を迎えました。自分にとって更なる大きな成長となったのは、その後の合宿でした。合宿では、ロジックチャートの作成を目標としていましたが、作業は難航を極めました。チャートを作っては壊し作っては壊しのディストラクションを繰り返し、熱いディスカッションとアイデアの創出が朝方まで続きました。それでも30人の時にはくすんでいた責任感や他人からの期待、そしてやりがいの大いに感じながらの作業であったため、多少まぶたの裏を見る時間があったものの少しもつらいとは思いませんでした。その結果、物事をロジカルに考える力を養えたり、本物のプレゼンテーションの仕方を体得したりと、一つひとつのアクションをブレイクダウンしていくことで人生の大きな成長となりました。まだまだ書きたいことが山ほどあり、書き足りませんが自分のことはこの辺にしておきます。

この感想を寄稿する頃には、このプロジェクトも千秋楽を迎えていることでしょう。最後になりましたが、このような8か月に及ぶ燦然たる時間を与えて下さりました高堀さんを始めとする東京広告協会の皆様、東京サーベイリサーチの皆様、相原先生、OBOGの皆様、最初から最後までお忙しい中ご指導していただいたアドバイザー石寺さん、吉田さん、古賀さん、寺前さん、本当にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

そして皆！お疲れ様！本当色々あったけどこれ以上ない最高のメンツに出会えたことが自慢です！まだまだ皆と会いたい話したいし…要するに月曜日は赤坂集合！！



渡邊 洋祐 (わたなべ ようすけ)

日本大学

私は、「大学生が大学生の意識について調査するという事は、自分が大学生である今しかできないことだ」と思い、このプロジェクトに挑戦することを決めました。そんな決意から始まったFUTUREも、もうすぐ終わりを迎えようとしていることに驚きを隠せません。

このプロジェクトでは、多くの人を知りたいと思えるようなニュースバリューがあり、今後も調査していく価値があるものを取り上げる「テーマ決め」、仮説を立てて検証していく「調査票作成」、企業の方から調査の仕方を学び、実際に1,000人からアンケートを集計する「調査票回収」、ロジックチャートを使って調査結果を考察していく「分析」、分析結果を報告書にまとめていく「報告書作り」といった流れで活動を行い、マーケティング・リサーチや論理的思考、タイムマネジメントなど多くのことを教えていただきました。

なかでも、私が最も学ぶことが出来たのは、「発信力と傾聴力」です。これを「話す力と聴く力」と捉え、人と話すことが好きで、自他ともに認めるお喋りな性格である私にとっては既に身につけている能力のように思えますが、この能力は、「自分の意見をわかりやすく伝える力と相手の意見に向き合う力」であり、私には全く足りていないものでした。そのため、はじめの方は、自分の意見を上手く伝えることができなかったり、人の意見を理解することができなかったりして、なかなか議論に参加できず、とても苦労しました。

しかし、FUTUREに取り組んでいくうちに、ロジックチャートを使って論理的に考える方法を学び、相手の話している内容をとにかくメモすることを習慣化していくことで、少しずつ「発信力と傾聴力」を身につけていきました。すると、仲間のいろいろな意見や考え方ももっと知りたくなるようになり、話やすい雰囲気を作ったり、自分からあまり発言できていない人に話しかけて、意見を引き出したりできるようになりました。今では、この2つの能力が身につけてきたせいか、お喋りな性格がパワーアップしてしまい、「そんなうるさいキャラだと思わなかった」と女子に引かれてしまったり、「お前が隣でずっと喋っていると思うが停止する」と仲間にも怒られたりしています。学生ミーティングでは、いつもうるさかったと思いが、「とにかく楽しく、みんなが参加したくなるFUTURE」になるように、雰囲気を明るくするためにやってきたつもりなので、どうか許してください。

このように、みんなの前では、いつも明るく振舞ってきましたが、実はFUTUREと部活動の両立がとても大変でした。始発で練習に行き、FUTUREをやって終電で帰るという生活サイクルで、体力的にも厳しかったし、みんなが大変そうな時期に活動に参加できなかったときは、みんなの力になれない情けなさとしりななさでいっぱい、精神的にも辛く、FUTUERを辞めたくなったこともありましたが、それでも辞めずに続けられたのは、みんなで協力して取り組む毎日がとても楽しかったからです。最初はみんなのために楽しい雰囲気をつくりようとしていたのに、最終的にはその楽しい雰囲気に自分が救われていました。みんな本当にありがとう。そして、そんな最高の仲間とFUTURE2017を作り上げることができたのは、代表の恵大と副代表の鈴奈のおかげだと思っています。二人には本当に感謝しています。ありがとう。最後になりましたが、このような貴重な学びの機会を与えてくださった高堀さんはじめとする東京広告協会の皆様、調査・集計にご協力いただきました東京サーベイ・リサーチの皆様、FUTUREに参加する機会を与えてくださった相原先生、親身にサポートして下さったOB・OGの皆様、いつも真剣にご指導してプロジェクトを支えて下さった博報堂アドバイザーの石寺さん、吉田さん、古賀さん、寺前さん本当にありがとうございました。



坂下 鈴奈 (さかした すずな)

上智大学

4月のキックオフミーティングから約8カ月の活動が、もうすぐプレス発表という形で終わりを迎えようとしています。今、こうして感想を書かせていただくにあたって、改めてメンバー1人1人の顔を思い出していますが、私のFUTURE生活は常にメンバーに支えられています。

「何か成長できそうだし、チャンスがあるならやってみよう、そんな直感に近い気持ちでFUTUREへの参加を決めた4月。「もっと貢献したい」、そう思いながらも少人数のメンバーにタスクが集中している現実を変えられなかった5~7月。「中途半端にするくらいならやめたほうがいいのではないかな」、そう思ってメンバーに相談までした8月。活動前半は、変わりた、変えたい、そう思いながらも他でやっていた活動が忙しいことを言い訳に、流れに身を任せていました。今思うと本当にもったいない。この時期のことを何度悔やんだでしょうか。

そんな私を大きく変えた最初のきっかけとなったのは、合宿でした。少人数のグループ作業で、「良いロジックチャートをつくる」という1つの目標に向かって本気でぶつかり合い、支え合い、お互いのことを理解していく感覚。ひとつひとつの発言に全力で向かい合い、積み重ね、崩し、パズルのように合わせていく感覚。この感覚を忘れず、メンバー全員とそれを共有してみたい。全員が同じ温度で、でもそれぞれの個性を生かして、1つの目標に向け切磋琢磨し合うことができた。このメンバーならできる。合宿が終わってからそればかり考えてわくわくしていました。副代表になった後も、副代表がどうあるべきか正解なんて見つからない中で、その思いのみを原動力に、自分と、恵大と、みんなを信じることで前に進んできました。

FUTUREで得られたものは、数えきれないほどあります。ロジックチャートを用いた論理的思考、人に伝えるためのプレゼンスキル、限られた時間の中でのタイムマネジメントの重要性。自分自身も大きく変わりました。恐れずに自分の意見を発信すること。相手の言葉の真意を理解する姿勢を常に持つこと。答えのない問いを追い続けあきらめないこと。全部自分が苦学意識を持っていたことです。今でも完璧にできていないとは思いますが、それをするのを恐れなくなったことは大きな一歩です。それは、FUTURE2017のメンバーが、常に本気で向かい合ってくれたから。毎日のミーティングで、時には深夜の電話会議で、時には帰り道のちょっとした会話で、ひとりひとりの個性に触れるたび、自分を変えられた気がしました。副代表という立場は、時に私を悩ませましたが、みんなのことを考えながら毎日スケジュールを組んだり試行錯誤する作業が私はとても好きでした。毎回のミーティングをはじめとした活動すべてをより良くするためなら、大の苦手な夜更かしだって続けられている自分がいました。一緒に走りきってくれて、ありがとう。副代表として私を受け入れてくれてありがとう。支えてくれてありがとう。本当に感謝が溢れてやみません。これからも、FUTUREの活動としてのくりはなくなるけど、仲良くしてくれると嬉しいです。

FUTURE2017の活動は非常に多くの方々に支えられているということを、活動が終わりに近づくにつれてさらに深く実感しています。このような機会を与えて下さった東京広告協会の皆様。調査にご協力いただいた東京サーベイ・リサーチの皆様。毎回の定例会や合宿でのサポート、アドバイス等で私たちを支えて下さったOB・OGの皆様。そして、未熟な私たちに常に真剣に向かい合い、最後まで導いて下さったアドバイザーの石寺さん、吉田さん、古賀さん、寺前さん。間違いない、FUTUREで得られた経験は今後の人生において貴重な財産となり、これからの私たちを輝かせてくれるでしょう。これからのFUTUREはどのように変化していくのでしょうか。これからはOGとして、楽しみに見守り続けていきたいと思います。



沼田 恵大 (ぬまた けいた) 青山学院大学

この8か月間、特に代表になってからの3か月間は、頭からFUTUREが離れることはありませんでした。ご飯を食べている時も、友人と話している時も、常に課題のこと、そして、FUTUREのメンバーのことが頭の中を駆け巡るのです。そして、いま、そのFUTUREの活動が終わりを迎えようとしています。私は、以前の遊び惚けていた自分に戻ってしまうのではないかと少し不安を抱えています。それは、どうなるかわかりません。ただ、8カ月前の自分とは違うと胸を張って言えます。

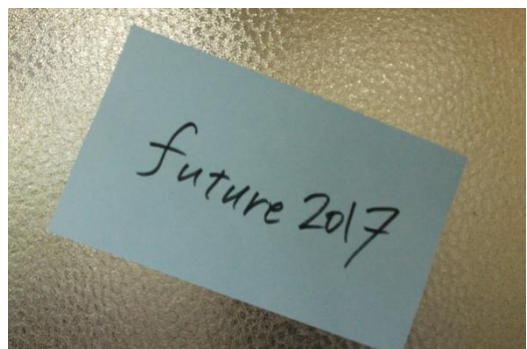
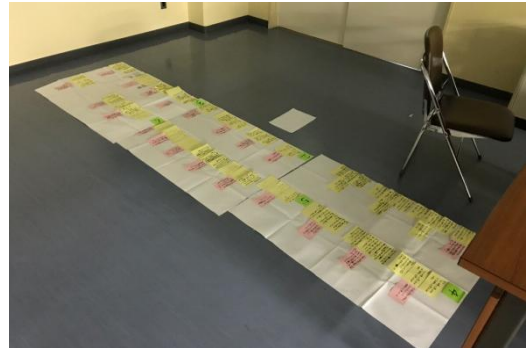
まず、8カ月前、本音で、本気でぶつかり合った、そして時には傷を舐め合った最高の仲間が今の自分にはいます。副代表の鈴奈をはじめとして、陽太、匠、里緒、まさ、もも、青木、奈央美、洋祐、可奈、百合、初美、真帆、明峰、優芽、奈々、貴未、瑞穂、絵理佳、茉子、さくら、莉良、聡太、昂希、洋介、燧、達也、樹。代表として、うまくマネジメントできずに正直やめたくなったこともありましたが、このメンバーといる時は本当に楽しく、このメンバーだからこそ、私はFUTUREにすべてを捧げ、代表としてやってこれたのだと思います。本当にありがとう、そしてこれからもよろしく!

考え方も大きく変わりました。開始当初の私は、自分の意見を通すことを常に考え、チームのことなどまるで考えていない“自己中心野郎”でした。今は、それも変わったと思います。代表になる前、吉田さんに「お前のような奴は、前に立つ資格はない。」と言われました。代表をやろうと考えていた自分にとっては、とても厳しいお言葉で、正直、「なにくそ。」と思っていました。ただ、今考えると、それは今までの自分の振る舞いを振り返る機会を与えてくださったのだと思い、とても感謝しています。あの場面で、強く指摘してくださった吉田さんには、感謝してもしきれません。私は今、相手の意見をまず聞くように心がけています。自分の意見と全く違かったとしても、論破しにかかることはありません。なぜそう思うのかを深掘りするように心がけています。8カ月前の自分では考えられません。このような成長をできたのは、吉田さんが考える機会を与えてくださったこと、そして、100回を優に超える学生ミーティングのおかげであると考えています。

この8か月間は、私の今後の人生において良き思い出となり、誇りであり、時には糧となるはずです。毎日のように終電まで作業やミーティングを行っている大学生がこの世の中に何人いるのでしょうか。8カ月もかけて行一大プロジェクトに携わっている大学生がこの世の中に何人いるのでしょうか。このようなプロジェクトに参加できたことを、本当に幸せに思います。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった高堀さんをはじめとする東京広告協会の皆様、調査にご協力いただきました東京サーベイ・リサーチの皆様、FUTUREに参加する機会を与えてくださり、常に激励してくださった芳賀先生、調査にご回答いただきました約1,200人の皆様、そして、毎週の定例会に参加して下さり、さまざまなことを惜しみなく教えてくださった圭亮さん、佳奈さんをはじめとするOB・OGの皆様、学生の意見を的確にとらえ、鋭いフィードバックをくださった石寺さん、時には厳しい言葉をかけ、学生を鼓舞し続けてくださった吉田さん、どうか学生の意見を理解し、反映させようとしてくださった古賀さん、細かい意見や質問に対しても丁寧に対応して下さり、学生のフォローをしてくださった寺前さん。大変多くの方々のご協力のもと、FUTUREが行われているのだと今実感しております。皆様に心から感謝申し上げます。

今後多くの学生がFUTUREに参加し、それまで経験したことのなかったような濃密な時間を走り抜けることになるでしょう。彼らによって、今後もFUTUREが素晴らしいものになることを願っております。



付)調査票

「大学生とマナー」に関する意識調査

●たいへんお忙しいこととは思いますが、調査へのご協力をよろしくお願い致します●

私たちは「大学生意識調査プロジェクト (FUTURE2017)」という団体で、青山学院大学、駒澤大学、上智大学、専修大学、千葉商科大学、日本大学の学生で構成されています。今年度、このプロジェクトは公益社団法人東京広告協会の協賛及び指導を得て、今日の大学生が「マナー」に対してどのような意識を抱いているのかを調査・研究することになりました。

なお、このアンケートは、今後の研究活動の資料とすることを目的としており、お答えいただいた内容は統計的に処理されますので、ご迷惑をおかけすることは絶対にごさません。少々お時間をいただきますが、ぜひご協力お願い申し上げます。

【ご記入にあたってのお願い】

- ◎ご回答は、ご自身でご記入くださるようお願い致します。
 - ◎ご記入は、黒または青のボールペンか万年筆でお願い致します。
 - ◎ご回答は、記入もれのないよう問1から順番にご記入ください。
 - ◎ご回答の仕方・ご記入の方法は、下記の注意や具体例を参照してください。
- (1) あらかじめ回答項目が用意されている質問では、適する項目の番号に○印をおつけください。
(○印の数は、質問文の最後の【○印はひとつだけ】や【○印はいくつでも】などの指示を守っておつけください)
 - (2) 回答欄しか用意されていない質問では、回答欄の中にご回答を具体的に記入してください。
 - (3) 質問文の最後に【○印はそれぞれひとつずつ】という注意がある場合の具体的な回答例は次のようになります。

この部分が回答欄です。
適する回答の番号に○印をつけてください。
つけ間違えた場合は、×印ではっきりと消して
つけ直してください。

	1. そう 思う	2. まあ そう 思う	3. どちら えとな もい	4. あまり 思わ ない	5. そう 思わ ない
A. いつも一緒に行動している友達がいる人 →	1	②	3	4	5
B. 旅行やイベントなどに頻繁に行っている人 →	×	2	③	4	5

- (4) あらかじめ回答項目が用意されている質問で、あなたの回答と一致するものが無い場合や、それら以外にご回答がある場合には「その他」の項目に用意されている回答欄へ具体的に記入してください。
- ◎ご記入にあたっては、あまり深く考えず気軽にお答えください。
 - ◎ご記入が終わりましたら、ご面倒でも記入もれがないかどうかもう一度ご確認ください。
 - ◎ご不明な点は、下記の調査担当者までご連絡ください。

調査実施団体：大学生意識調査プロジェクト (FUTURE2017)

指導：公益社団法人 東京広告協会

担当者氏名
tel

青 駒 上 専 千 日
No

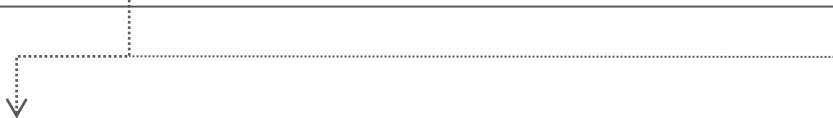
まず、最近の世の中のマナー意識について伺います。

問1. あなたは、最近の世の中のマナーについて、どう思いますか。あなたのお考えに最も近いものをひとつだけ選び、○印をつけてください。
【○印はひとつだけ】

1. 非常に良いと思う	3. 悪いと思う
2. 良いと思う	4. 非常に悪いと思う

問2. あなたは、以前と比べ、最近の世の中のマナーはどのように変化したと思いますか。あなたのお考えに最も近いものをひとつだけ選び、○印をつけてください。【○印はひとつだけ】

1. とても良くなった	3. 変わらない	4. 悪くなった
2. 良くなった		5. とても悪くなった



前の設問で、「1. とても良くなった」「2. 良くなった」「4. 悪くなった」「5. とても悪くなった」とお答え頂いた方に伺います。

問2付問. あなたがそのようにお答えになったのは、どのような理由からですか。具体的にお答えください。

【回答は具体的な文章で】

問3. 以下に、世の中でマナーが問われる内容／領域を挙げています。

あなたは人々のマナーが以前と比べ良くなったと思いますか。それとも悪くなったと思いますか。

それぞれについて、「1.良くなったと思う」「2. 変わらないと思う」「3. 悪くなったと思う」のいずれかに○印をつけてください。

【○印はそれぞれひとつずつ】

		1. 良 く な っ た と 思 う	2. 変 わ ら な い と 思 う	3. 悪 く な っ た と 思 う
A. タバコに関するマナー	→	1	2	3
B. ゴミに関するマナー	→	1	2	3
C. 携帯電話に関するマナー	→	1	2	3
D. インターネット(メールやブログなど)に関するマナー	→	1	2	3
E. SNS(FacebookやInstagramなど)におけるマナー	→	1	2	3
F. 目上の人に対するマナー	→	1	2	3
G. 電車やバスなど公共交通機関内におけるマナー	→	1	2	3
H. 飲酒に関するマナー(※一気飲みの強要や酒の席でのマナー)	→	1	2	3

問4. 以下に、今、世の中で騒がれている「マナー問題」を挙げています。
 それぞれについて、あなたにとってこれらの行為は「1. アリ」「2. ナシ」どちらですか。いずれかに○印をつけてください。
 【○印はそれぞれひとつずつ】

		1. ア リ	2. ナ シ
A. 満員にもかかわらず、電車内でスマホをいじること	→	1	2
B. 許可をとらずに飲食店で料理の写真を撮影すること	→	1	2
C. 宅配便の再配達を何度も頼むこと	→	1	2
D. 喫煙場所以外で電子タバコを使用すること	→	1	2
E. LINEで会社に退職届けを出すこと	→	1	2
F. フリマアプリ(メルカリなど)で現金を販売すること	→	1	2
G. ライブチケットなどを高額で転売すること	→	1	2

問5. 以下に、世の中で一般的にタブーと言われていることを挙げています。
 それぞれについて、あなたはこれらの内容をご存知ですか。「1. 知っている」「2. 知らない」のいずれかに○印をつけてください。
 【○印はそれぞれひとつずつ】

		1. 知 っ て い る	2. 知 ら な い
A. Web上に公開されている記事をそのまま利用し、自分の文章のように使用するのはダメ	→	1	2
B. SNSに無断で他人の写真を載せるのはダメ	→	1	2
C. イヤホンをつけながら、自転車に乗るのはダメ	→	1	2
D. エスカレーターで歩くのはダメ	→	1	2
E. 映画や音楽を無断でアップロード・ダウンロードするのはダメ	→	1	2
F. チケットを転売目的で購入するのはダメ	→	1	2
G. コンビニを利用しないのに、コンビニの駐車場に駐車するのはダメ	→	1	2

次に、あなたご自身のモラルやマナーについて伺います。

問7. あなたご自身は、公共の場や集団の中など社会生活を送る上で、マナーをしっかりと守っていると思いますか。
 あてはまるものをひとつだけ選び、○印をつけてください。
 【○印はひとつだけ】

1. そう思う	3. あまりそう思わない
2. ややそう思う	4. そう思わない

問8. 以下に、マナーに関する様々な意見を挙げています。
 それぞれについて、「1. そう思う」～「4. そう思わない」の中から、あなたのお考えに最も近いものをひとつ選び、
 ○印をつけてください。
 【○印はそれぞれひとつずつ】

	1. そう 思う	2. やや そう 思う	3. あま りそ う思 わな い	4. そ う 思 わ な い
A. きちんとマナーを守る人は、かっこいいと思う →	1	2	3	4
B. きちんとマナーを守ることは、自分にとって得だと思う →	1	2	3	4
C. きちんとマナーを守った方が、モテると思う →	1	2	3	4
D. 今の日本人は、昔に比べてマナーが悪いと思う →	1	2	3	4
E. 日本人は、外国人に比べてマナーが悪いと思う →	1	2	3	4
F. 男性は、女性に比べてマナーが悪いと思う →	1	2	3	4
G. 他人に迷惑をかけていなければ、多少のマナー違反も問題ないと思う →	1	2	3	4

問9. あなたが普段、公共の場や集団の中など社会生活を送る上で、「やってはいけないと思いながらも、ついやってしまうこと」は何ですか。

【回答は具体的な文章で】

問10. あなたは、次に挙げられた項目の行為／行動を、普段することがありますか。
それぞれについて、あてはまるものいずれかに○印をつけてください。
【○印はそれぞれひとつずつ】

		1. する あては まる	2. しない あては まらない
公共 交通 機関	A. 電車やバスなどで携帯電話で話す →	1	2
	B. 電車やバスなどでポータブル端末(iPodなど)を大音量で聞く →	1	2
	C. 電車やバスなどで飲み食いをする →	1	2
	D. 電車やバスなどで化粧をする →	1	2
	E. 電車の床に座り込む →	1	2
	F. お年寄りや妊婦、体の不自由な人に席を譲らない (※譲る人は2に○印、譲らない人は1に○印) →	1	2
	G. リュックを背負ったまま混んだ電車に乗る →	1	2
	H. 優先席近辺でスマホをいじる →	1	2
街頭	I. ゴミを道端に捨てる →	1	2
	J. ゴミを分別しないで捨てる →	1	2
	K. 歩きながらタバコを吸う (※20歳以上で喫煙者の方のみご回答願います) →	1	2
	L. タバコの吸い殻を道端に捨てる (※20歳以上で喫煙者の方のみご回答願います) →	1	2
	M. 歩きながらスマホをいじる →	1	2
	N. 歩きながらハンズフリーで通話をする →	1	2
学校	O. 授業に遅刻する →	1	2
	P. 授業で代返をしてもらう →	1	2
	Q. 授業中に私語をする →	1	2
	R. 授業中に飲み物を飲む →	1	2
	S. 授業中に食べ物を食べる →	1	2
	T. 授業中に音が鳴る状態でスマホで写真／スクリーンショットを撮る →	1	2
	U. 授業中に携帯電話の電源を切らない (※切る人は2に○印、切らない人は1に○印) →	1	2
	V. 授業中に授業と無関係のことでスマホやタブレットをいじる →	1	2
通信	W. 自分の携帯電話の番号を通知しないで電話をかける →	1	2
	X. 友達の携帯電話の番号を勝手に他の人に教える →	1	2
	Y. メールにすぐ返事を出さない (※すぐ返事を出す人は2に○印、出さない人は1に○印) →	1	2
	Z. 食事中にスマホをいじる →	1	2
SNS	a. LINEにすぐ返事を出さない (※すぐ返事を出す人は2に○印、出さない人は1に○印) →	1	2
	b. アルバイトなどの欠席連絡をLINEで行う →	1	2
	c. 目上の人にLINEで絵文字／スタンプを使う →	1	2
	d. 他人が写っている写真・動画を勝手にInstagram ストーリーに投稿する →	1	2
	e. 他人が写っている写真・動画を勝手にSNSに投稿する →	1	2
	f. SNS上の写真で、本人に確認せずにタグ付けする →	1	2

問11. 以下の項目のうち、周りの人がしても気にならない／してしまっても仕方がないと思うことはありますか。
あてはまるものすべてに○印をつけてください。
【○印はいつでも】

1. 譲るべき人がいない場合に、優先席に座る
2. 思い出として残したいので、場所をわきまえずに写真を撮る
3. 時間の節約のために、電車内で化粧をしたり軽食をとる
4. 眠気防止のために、授業中にガムを噛む
5. 体調管理のため、授業中でもコートやマフラーを身につけたままにいる
6. 手早く正確にメモするために、人の話を聞きながらスマホでメモをとる
7. 授業内容に関連する内容を調べるため、授業中にスマホやPCをいじる
8. 授業内容を正しく記録するため、板書・スライドをスマホで撮影する
9. すぐに返さなければいけないLINEなどがあるときは、友人と話していてもスマホをいじる
10. LINEの既読無視を「了解しました」の返事の代わりにする
11. LINEですぐに返信ができない時に、既読無視より未読無視を選ぶ
12. 相手に読みやすくするため、SNSで正式な挨拶や名乗りを省略する
- X. あてはまるものはない

問12. 以下の項目のうち、あなたご自身が、思わずやってしまうと思うことはありますか。
あてはまるものすべてに○印をつけてください。
【○印はいつでも】

1. 譲るべき人がいない場合に、優先席に座る
2. 思い出として残したいので、場所をわきまえずに写真を撮る
3. 時間の節約のために、電車内で化粧をしたり軽食をとる
4. 眠気防止のために、授業中にガムを噛む
5. 体調管理のため、授業中でもコートやマフラーを身につけたままにいる
6. 手早く正確にメモするために、人の話を聞きながらスマホでメモをとる
7. 授業内容に関連する内容を調べるため、授業中にスマホやPCをいじる
8. 授業内容を正しく記録するため、板書・スライドをスマホで撮影する
9. すぐに返さなければいけないLINEなどがあるときは、友人と話していてもスマホをいじる
10. LINEの既読無視を「了解しました」の返事の代わりにする
11. LINEですぐに返信ができない時に、既読無視より未読無視を選ぶ
12. 相手に読みやすくするため、SNSで正式な挨拶や名乗りを省略する
- X. あてはまるものはない

問13. あなたは世の中には、今の時代にふさわしくない／意味がない／無駄だと感じるマナー、礼儀やしきたりが多いと思いますか。あなたのお考えに最も近いものをひとつだけ選び、○印をつけてください。

【○印はひとつだけ】

1. とてもそう思う 2. そう思う	3. あまりそう思わない 4. そう思わない
-----------------------	---------------------------



前の設問で、「1. とてもそう思う」「2. そう思う」とお答え頂いた方に伺います。

問13付問. 以下に、様々なマナー、礼儀やしきたりを挙げています。

このうち、あなたが今の時代にふさわしくない／意味がない／無駄だと感じるものはありますか。

あてはまるものすべてに○印をつけてください。

【○印はいくつでも】

<ol style="list-style-type: none">1. 正月のおせち料理2. 成人式3. 年賀状4. バレンタインの義理チョコとそのお返し5. ハロウィン6. クリスマス7. お歳暮／お中元など季節の贈り物8. 年越しそば9. 六曜(大安・仏滅などの言葉で表す歴注)10. 「拝啓」「謹啓」など、手紙を書く際の決まりごと11. お付き合いのための飲み会12. お酌周りなど宴会での目上の人への配慮13. 「迷い箸」「にぎり箸」などの箸に関するマナー14. 「いただきます」「ごちそうさま」という挨拶15. 職場・アルバイト先への旅行のお土産16. 頭髮に関するルール(長さ・色など)17. リクルートスーツ18. その他 (具体的に：)X. あてはまるものはない
--

問14. あなたは普段、マナーに関して友人・知人から注意をされることがありますか。あてはまるものをひとつだけ選び、○印をつけてください。

【○印はひとつだけ】

1. よくある	3. あまりない
2. たまにある	4. 全くない



前の設問で、「1. よくある」「2. たまにある」とお答え頂いた方に伺います。

問14付問. マナーに関して友人・知人から注意をされた際、あなたのお気持ちに最も近いのはどれですか。あてはまるものをひとつだけ選び、○印をつけてください。

【○印はひとつだけ】

1. ありがたい	2. 恥ずかしい	3. 腹立たしい
----------	----------	----------

問15. あなたは普段、マナーに関して他人(友人・知人を除く)から注意をされることがありますか。

あてはまるものをひとつだけ選び、○印をつけてください。

【○印はひとつだけ】

1. よくある	3. あまりない
2. たまにある	4. 全くない



前の設問で、「1. よくある」「2. たまにある」とお答え頂いた方に伺います。

問15付問. マナーに関して他人(友人・知人を除く)から注意をされた際、あなたのお気持ちに最も近いのはどれですか。あてはまるものをひとつだけ選び、○印をつけてください。

【○印はひとつだけ】

1. ありがたい	2. 恥ずかしい	3. 腹立たしい
----------	----------	----------

問16. あなたは普段、マナーに関して友人・知人に注意をすることがありますか。あてはまるものをひとつだけ選び、○印をつけてください。

【○印はひとつだけ】

1. よくある	3. あまりない
2. たまにある	4. 全くない

問17. あなたは普段、マナーに関して他人(友人・知人を除く)に注意をすることがありますか。

あてはまるものをひとつだけ選び、○印をつけてください。

【○印はひとつだけ】

1. よくある	3. あまりない
2. たまにある	4. 全くない

次に、あなたのマナーに関するしつけや教育について伺います。

問18. あなたは、ご家庭でどの程度「しつけ」に関して、厳しく育てられたと思いますか。

【○印はひとつだけ】

1. とても厳しく育てられた	3. どちらかといえば甘く育てられた
2. どちらかといえば厳しく育てられた	4. とても甘く育てられた

問19. あなたは、小学校や中学校、高等学校などで、「マナー」に関して十分な教育を受けたと思いますか。

【○印はひとつだけ】

1. 十分受けたと思う	3. あまり受けたと思わない
2. ある程度受けたと思う	4. 全く受けたと思わない

問20. あなたは、今後、世の中のマナーをもっと良くするために、誰が「しつけ」や「注意」などを積極的に行っていくべきだと思いますか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

【○印はいくつでも】

1. 自分たち大学生
2. 親・家族
3. お年寄り
4. 学校の先生
5. 地域・近所の人々
6. ニュースや報道番組などのマスコミ
7. マナー広告
8. 政府
9. その他（具体的に： _____）
X. マナーを良くする必要はない

問20付問. あなたが上記で選んだ項目の中で、最も積極的に行っていくべきだと思う項目をひとつだけ選び、その番号を記入してください。

【回答欄に、上記選択肢の番号をご記入ください】

--

次に、日本のマナーと将来のマナーの変化に関するあなたの考えを伺います。

問21. あなたは、日本がマナー先進国だと思いますか。

【○印はひとつだけ】

- | | |
|------------|-------------|
| 1. 非常にそう思う | 3. そう思わない |
| 2. そう思う | 4. 全くそう思わない |

問22. 日本には古くから様々な種類の敬語や季節の挨拶など、人間関係をスムーズにするための礼儀やしきたりがあります。

このことについて、以下の中からあなたのお考えに最も近いものをひとつだけ選び、○印をつけてください。

【○印はひとつだけ】

- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| 1. 重要だと思うし、今後も引き継いでいくべき | 3. 重要だと思わないが、今後も引き継いでいくべき |
| 2. 重要だと思うが、今後なくなっても仕方がない | 4. 重要だと思わないし、今後なくなっても仕方がない |

問22付問. あなたがそのようにお答えになったのは、どのような理由からですか。具体的にお答えください。

【回答は具体的な文章で】

問23. 日本をマナー先進国としてより良くしていくために、思い切って取り組むべきだと思うのはどのようなことですか。

あなたが取り組むべきだと思うものすべてに○印をつけてください。

【○印はいくつでも】

1. ポイ捨ての厳罰化
 2. 深夜(23時～4時)の騒音行為の厳罰化
 3. 屋内施設の全面禁煙
 4. 自転車での歩道通行全面禁止
 5. 路上での歩きスマホの厳罰化
 6. エスカレーターの右側レーン歩行禁止
 7. 電車内でのスマホ／携帯電話での利用を一切禁止する
 8. 満員電車解消のため、全企業に対してフレックスタイム制の導入を義務化
 9. 電車内への監視カメラの設置を義務化
 10. 女性専用車両・男性専用車両の導入義務化(男女の利用する車両の徹底した分類)
 11. 全SNSの実名化
 12. その他 (具体的に：)
 - X. あてはまるものはない

問24. 以下に、日本で広く浸透しているマナーを挙げています。

このうち、あなたが海外に伝えたい、浸透してほしいと思うものはどれですか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

【○印はいくつでも】

1. 食事の前後に「いただきます」、「ごちそうさま」を言う
2. 財布などが落ちていたら交番に届ける
3. 道を尋ねられたら案内してあげる
4. 駅や買い物などで整列する
5. 歩行者を優先的に通す
6. チップを払われないがサービスをする
7. 食べ物を大切に作る
8. 靴を揃える
9. お辞儀、お礼、謙虚な姿勢
10. 食器を片づける
11. 時間を守って行動する
12. 公共の施設をきれいに使う
13. その他（具体的に：）
- X. あてはまるものはない

このページの質問は、最近1年間を振り返ってお答えください。

最近1年間を代表する人物について伺います。

問25. あなたが、「最近1年間の日本」を代表する著名人をひとりだけ選ぶとすると、誰が思い浮かびますか。
 あなたが思い浮かべる「この1年間の日本の顔」を、具体的な個人名でお知らせください。
 【回答は具体的な個人名でひとりだけ】

この1年間の日本の顔は…

--

あなたと広告の関わりについて伺います。

問26. 最近1年間の広告の中で、あなたが好きな広告、嫌いな広告をそれぞれひとつずつ挙げてください。

特にない場合は回答枠外の「X. 特になし」に○印をおつけください。【回答は具体的に】

好きな広告

1. 会社名	
2. 商品名	
3. 広告内容 (タレント・ コピーなど)	

X. 特になし

嫌いな広告

1. 会社名	
2. 商品名	
3. 広告内容 (タレント・ コピーなど)	

X. 特になし

問27. あなたは、普段、関心を持って広告を見る方ですか。

次の中からあなたのお気持ちに最も近いものをひとつだけお選びください。【○印はひとつだけ】

1. とても関心を持って見る	3. どちらともいえない	4. あまり関心を持って見ていない
2. まあ関心を持って見る		5. 全く関心を持って見ていない

問28. 以下に広告について様々な意見が挙げられています。

それぞれについて、あなたのお気持ちに近い方をひとつずつお選びください。

【○印はそれぞれひとつずつ】

A. 最近の広告は…

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1. とても興味を引かれるものが多い | 2. くだらない広告が多い |
|--------------------|---------------|

B. 広告が伝える情報は…

- | | |
|--------|-----------|
| 1.役に立つ | 2. 信用できない |
|--------|-----------|

C. 広告は…

- | | |
|--------------|----------------------|
| 1. おもしろければいい | 2. 商品やサービスの内容を伝えればよい |
|--------------|----------------------|

D. 広告関係の職業には…

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. 将来携わってみたい | 2. あまり興味がない |
|--------------|-------------|

E. 現代の広告業
(広告代理店など)は…

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. 最先端の情報産業だと思う | 2. 最先端の情報産業とはいえない |
|-----------------|-------------------|

最後に、あなたご自身のことについて伺います。

問29. あなたの性別を教えてください。【○印はひとつだけ】

1. 男性 2. 女性

問30. あなたの満年齢を教えてください。【回答は具体的な数字で】

満 歳

問30付問. 20歳以上の方にお伺いします。
現在、あなたは喫煙をしていますか。
【○印はひとつだけ】

1. 喫煙している
2. 喫煙していない

問31. あなたにきょうだい(兄弟姉妹)はいらっしゃいますか。
【○印はひとつだけ】

1. いる
2. いない(一人っ子)

問32. あなたは、これまでに彼氏彼女がいたことはありますか。
【○印はひとつだけ】

1. ある(交際中も含む)
2. ない

問33. あなたの血液型を教えてください。
【○印はひとつだけ】

1. A型 4. AB型
2. B型 5. 不明
3. O型

問34. あなたの現在のお住まいは、次のどちらですか。
【○印はひとつだけ】

1. 親と同居(実家)
2. 親と別居(ひとり暮らし・下宿・寮など)

問35. あなたの大学名を教えてください。
【○印はひとつだけ】

1. 青山学院大学 4. 専修大学
2. 駒澤大学 5. 千葉商科大学
3. 上智大学 6. 日本大学

問36. あなたの学年を教えてください。【回答は具体的な数字で】

年

問37. あなたの専攻を教えてください。「3. その他」の方は、具体的な学部名もご記入ください。
【○印はひとつだけ】

1. 文系
2. 理系
3. その他(学部名:)

問38. あなたは、これまでにスポーツ／体育会系の部活動に所属したことはありますか。【○印はひとつだけ】

1. 所属している 2. 所属したことがある(現在は所属していない) 3. 所属したことはない

引き続き、あなたご自身のことについて伺います。

問39. あなたは、友人や知人から自分がどう思われているか、気になる方ですか。

【○印はひとつだけ】

- | | |
|-----------------|--------------|
| 1. とても気になる | 3. あまり気にならない |
| 2. どちらかと言えば気になる | 4. 全く気にならない |

問40. あなたは、自分のことを「まわりの空気が読めるタイプ」だと思いますか。

【○印はひとつだけ】

- | | |
|------------|--------------|
| 1. とてもそう思う | 3. あまりそう思わない |
| 2. ややそう思う | 4. そう思わない |

問41. あなたは、自分自身をどの程度「ワガママ」だと思いますか。

【○印はひとつだけ】

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. とてもワガママだと思う | 3. あまりワガママではないと思う |
| 2. どちらかといえばワガママだと思う | 4. 全くワガママではないと思う |

問42. あなたは、自分のことを「合理的なタイプ」だと思いますか。

【○印はひとつだけ】

- | | |
|------------|-------------|
| 1. とてもそう思う | 3. そう思わない |
| 2. そう思う | 4. 全くそう思わない |

引き続き、あなたご自身のことについて伺います。

問43. 以下にいろいろな考え方を挙げています。

それぞれについて、あなたの考え方に近いものはどちらですか。

「1. そう思う」「2. そう思わない」のいずれかに○印をつけてください。

【○印はそれぞれひとつずつ】

		1. そう 思う	2. そう 思わ ない
A. 正直者はバカをみると思う	→	1	2
B. ウソをついてもバレなければいいと思う	→	1	2
C. 理想の実現のためには、多少の犠牲は仕方ないと思う	→	1	2
D. 長幼の序(子供は大人を敬い、大人は子供を慈しむというあり方)は良い考えだと思う	→	1	2
E. 成果主義は正しいと思う	→	1	2

問44. 以下にいろいろな行動を挙げています。

それぞれについて、あなたが行動をするときに「1. あてはまる」「2. あてはまらない」のいずれかに○印をつけてください。

【○印はそれぞれひとつずつ】

		1. あて はま る	2. あて はま らな い
A. 近くのコンビニであれば、すっぴんや寝癖がついていたりしても気にならない	→	1	2
B. 広く広い部屋に住めるなら、まったく知らない人とルームシェアもできる	→	1	2
C. 多くのシチュエーションでファストファッション(ユニクロ等)の洋服で事足りる	→	1	2
D. 一人で映画を観に行くことに抵抗はない	→	1	2
E. クーポンなどの割引サービスをデートで使うことに抵抗がない	→	1	2
F. カーシェアリング/レンタカーでデートに行くことに抵抗がない	→	1	2
G. 洋服のレンタルサービスを利用することに抵抗はない	→	1	2
H. ファストフードの食事が続いても気にならない	→	1	2
I. オンラインの民泊予約サービス(Airbnbなど)を利用することに抵抗はない	→	1	2

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。



FUTURE 2017
(since April 2017)

大学生1,000人にきいた

『大学生のマナー』に関する意識調査

2017年12月発行

編集 大学生意識調査プロジェクト(FUTURE2017)

発行 公益社団法人 東京広告協会
東京都中央区銀座7-4-17(電通銀座ビル7階)
電話 03-3569-3566(代表)